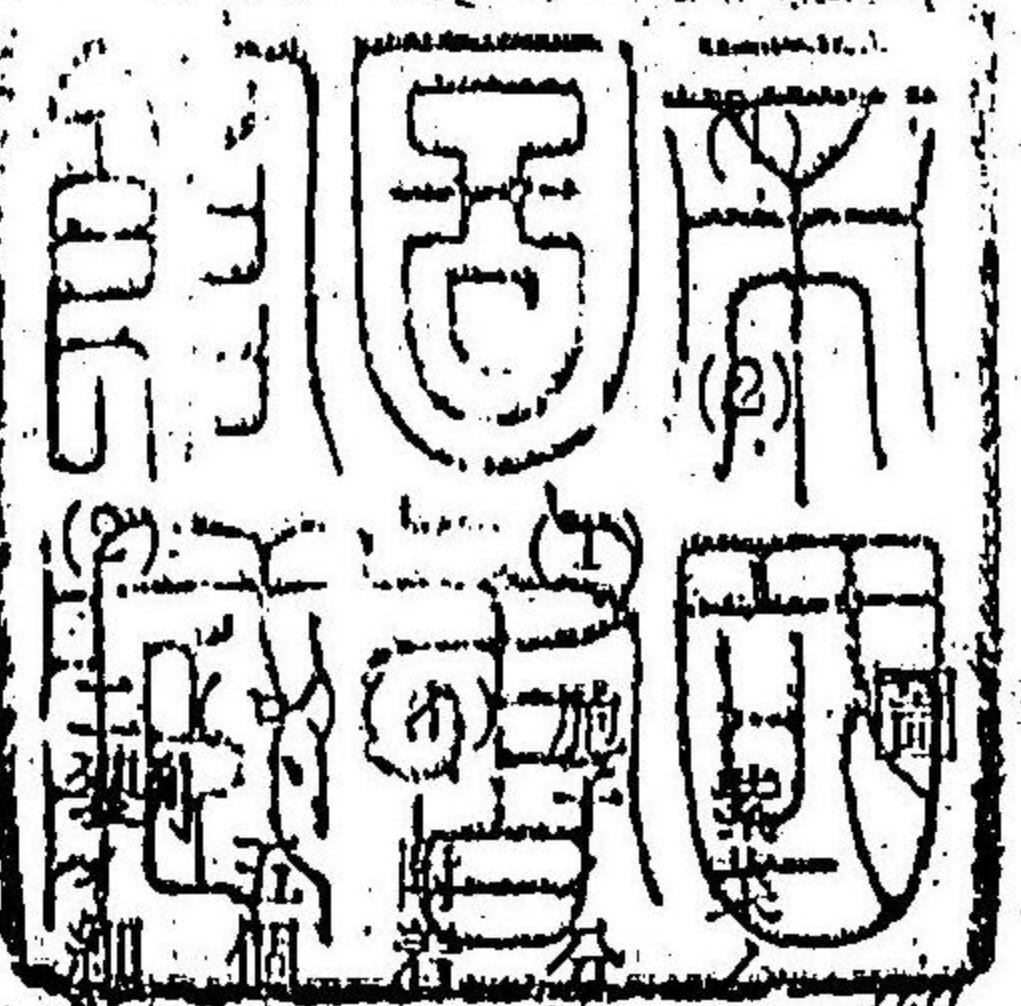


14
136

明治三十二年度

三重縣水産試験場事業報告



紫菜ノ發生初期

(1) 分裂セルモノヲ顯微鏡下ニ照セルモノ(七百五十倍)

(2) 分裂セルモノノ中心ニ分裂セントスルモノ

(3) 分裂セルモノノ細胞ニ分裂セルモノ

(4) 分裂セルモノノ細胞ニ分裂セルモノ

(5) 紫菜ノ肉眼ニ觸ル、ニ至リシモノ(自然大)

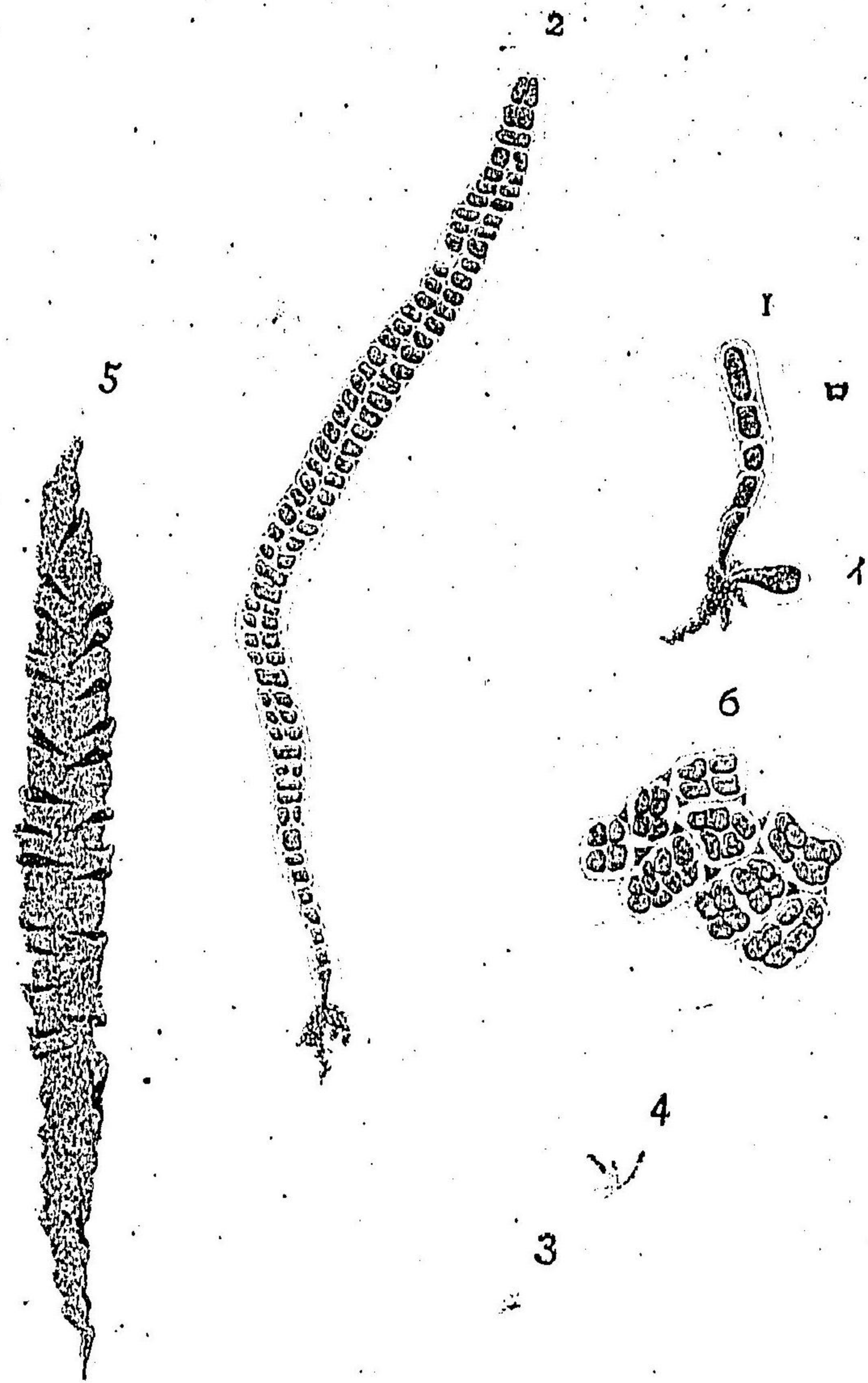
(6) 十二月廿九日採收セルモノ(自然大)

(7) 紫菜ノ胞子(種子ト全シキモノ)ヲ顯微鏡下ニ照セルモノ(七百五十倍)

(8) 一月十八日採收セル紫菜(自然大)

(9) 三、四月ノ交採收セル紫菜(自然大)

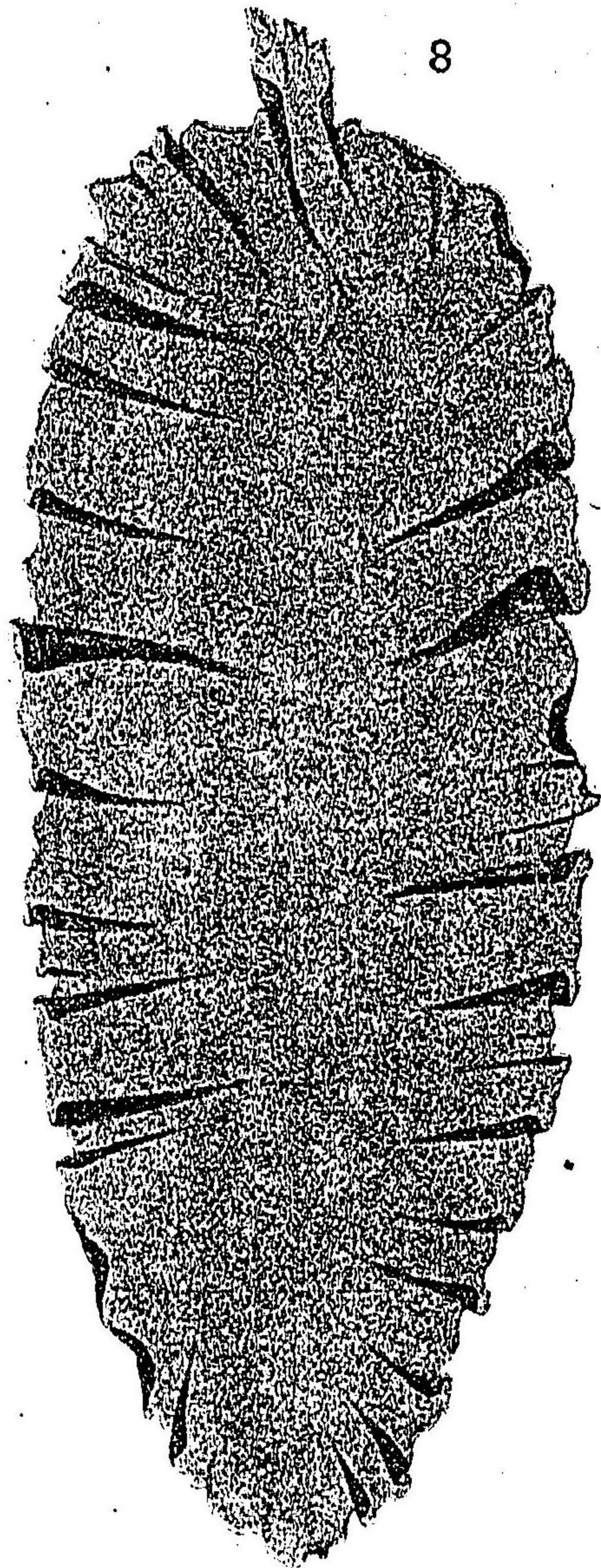




紫 菜 發 生 圖



7



8

明治三十三年重縣水產試驗場事業報告

目次

水產試驗場設立理由及其願末	一頁
製造部	五頁
一、海參	全頁
一、乾海苔	九頁
蕃殖部	十一頁
一、紫菜	全頁
調查部	二十頁
一、漁業調查報告	全頁
二、介類生殖期節調查	六十一頁

重縣水產試驗場事業報告

水產試驗場設立理由及其顛末

內湖之水入如クニシテ... 漁民之ニ依リテ其生計ヲ保持シ世間幾百萬民カ其滋養ニ味ヲ供シ滋養ニ資スルモノ亦之ニ依ラントス而シテ年ニ豐凶アリテ漁業ノ不振ナリ...

コト夫レ宏大ナラスヤ然レトモ斯業ノ爲メニ養殖保護ヲ企テ耕勞施肥ノ舉ヲ圖リシモノ縣下幾何カアル從來未タ其完備セシモノアルヲ聞カサルナリ若シ一意専心進シテ捕漁採撈ヲ勉ムルモ退テ之カ蕃殖ノ計畫ヲナスニアラスンハ如何ニ豐富ナル天興ノ寶庫モ時期アリテ竭クルニ至ラン見ヨ南牟婁郡木本町以南沿岸ニ魚族ノ寄來セザル既ニ十數年之カ爲メ最...

水産調査報告

二 ラス概テ舊來ノ慣習ニ安シ製法ノ改良ヲ謀ラス悲境落魄粗製造ノ流毒ハ日ニ其勢ヲ逞シクシ縣下唯一ノ產物將ニ類敗ニ瀕セントス是レ職者ノ夙ニ憂慮スル處ナリ獨リ是等ノ品ニ止マラス乾和布ノ如キ鹽魚ノ如キ乾魚ノ如キ或ハ控粕肥料ノ如キ之ヲ遠キニ輸シ久シキニ瀕レハ色澤ヲ失シ濕醜微敗復タ用フ可カラズ之レ必竟往時比隣ニ販賣セシ餘習ノ致ス所ニシテ製造ノ精粗保存運輸ノ適否ヲ詳悉セサルニ由ル故ニ時ニ巡回教師ヲシテ學理ヲ講說シ或ハ實驗ヲ談話セシメ以テ斯業ニ關シ指導スル所アリシト雖トモ其業務方法等尙ホ未タ完全ヲ缺キ從テ之カ遺利少シトモ抑モ本縣ノ地勢タル西北ニ山ヲ負ヒ東南ハ海ニ接シ其區域ハ伊賀伊勢志摩及ヒ紀伊ノ四ヶ國ニ跨リ二市十五郡ヲ管轄ス就中二市十一郡ハ瀕海ノ地ニシテ一大灣ト五小灣即チ伊勢ノ大灣ト其南部外海方面ニ五ヶ所灣志摩ニ英虞及的矢ノ兩灣紀伊ニ尾鷲輪内ノ兩灣ヲ有シ且ツ志摩度會南部南北牟婁ノ四郡ハ茫漠無涯ノ太平洋ヲ控ヘ駿潮往來ノ要區ニ當ル而シテ陸地亦池沼河川多ク從テ各種ノ鱗介苔藻ノ豐饒ナルコト實ニ他縣ニ冠タリ然ルニ從來水産業ノ萎靡不振ナル以テ生計ヲ營ムモノラシテ比較的ニ少數ナラシム今明治三十二年末ノ統計ニ依レハ漁業者ノ戶數ハ一萬三千八百八十九戶人口六萬〇七百十六ニシテ之ヲ本縣人口百萬四千九百五十八ニ比スレハ僅ニ廿分ノ一、二強ニ過キス而シテ其漁獲物總額ハ二百十九萬八千七百九十三四ニシテ之ヲ人口ニ配分スル時ハ尙ホ收利ノ不足ナルヲ感ス故ニ今後益々斯業ノ振興ヲ期シ國富ノ増進ヲ圖ラントスルニハ其方法手段夥多アリト雖特ニ水産試驗ヲ設ケ學理ヲ應用シ實地ニ試驗ヲ行ヒ漁法ノ精ヲ究メ漁具ヲ撰ヒ水族ノ保護蕃殖及人工育養等ヲ謀リ水産物製法ノ精密ニ勉メ之ヲ海外ニ諮ヒ之ヲ我國ニ詢リ新術良法ヲ縣下ニ報シテ普ク當業者ニ知悉セシメ漸ク其業ヲ盛且大ナラシムルノ必要ナルヲ認メ明治三十二年度ニ於テ沿海適當ノ場所ヲ撰ヒ試驗場ヲ設立スルニ決定シタリ

四月十九日農商務省指令水第三二三號ヲ以テ水産試驗場設立ノ認可アリ

五月二日日本縣告示第五九號ヲ以テ縣廳内ニ水産試驗場ヲ置キ並ニ事務取扱フ旨ヲ告ホス

本場位置調査手續

水産試驗場及製造出張所並ニ養殖場ノ位置ハ豫メ本縣技手ヲシテ之ヲ調査セシメ而シテ本場ハ本縣沿海中央ノ地ニシテ左ノ事項ニ該當スル處ニ製造出張所ハ度會郡南部南北兩牟婁郡及伊勢内灣方面中漁業製造共ニ盛ナル所ニ各々一ヶ所養殖場ハ縣下沿岸中其地勢及海底土質等海鼠介類及海藻ノ移殖若クハ蕃殖ニ適當ナル所ヲ調査セシメタリ

三重縣水産試驗場事業報告

- 一 市街地内ニシテ海岸ナル處
 - 一 沿岸ハ漁船定碇ニ便利ナル處
 - 一 魚類主要集散地
 - 一 魚類買收ニ便ナル個所
 - 一 用水及飲料水ノ充分ナル處
 - 一 熱心ナル當業者ノ居住セル部落
 - 一 運搬ニ便ナル個所
 - 一 沿岸ニ五反歩以上ノ本場建設敷地ヲ有スル處
 - 一 當業者參觀ニ便ナル個所
 - 一 郵便局若クハ電信局ノ設置アル處
 - 一 異種水族ノ多産ナル所
 - 一 内外兩海ニ接續セル處
 - 一 日用品ノ供給ニ不便ナラサル處
- 三 而シテ尙ホ精査ノ爲メ農商務技師ノ派遣ヲ申請シタルニ九月ヲ以テ農商務技師沓川溫出張シ實地ニ就キ其適否ヲ再調査セ

水産調査報告

- 四 シニ左ノ個所ヲ以テ適當ノ地下認定セシヨ以テ漸時之ヲ設置セントスルノ計畫ナリ
- 一 水産試験場 志摩郡濱島村
 - 一 製造出張所 南牟婁郡北輪内村大字三木浦
 - 二 全 北牟婁郡引本町大字引本
 - 三 全 度會郡吉津村大字神前
 - 四 全 河越郡若松村大字南若松
- 海中養殖場
- 一 牡蠣養殖場 北牟婁郡長島町大字長島地先
 - 二 全 志摩郡鶴方村大字鶴方地先
 - 三 全 志摩郡鏡浦村
 - 四 全 志摩郡的矢村大字的矢地先
 - 五 全 桑名郡伊會島村大字松蔭地先
 - 六 鯛養殖場 志摩郡的矢村大字的矢地先
 - 七 真珠介養殖場 志摩郡越賀村大字越賀浦地先
 - 八 蛤養殖場 桑名郡伊會島村大字松蔭地先
 - 九 灰介養殖場 志摩郡桃取村假屋灣内
 - 十 全 桑名郡伊會島村大字松蔭地先
 - 十一 紫菜養殖場 桑名郡伊會島村大字松蔭地先

以上

九月十八日桑名郡伊會島村大字松蔭新田地先海面百三十六町八反十歩ヲ本場養殖地ニ使用スルコトニ決定ス

九月二十九日志摩郡桃取村大字桃取地先海面十五町八反六畝十七歩志摩郡越賀村大字越賀浦地先海面一町壹反四畝十五歩ヲ本場養殖場ニ使用スルコトニ決定ス

九月二十日本場ヲ志摩郡濱島村ニ設置スルニ確定セシモ本年度ハ民家ヲ借り事務所ニ充ツルノ豫定ナリシヲ以テ同村大字濱島七百十二番地ニ所在ノ家屋ヲ借り之ニ幾分ノ修繕ヲ加ニ移駐ノ準備ヲナセリ

十月三十一日本縣告示第五百五十九號ヲ以テ本縣水産試験場ヲ志摩郡濱島村大字濱島七百十二番地ニ移轉シ來ル十一月一日ヨリ全所ニ於テ事務ヲ取扱フ旨ヲ告示ス

十二月八日内務省指令甲第二四三號ヲ以テ桑名郡伊會島村大字松蔭新田地先海面使用ノ許可アリ而シテ本年度ニ於ケル本場業務ハ漁撈部ニアリテハ無何鉤延細試驗及利害調査製造部ニアリテハ鹽鮒、鹽鱈、鰺、海參、淡菜、搾粕肥料ノ製造試驗蕃殖部ニアリテハ鳥介、蛤、海鼠ノ養殖試驗調査部ニアリテハ現時使用セル漁具漁法并水産物製造法ノ調査及縣下重要魚族ノ回遊期節、重要介藻類ノ生殖期節調査ヲ施行スル豫定ナリシモ本場創設ノ際ナリシヲ以テ場員ノ任命位置ノ選定其他事業施行ニ必要ナル諸般ノ設備ヲ整ヘンカ爲メニ多クノ時日ヲ要シ從テ漁期ニ晚レ時期ヲ失シ或ハ製造場及器具ノ完備セザリシ爲業務ノ進行ヲ阻礙セルモノ少ナカラス爲メニ豫定事業ノ全部ヲ施行スルニト能ハザリシ以下已ニ本年度ニ於テ施行シタル業務成績ノ概況ヲ序述表示シ以テ報告トナヌ

製造部

一、海參 560

從來本縣ニ於テ海參ヲ製スルハ主ニ一志、度會、志摩ノ三郡ニシテ志摩郡ヲ以テ多産ノ地トス度會郡之ニ次キ一志ハ其産僅少ナリ志摩郡神明村ハ古來ヨリ著名ノ地ニシテ其産額モ亦多シトス而シテ縣下各地ニ於ケル從來ノ製造方法ハ一二ノ改良法ヲ除クノ外多クハ海鼠ノ腹ヲ割キ腸ヲ除キ鍋ニ入レ蒸煮或ハ煎煮シ之ヲ糸、細繩、又ハ細竹ニ通シ竈上ニ吊シテ自然ニ煙乾セシムルモノニシテ漁業者各自之ヲ營ミ從テ其方法モ區々ニ出テ製品均一ナラス會テ之レカ改良ヲ圖ランカ爲メ或ハ當局技師ヲ聘シ或ハ組合ヲ組織シ規約ヲ設ケ製造ノ時期原料ノ捕獲法大サノ制限製造法荷造法販賣法等ヲ定メ爲ニ一時ハ其効著シク擧リ品質良好ニ趣キ價格モ又上騰シ大ニ其面目ヲ改メタリシカ爾來其規約頗ニ弛ミ現今ニ至テハ益々粗製濫造ヲ極メ市價ヲ落シ失フ處ノ利少ナカラサルニ至レリ依テ本場ハ之レカ改良發達ヲ計ランカタメ製造試驗ニ着手セリ然レトモ尙本場創設ノ際ニシテ未タ製造場ノ建築ナク器具ノ設備ナキヲ以テ當業者ノ製造場ヲ借り受ケ之レカ試驗ヲ行ヒタリ

原料

原料ハ志摩國濱島村灣内ノ産ニシテ三十三年三月二日漁夫ノ方言ニ於テ稱スル網ヲ以テ捕獲シタル種ニシテ其種類二種アリ青子、赤子はナリ青子ヲ多シトス而シテ青子ハ又ララト稱シ赤子ヨリ波浪少ナキ處ニ多ク棲息シ肉質厚ク柔カニ青色ヲ帶ヒ製品黒色ヲ呈シ品質宜シ赤子ハ又にはト稱シ青子ヨリ波浪稍荒キ處ニ産シ肉質硬ク褐色ニシテ製造後帶紺褐色トナリ品質前者ヨリ劣ルカ如シ故ニ本試驗ニ於テハあをこノミヲ用ヒタリ

本村ハ古來ヨリノ慣行ニヨリ、毎年舊二月一日ヲ以テラらむけト稱シ内灣ニ於ケル海鼠網手線網漁採藻等ヲ許シ舊十月亥ノ日(方言イのこトイフ)ノ日ヲ以テラらむめト稱シ以來之等漁業ヲ禁ス之レ十月以後ハ鱈及鱈ノ漁期ニシテ之レカ妨害トナルニヨルト云フ故ニ海鼠モ此期間外ハ捕フルコトナシ

製造法

漁夫ヨリ購入シタル海鼠ヲ直チニ半切桶ニ入レ順次脱腸管(亞鉛板製ニシテ二種アリ各長サ一尺ニシテ一ハ徑二分五厘一ハ徑三分アリ海鼠ノ大小ニヨリ分チ用ユ)ヲ以テ肛門ヨリ口外ニ出テサル様注意シテ刺シ腸ヲ丁寧ニ除去シ海水ヲ入レタル半切桶ニ入レ一々洗滌刷毛(長一尺位ノ亞鉛線ノ先端ニ二十位獸毛ヲ附シタルモノ)ニテ腹中ノ汚物ヲ掃除シ后又一度海水ニテ能ク洗ヒ大小ヲ區別シテ取上ケ蒸熟ス即チ平釜ニ淡水ヲ入レ水量百分ノ二ノ食鹽ヲ加ヘ一旦蒸沸シタル后淡水少許ヲ注キテ沸騰ヲ止メ海鼠凡ソ十二貫目内外ツ、投入シ蒸ルコト五分時ニシテ水面ニ浮上スルモノヲ取り揚ケ筒(棒ノ先端ニ釘ヲ付シタルモノ)ヲ以テ腹部ヲ刺シ内部ニ含有セル水分ヲ排出セシメ再ヒ釜ニ入レ蒸熟セリ其蒸熟ノ時間ハ大ハ一時二十分乃至三十分小ハ五十分乃至一時間トス蒸沸中ハ釜中ノ湯ヲシテ沸騰セシムルコトナク時々釜中ヲ攪拌シ常ニ浮上スル泡沫ヲ除キ充分蒸熟シタル海鼠ハ攪網ニテ抄ヒ揚ケ蒸籠ニ排列シ冷却セシメタル后燻乾シ表面ノ水分ヲ去リ日乾スルコト晴天五日後四斗樽ニ入レ蓋ヲナシ五日間器藏シ濕氣体ノ外部ニ滲出スルニ至リ蒸籠ニ排列シ一日々乾シ(八分乾トナル)以テ色付ヲナセリ即チ釜ニ淡水三斗ヲ入レ乾蓬葉百〇五分(淡水一斗ニ乾蓬葉三十五匁ノ割合ニシテ夏期採取シタルモノ)ヲ加ヘ五十分間煎煮シ后殘滓ヲ除キタル煎汁中ニ入レ蒸ルコト大ハ一時二十分小ハ一時間弱取リ揚ケ蒸籠ニ排ラヘ日乾スルコト晴天四日又四斗樽ニ入レ蒸籠スルコト五日取出シ晴天二日間日乾シ以テ全ク製成ル

今海參製造上最モ注意スヘキ要點ヲ述ブレハ左ノ如シ

一原料ノ選擇

原料ハ最モ新鮮ニシテ可及的大形ノモノヲ撰フヘシ何トナレハ原料新鮮ナラサルモノハ如何ニ其製法良好ナルモ善良ナル製品ヲ得ル能ハス又海鼠ハ製造后甚シク縮小シ歩減多キモノナレハ可及的大形ノモノヲ用ヒサレハ價值少ナキヲ以テナリ故ニ一個ノ重量六十匁以下ノモノハ用ヒサルヲ可トス又体ニ瑕アルモノハ製品形状ヲ損シ品位ヲ損スルモノナレハ網獲シテ瑕ナキモノヲ撰ミ錯等ニテ得タルモノハ良シカラス

二 脱腸洗浄ノコト

脱腸ハ腹部ヲ割カス脱腸器ヲ用ヒテ丁寧ニ洗除シ且ツ洗滌刷毛ニテ腹中ヲ掃除ス可シ腹ヲ開割シタル者ハ製了後或ハ曲リ或ハ捻レ或ハ二又状ヲ呈シ品位賤劣トナリ脱腸充分ナラザレハ色澤ヲ損シ腐敗ヲ致ス者ナレハ之ヲ怠ルヘカラス三煮熱ニ注意スルコト

煮熱ハ充分ニシ且ツ大小ヲ分チテ煮ルヘシ大小ヲ混シテ煮熱スレハ其受熱ニ差違アルヲ以テ其熱度均一ナラスタメニ製了后時日ヲ經ルニ從ヒ色澤ヲ損シ腐敗ヲ起スモノナリ又煮熱用ニ供スル水ハ鹽水ヲ用フ可シ之レ淡水ヲ以テ煮ルトキハ製品硬キニ過キ刺折シ形狀ヲ毀傷シ品位ヲ墮スノ恐アルモ稀薄鹽水ヲ以テスルトキハ肉刺硬固ニ失セス色澤美トナル然レトモ鹽量ハ水量ノ百分ノ二ヲ超ユヘカラス若シ之ヨリ過量ナルトキハ濕氣ヲ吸收シ腐敗ヲ招クノ患アリ煮熟中ハ決シテ沸騰セシム可カラス一度釜ニ投シテヨリ海風浮上スルニ至レハ直ニ之ヲ抄ヒ上ケ針ニテ腹部ヲ刺シ水分ヲ吐出セシム可シ若シ之ヲ怠ルトキハ肉破裂シ製品ノ品位ヲ落ヌ又時々釜中ヲ攪拌シ浮上スル泡沫ハ悉ク之ヲ抄ヒ去ル可シ否ラサレハ泡沫ハ海風ノ肉身ニ付着シタメニ光澤ヲ失フモノナリ
四乾燥ヲ充分ニスルコト

元來海鼠ハ水分ヲ含ムコト多キモノナレハ煮熟后直チニ日乾スレハ乾燥遲緩ニシテ或ハ腐敗スルノ患アルヲ以テ初メ焙乾シ上部ノ水分ヲ發散セシメタル后日乾スルヲ良トス然レトモ焙乾ノ際火力強キトキハ水ブクレ等ヲ生シ品位ヲ落ヌモノナレハ之ニ注意セサルヘカラス凡ソ火力ハ攝氏寒暖計三十五度内外ヲ良トス又乾燥ニハ日乾及電氣ヲ交々行ヒ充分乾燥セシム可シ否ラサレハ梅雨ノ候ニ至テ濕氣ヲ吸收シ色澤ヲ損シ遂ニ腐敗スルニ至ルコトアリ又色付ハ製品ノ色澤ヲ美麗ナラシムルモノナレハ必ス之ヲナスヘシ
步止リ

水産調査報告

步止リ左表ノ如シ

製造年月日	原料ノ産地	生重量	全上脱腸量	全上煮揚量	全上乾燥量	步止リ
三十三年三月二日	志摩郡 英虞灣内	三六三〇g	一八〇〇g	五〇〇g	一〇三〇g	三步一厘余

上表ニ依ルトキハ步止リハ三步一厘余ニシテ原料百貫目ヨリ三貫二百二十五匁余ノ製品ヲ得ル割合トス而シテ步止リハ原料ノ産地大小種類鮮否及採收時等ニヨリ差異アルモノナレハ只一回ノ試験ニヨリ茲ニ論スルヲ得ヌ是等ハ逐次試験ヲ積ンテ報告スル處アル可シ

一、乾海苔 わまのり

從來本縣ノ乾海苔ハ志摩以南度會南北牟婁ノ諸郡ニ至ル外海方面ノ地ヨリ産シ皆いわのりヲ以テ製スルモノニシテ内灣産ノあまのりヲ用ヒテ之レカ製ヲナスモノナカリシカ近年桑名郡伊曾島村地方ニ於テ東京風ニ倣ヒ紫菜ノ培養及ヒ之レカ製造ヲ營ムモノアルニ至レリ然レトモ其方法拙劣製品粗雜ニシテ價格廉ニ未タ以テ充分ナル結果ヲ得ヌ空シク遺利ヲ棄捨スルノ憾ナシトセス依テ本場ハ當業者ヲシテ改良スヘキ點及製造上注意スヘキ諸點ヲ知ラシメンカ爲桑名郡伊曾島村ニ於テ紫菜養殖試験ト共ニ之レカ製造試験ヲ行フコト、ナセリ而シテ製造所ハ全地設立ノ赤潜水産株式會社(該會社ハ明治三十年九月ノ創設ニ係リ紫菜ノ培養製造ノ業ヲ營ム)ヲ以テ充テタリ

原料及採收法

原料ハ桑名郡伊曾島村海中養殖場ニ於テ培養セルモノニシテ其ノ採收ノ方法ハ小潮時ノ干潮ニ於テハ(海水悉ク低落セヌ水深一尺以上アルヲ以テ)採女ヲシテ舟上ヨリ各養場ヲ廻ハリツ、手指ヲ以テ採收セシメ又大潮時ノ干潮ニ於テハ(海水悉ク低落シ養場ノ海底露出スルヲ以テ)採女ヲ海ニ入レ各養場ヲ廻ハリテ之ヲ採採セシメタリ

三重縣水産試驗場事業報告

製造法

採收シタル紫菜ハ製造場ニ運ヒ撰別板ニ出シ箸ヲ以テおをさ其他ノ夾雜物ヲ除キ箆又ハ箆上ニ入レ臺上ニ載セ置キ翌朝未明ニ至リ他ノ箆ニ少シツ、移シ入レ河水（木曾河水ニシテ干潮時ニ於テ汲ミ取り置キタルモノ又ハ河水ヲ引用セル滯中ノ水ヲ用ヒ鹹味殆ントナキモノ）ニテ能ク洗ヒ塵芥ヲ除キ水分ヲ滴下セシメタル後少シツ、叩キ盤ニ載セ両手ニ持テタル薄刃庖丁ニテ能ク細カニ削ム削ミタルモノハ淡水（木曾河水ニシテ干潮ノ際汲ミ取り置キタルモノ）ヲ入レタル濾桶ニ入レ棒ニテ能ク攪拌シ數滴ノ胡麻白絞油ヲ滴下シテ其泡沫ヲ消ス而シテ豫シメ用意セル濾臺上ニ備ヘタル腹篋ノ枠中ニ濾桶内ノ水海苔ヲ濾箱ニテ平均ニ抄キ込ミ棒ノ周圍ヲ輕ク敲キ水ヲシテ早ク滴下セシメ棒ヲ除キ濾臺ノ前ナル方言急ベスニ移シ再ビ前ノ如クシテ抄製ス而シテ急ベス上ノ箆數十枚ニ及ヘハ取り卸シ暫時水分ヲ滴下セシメタル後乾場ニ運ヒ乾燥スルモノトス

水産調査報告

乾場ハ南東ニ面シ日光ノ充分照射スル處ニシテ杭ヲ地上稍斜メニ樹ヲ横ニ丸竹四本ヲ渡シ其上ヲ腹又ハ腹篋ヲ一面ニ敷キ上ニ篋ヲ載セ其上ニ腹或ハ腹篋ヲ一面ニ平均ニ敷キ其上ヲ丸竹四本ニテ押サヘ繩ニテ結ヒ四段トナシタルモノニシテ之ニ海苔ノ附キタル方ヲ内方ニ裏ヲ外方ニ向ケ各箆ノ一端ヲ少許ツ、重テ合セテ並ベ其合セ目及左右兩端ヲ方言めくしト稱スル竹ニテ押ヘ風ノタメ箆ノ飛散スルヲ防グ而シテ凡ソ晴天二時間半乾カシタル后更ニ表面ヲ出シ乾スコト凡ソ三十分間ニシテ全ク乾燥セリ

乾キタルモノハ乾場ヨリ取り外ツシ製造納屋ニ運ビ方言割キ板ヲ以テ一々割キ取り直テニ函ニ詰メ本場ニ送り焙乾シテ貯藏函ニ入レ密封シ置ケリ

製造ハ三十三年一月十三日ヨリ今年四月十九日ニ至ル間六回ニ行ヒタリ而シテ其抄製枚數ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一回 百貳拾壹枚

第二回 八百四拾四枚

第三回 千八百八十二枚

第四回 千四百五十五枚

第五回 千三百四十九枚

第六回 千三百〇三枚

合計 六千貳百五十四枚

（但棒ノ寸法長六寸八分巾六寸五分ニシテ東京地方ニテハ之ヲ小判ト云フ）

蕃殖部

紫菜 わせのり

從來伊勢灣ニ於テハ所々紫菜發生スル箇所多キモ未タ之カ蕃殖ノ法ヲ講スルモノナカリシカ木曾川改修ノ爲メ桑名郡伊會島地先ニ突堤ヲ築キ木曾揖斐兩川ノ流域ヲ分割シテ以后突堤ノ揖斐川方面ニ於テ夥シク紫菜ノ發生ヲ見ルニ至レリ於是明治三十年始メテ此地ニ粗朶ヲ樹テ紫菜ノ培養ヲ企ツルモノアルニ至リシモ其方法完カラス今日ニ至ルモ尙附着養成シ得ヘキ紫菜ヲシテ空シク海中ニ委棄シ去ルノ遺憾アルノミナラス元來此地タル木曾揖斐兩大川ノ流域間ニ在シ氣象ノ變化ニヨリ著シク海中ノ状態ヲ變スルコトアルヲ以テ年ニヨリ豊凶アルコト甚シトス殊ニ從來紫菜ヲ養成スルモ一局部ノ箇所ニ止マリ未タ紫菜發生區域ヲ明ニセズ茲ニ本場紫菜蕃殖試驗ノ爲メ縣下桑名郡伊會島村字松蔭新田地先ニ於テ本年度ヨリ紫菜蕃殖試驗ヲ行フコトセリ

三重縣水産試驗場事業報告

木曾川口ニ於ケル紫菜

伊勢内灣沿岸ニ生育スル紫菜ハ東京灣ニ於ケルモノト全種類ナル可シト雖モ地勢ノ如何ハ自ラ紫菜ノ生理的作用ニ影響ヲ及ホス結果カ東京灣ノモノニ比スレハ其質硬ク且成長ノ力少シク劣レリ

伊勢灣ニ於ケル紫菜ノ發生期節ハ年ニヨリ遅速アルハ勿論ナリト雖モ概シテ十月下旬ニ至レハ四五厘ニ成育セルモノヲ認メ以后十二月ヨリ三月迄ノ間ニ最モ盛ニ發芽成育シ五月ニ至リ漸ク枯死スルニ至ル

体ハ巾廣キ披針狀(付圖7)ヲナセルモノアレトモ多ク不正ナル長橢圓形ニシテ^縁邊ニ於テ最モ良ク成育シ^縁邊ヲナスコト夥シ大サハ長七寸乃至一尺ニシテ實(生殖器)ハ三寸以上ノモノニ之ヲ認ム雌雄全体ニシテ等シク体ノ縁邊ニ生ス十二月末ニ至リ始メテ成實セルモノヲ見ル

紫菜養殖試驗

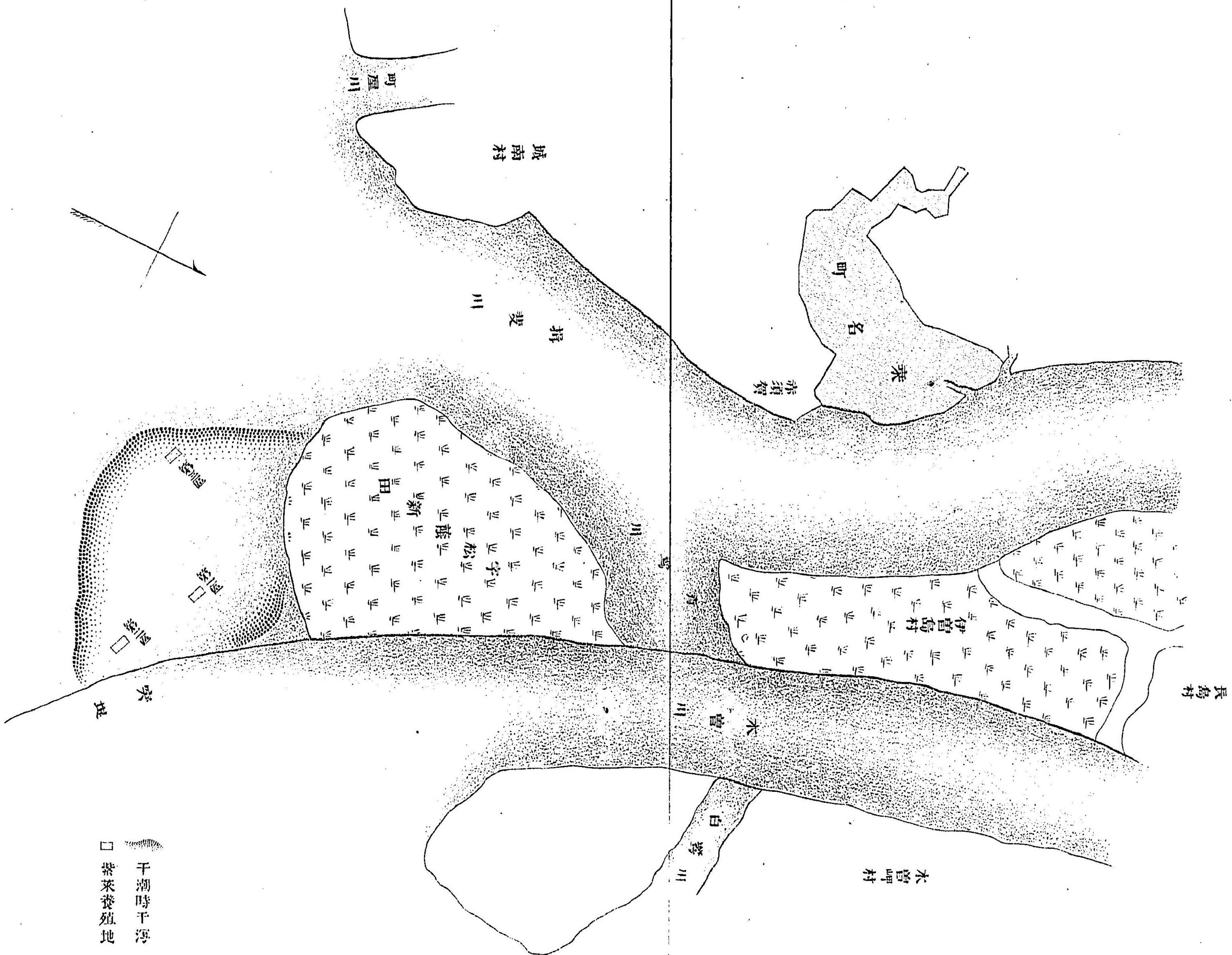
位置ヲ桑名郡伊曾島村大字松蔭新田地先淺洲ニ選ヒ本年度ヨリ紫菜養殖試驗ニ着手シ先ツ築立地ノ適否、異種粗朶ノ得失、築立地ト品質トノ關係築立期、并ニ紫菜發芽期成實期、及紫菜ノ發生ト氣象トノ關係等之ヲ試驗調査ヲ施セリ然レトモ本年度ニアリテハ尙本場創設ノ時ニ係リ位置ノ選定海面使用許可其他諸種ノ準備ニ多クノ時日ヲ要シ築立期ニ切迫セシフ以テ築材ヲ撰擇スルノ迫ナキノミナラス從來ノ築立期節ニ後レタルノ遺憾アリ

養殖場ノ地勢

養殖場ハ木曾揖斐ノ両河口ニ介在セル伊曾島村地先淺洲ニシテ東北ハ木曾川ノ水流ヲ分界セル突堤ニ接シ南ハ伊勢海ニ面シ両川ヨリ流出スル淡水ハ此箇所ニ於テ鹹水ト混淆シ淡鹹其度ヲ得潮流良好ニシテ停滯ノ憂更ニナシト雖モ場所ノ東西兩側ニハ二大川ノ流入スルアリ南方ハ全ク開放シテ伊勢海ニ瀕スルノ箇所ナルヲ以テ一朝降雨アリテ河水滿漲スルニ際シテハ全面淡鹹其度ヲ失スルコト甚シク風力強クシテ波浪ヲ起シ冬季ノ西風ヲ以テ殊ニ然リトス

築場ハ圖ノ如ク養殖場中三ヶ所ニ選ヒ以テ築場ノ適否試驗ヲナセリ即第一區ハ從來紫菜ノ發育最モ良好ナル箇所ニシテ

赤名親伊曾島村養殖場附近略圖



得 雙 川

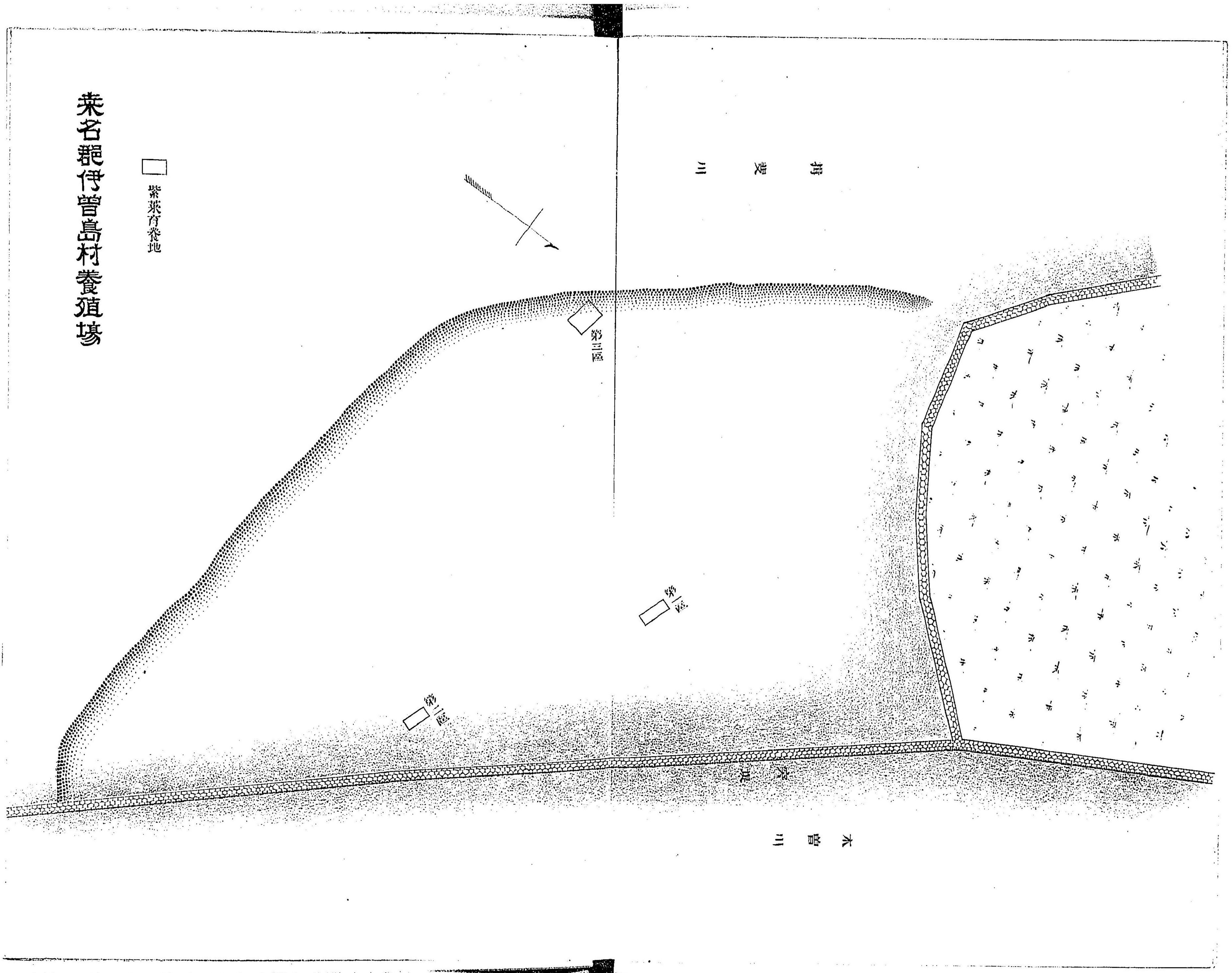
第一區

第三區

第二區

紫菜育苗地

兼名親伊曾島村養殖場



面積二百二十坪第二區ハ第一區ヲ距ル南東方二百間余ノ沖合ニアリ從來紫菜發生ノ豊凶年々甚シキ處ニ位ス面積百六十坪第三區ハ全ク第一、第二區ヲ去リ掛斐川流域ニ接近シ鹹水混交ノ度最モ少ク紫菜ノ發育如何ヲ試ミン爲メ撰定セルモノニシテ面積百九十八坪アリ三ヶ所共ニ砂泥質ノ海底ニシテ粘土、礫石ヲ混セス干満潮時ノ差ハ約六尺ニシテ大小潮時ノ差ハ二尺許リトス今十月三日實測セル各區ノ水深ヲ左ニ示ス

鑛場 干潮時 満潮時

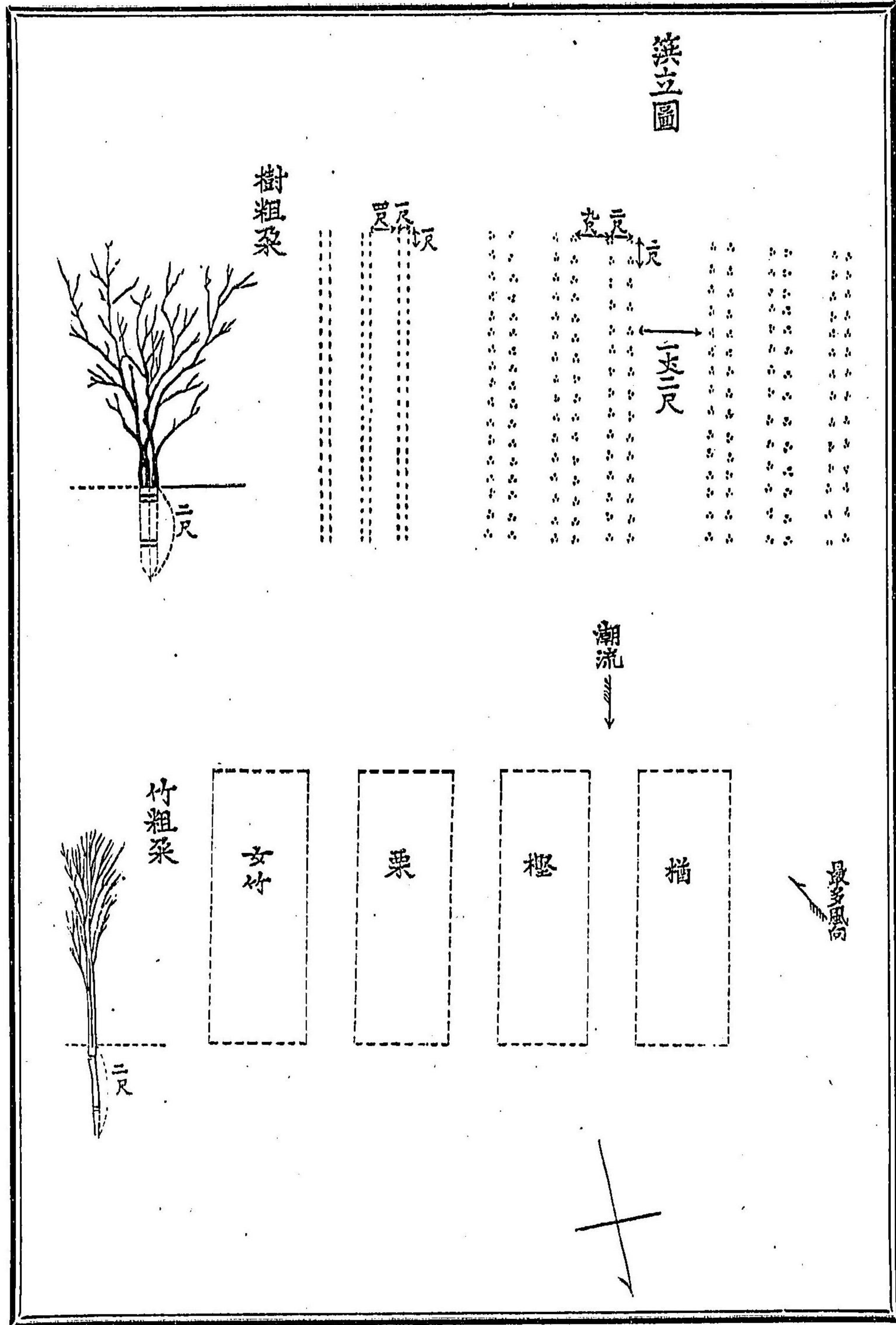
第一區 干 六尺五寸

第二區 六寸五分 七尺二寸

第三區 干 五尺五寸

而シテ第三區ハ掛斐川流域ニ接近シ從テ淡水ノ混量他ニ比シテ多シ第一區第二區ノ兩區ハ大差アルヲ見ス左ニ各區ニ於テ實測シタル水温比重ヲ掲ク

観測月日	第一區		第二區		第三區	
	水温	比重	水温	比重	水温	比重
十月三日	15.0	1.011	10.5	1.011	14.0	1.008
十一月廿日	10.5	1.015	15.0	1.011	10.0	1.001
一月十六日	7.6	1.011	13.0	1.011	7.0	1.008
二月十二日	11.0	1.011	9.5	1.011	10.5	1.001
三月三日	—	1.015	9.7	1.015	—	—
三月十六日	11.0	1.018	13.5	1.018	10.3	1.008



圖生發業紫

四月三日	1.5	1.10	1.00	1.25	1.25	1.00	1.20	1.05	1.00
四月十七日	1.5	1.10	1.00	1.25	1.25	1.00	1.20	1.05	1.00

紫ノ原料及樹立

紫ニハ楢、櫻、栗、女竹ノ四種ヲ用ヒタリ各粗朶ハ紫莖立期ニ切迫シ夏季伐切セル好適ノ材料ヲ得ザリシ爲メ不得止紫莖立ニ先テ新ニ伐切セルモノヲ用ヒタリ紫材ハ凡テ根回り四寸長八尺ノモノヲ撰ヒ三本ヲ結束シテ一株トセリ女竹ハ根回り一寸ニ分長六尺ノモノ技付ノ儘三本ヲ以テ一株トセリ其樹立株數ハ左ノ如シ

紫種	第一區	第二區	第三區
楢	百八十株	百八十株	百四十株
櫻	百八十株	百八十株	百四十株
栗	百八十株	百八十株	百四十株
女竹	千五百株		

紫ノ樹立ハ十月二十日第一區ヨリ着手シ全二十四日第三區ニ至リテ終了セリ

紫樹立法ハ圖ノ如ク第一區第二區ノ紫材ハ二尺平方ノ各四隅ニ樹テ一列ヲ六十株トシ列間一間半ヲ隔テ、一種類三列ヲ又女竹ハ一尺平方ノ各隅ニ樹立シ一列三百株列間四尺ヲ隔テ、五列ヲ樹立セリ而シテ一號ヨリ七號ニ至ル各種粗朶ハ紫立坪ヲ四十坪ノ全面積トシ附着量ノ比較ニ便シタリ第三區ハ三尺平方ノ各隅ニ樹立シ一列四十六株各列一間半ヲ隔テ、九列ヲ樹立セリ紫ハ海底二尺以下ニ挿入シ凡テ潮流ニ從ヒ直立ニ樹立セリ

紫莖立後ノ狀況

紫莖立後十一月二十日ニ於テ試驗地ノ狀況ヲ觀察シ各區共紫ニハ一面「ヨゴン」ヲ附着シ全ク木皮外面ノ狀況ヲ變セリ

殊ニ第一區、第二區ニアリテハ青苔及わさの幼芽發生シ外面綠色ヲ彩レル部分アリ又第三區ハ他區ニ比シ「ヨコレ」ノ附着稀薄ナリ「ヨコレ」ハ水底ヨリ三尺以上ノ所迄多ク着生セリ各種藻中「ヨコレ」ノ附着最モ早キハ栗ヲ第一トシ檜竹之ニ亞キ櫻最モ晩レタリ

右ノ如ク既ニ藻面ニ一面「ヨコレ」ヲ附着セルト雖モ未タ以テ充分着生セルモノト云フ可カラス又紫菜幼芽ノ目ニ觸ル、モノハ之ヲ認メ得サリシト雖モ顯微鏡調査ニヨリテ其發生ノ初期ニアルモノヲ認メタリ其最小ナルモノハ胞子ノ將ニ二分セントスルモノ及ヒ五個ノ細胞ニ分裂セルモノニシテ第四號藻ニ於テ之ヲ認メ次ハ第一號藻ニテ十七乃至三十一ノ細胞ニ分裂セルモノヲ認メ第二號藻ニアリテハ三十四ノ細胞ニ分裂セルモノヲ發見セリ素ヨリ顯微鏡調査ナルヲ以テ全面ヲ通觀スルハ不可能ノコトタレハ單ニ各種藻ノ前後中央ノ一枝條ヲ得一小部分ヲ檢シテ得タル結果ナルヲ以テ已ニ全部ニ於テ幼芽ノ着生セルモノアリシハ疑ヲ容レサル處ナリ（因ニ記ス試驗地ニ隣シテ赤渚水産株式會社ノ紫菜養殖場アリ十月二日藻樹セルモノニ係ル試驗地視察ノ傍ラ之ヲ檢セシニ「ヨコレ」共ニ一休青苔わさを着生シ全ク木皮ヲ蔽ヒ其間各株紫菜ノ漂搖セルモノヲ散見シ最モ成長セルモノハ長サ三寸余アリ長七分許リノモノ最モ多ク顯微鏡ニヨリ幼芽ノ夥シク發生セルヲ認メタリ是ニヨリテ見ルトキハ十月初旬ニ於テ藻ヲ樹立セルモノハ二十日間以後ニ於テ已ニ紫菜ノ着生セシモノナルベシト信ス

紫菜附着成育ノ狀況

紫菜ノ發芽ヲ認メテ以後十日毎ニ各種ノ藻ニ就キ附着及成育ノ模様ヲ調査セリ十一月三十日ニ至リ「ヨコレ」着生愈多ク青苔わさを成育益盛ニ全ク藻面ヲ蔽ヒ其間所々紫菜ノ房ヲナシ翻々漂搖スルモノ多ク目ニ觸ル、ニ至リ其最大ナルモノハ長六分許ニ達シ二分乃至三分ノモノ最モ多ク十二月末ニ至リテ最大ナルモノハ長サ六寸余ニ生長シ三寸余ノモノ最モ多ク着生シ已ニ生殖素ヲ有セルモノアリシ此間紫菜ノ附着ニ至リテハ前記セル如ク少シク藻立期ニ遅レタルト伐採シ

タル儘ノ生木ヲ粗菜ニ使用セシ結果充分ノ着生ヲ見ルヲ得サリシモ成育ノ點ニ至リテハ敢テ不可ナルニハアラサリシニ
 月ニ至リ紫菜ノ着生著シク多ク此後漸次附着量ヲ増加セシモ其生長ニ至リテハ二月以前ニ比シ少シク劣レリ四月下旬ニ
 至リテハ紫菜ノ着生減少シ生長著シク鈍リ且ツ其質硬化セリ想フニ濱立以後試験地海水ノ比重ヲ見ルニ四月下旬ニ至リ
 著シク其度ヲ増加シ又濱立ノ初期「ヨコレ」ノ附着ト共ニあをのり及あををさみ發生夥シク全ク濱面ヲ掩ヒ第一回採收ノ時
 ノ如キハ是等藻類ノ混全スルモノ殆ント三割以上ニアリシモ二月以降漸々減退シテ僅ニ其形ヲ存スルヲ見ルニ至レリ
 濱場ノ狀況業ニ斯ノ如シ蓋シ紫菜發育ノ盛衰成長ノ良否ハ諸種ノ原因ニ因ルモノナリト雖モ亦二月、三月ニアリテハ天
 候穩カナラザシモ降水量甚シカラズ從テ海水比重ニ著シキ變化ヲ及ホサズ殊ニ紫菜胞子ノ附着ニ有害ナルあをのりノ濱
 面ヲ全ク掩蔽セルモノ漸次流失スルニ至リシ結果ハ或ハ紫菜ノ發生附着ヲ増加セシメタルニアラサルカ其成長ノ良否ニ
 至リテハ紫菜ノ多生ハ其成長力ヲ緩ナラシメ或ハ二月、三月ノ間天候穩ナラズ西風多ク波浪高カリシヲ以テ成長ノ良好
 ナリシモノハ風波ノ爲メニ流失セラレタルモノモアルヘシト雖モ一ハ二月以後海水比重ノ度少シク騰リ殊ニ四月ニ入り
 テハ水温高ク具ツ比重ニ著シキ變化ヲ來セシ結果ハ特ニ四月ニ於ケル紫菜ノ生長力ヲ萎縮セシメ且其質ヲ硬化セシメタ
 ルニハアラサルカ

紫菜ノ着生セル部分ハ海底ヨリ五寸以上三尺迄ノ間即干満潮時ニ際シ濱ノ浸水常ニ長時間ニ渡ル部分ニ最も多ク又濱場
 ノ前後兩側ニ位スル濱ニハ内部ノモノニ比シ紫菜ノ着生特ニ多シトス
 附着シタル紫菜ハ三十三年一月十六日始メテ採收ニ着手シタリシモ是ヨリ先一月初旬天候定マラス殊ニ五日、六日ノ西
 方ノ強風ノ爲メ波浪ヲ起シ第一區ニ於テ樹籬八株ヲ倒シ女竹二百五十五株ヲ流失セシメ第二區ニ於テ百二十九株ノ樹籬
 ヲ倒シ第三區樹籬中二百一十一株ヲ流失セシメタルヲ以テ拔倒レノ分ハ直ニ修立ヲ行ヒタリシモ爲ニ多クノ附着紫菜ノ成
 育セルモノヲ流失セシメ採收量僅微ニ止マレリ以後陰曆正月新月潮時ヲ除クノ外四月上旬ニ至ル毎潮時之ヲ採收セシモ

五月ニ入り紫菜ノ附着減少シ成長著シク衰へ且品質硬化セルヲ以テ其採收ヲ見合セ全ク樹籬ヲ拔取リタリ左ニ全期間ノ
 採收量ヲ示ス

採取時	海苔製出數
一月中旬	一二一
二月下旬	八四四
三月上旬	一、一八二
三月中旬	一、四五五
四月下旬	一、三四九
四月中旬	一、三〇三
計	六、二五四

濱場及異種粗菜ニ就テノ得失

桑名郡伊曾島村地先干潮線以内ノ面積ハ其廣袤數百町歩ニ亘リ潮流不全水質一定セス從テ介藻類ノ養殖ニ適否アリ故ニ
 前ニ掲ケタル如ク三區ノ位置ヲ撰ヒ紫菜養殖ニ就テノ適否ヲ試ミタリ今各區ニ於ケル附着量ヲ左ニ示ス

採取月日	第一區	第二區	第三區
一月上旬	七三	四八	ナ
二月下旬	六九六	一四八	全
三月上旬	七七九	四〇三	全

三月	中旬	一、一一四	三四四	ナ	シ
四月	月上旬	七五四	五九五	全	
四月	月中旬	七五五	五四八	全	
計		四、一六八	二、〇八六	全	

紫菜附着量ハ前表ノ如クニシテ第一區中女竹ニ附着セルモノ一、三八六枚ヲ去ルモ尙全面積ノ第二區ニ比シ附着量其上ニアリ是ニ依テ見ルトキハ本年度ニアリテハ第一區ニ最モ多ク第二區之ニ亞ク第三區ハ僅ニ全濱中ノ三四株ニ一葉宛ノ紫菜漂搖セルヲ見シノミ要スルニ從來第一區、第二區ノ場所ハ年々豊凶アリト聞ク而シテ斯ク豊凶ヲ生スルハ其間或ル原由ヲ存スルニ因ルハ勿論ノ事ナレトモ本年ノ如ク第一區方面ニテ紫菜ノ多生ナリシハ其何ニ原因スルヤハ未タ此ノ比較探究ノ資ニ供スルノ調査ナキヲ以テ此ニ其確タル原因ヲ説クヘカラスト雖モ一ニ氣象上ヨリ及ホス外界ノ状態ニ基因スルモノト云ハツルヲ得ス累年ノ試験ニヨリ之ヲ明ニセントス第三區ハ其位置タル掛斐川ノ溶筋ニ接近シ海水ノ濃度常ニ低ク僅ニ鹹味ヲ覺ユルニ不過ルヲ以テ此附近全比重ヲ保ツノ箇所ニアリテハ紫菜ノ發生成育ニ適セルモノト云フ可カラス

紫菜ノ附着成長及品質等ハ濱ノ原料ニヨリテ異ナルモノニアラス只木皮ノ如何ニヨリ紫菜ノ着生ニ直接關係ヲ有スル「ヨゴレ」附着ノ多少及附着スルニ至ル迄ノ期日ノ長短又長時日水中ニ浸漬スルモノナレハ種類ニヨリ木皮ノ剝脱又ハ風浪ノ爲メ折レ去ラル、コアリ此等ハ紫菜ノ收得上直接關係ヲ有スルモノナレハ本年是等異種粗朶ニ就テノ得失ヲ試ミタリ左ニ各種ノ獲ヨリ得タル紫菜附着量ヲ示ス

採收時	藻種	槽	栗	女竹
-----	----	---	---	----

一月	中旬	三三	一一	三一	四七
二月	下旬	二二八	五九	一六九	三九八
三月	月上旬	四〇〇	二五八	二〇一	三三三
三月	月中旬	三三〇	三九九	三六三	三七三
四月	月上旬	五五一	四一〇	二七七	一一一
四月	月中旬	三六七	四九四	三〇八	一三四
計		一、八八八	一、六三二	一、三四九	一、三八六

是ニ依テ見ルトキハ各種粗朶ノ種類ニヨリテ紫菜ノ附着量ニ互ニ徑底ヲ生シ櫟ノ如キハ初メニ於テ少ナカリシモノ三月以後著シク附着量ヲ増加シ四月ニ入り栗ハ少シク其數ヲ減シ女竹ハ著シク減少ヲ來セリ蓋シ是等ハ樹枝ノ疎密及他ノ關係ニ職由スルモノアルヘキモ親シク濱場ノ狀況ヲ通觀スルニ「ヨゴレ」附着ノ最モ早キハ栗ニシテ槽竹之ニ亞キ櫟最モ遅レ又各粗朶ノ耐潮力ヲ見ルニ櫟槽最モ強クシテ未タ曾テ風波ノ爲メ樹枝ヲ折ラレタルコトナク木皮ノ潮水日光ニ犯サレ剝離シタルコトナキモ栗ハ三月下旬以後ニ至リ少シク木皮ノ剝落スルモノアルヲ認メ女竹ハ潮水ニ犯サレテ腐朽シ易ク風波ニ堪ヘ難クシテ枝幹共ニ折レ易シ是等ノ點ヨリ推知スルニ櫟ハ「ヨゴレ」ノ附着後レタル爲メ採收ノ初期ニアリテハ他ノモノニ比シ其量少ナク栗ハ「ヨゴレ」ノ附着速ナルモ終ニハ其量多キニ過キ却テ紫菜ノ着生ヲ安全ナラサシメ且木皮ノ剝落スルモノアルニ至リシ結果ハ終期ニ至リ少シク附着量ニ變動ヲ及ホシタルニハアラサルカ竹ハ耐潮力弱ク風波ノ爲メニ漸次吹キ折ラレ四月以後ニアリテハ僅ニ二百五十余株ヲ殘存セルノミ是レ其採收量ヲ著シク減少セシ理ナリト思考ス是ニ依テ見ルトキハ試驗中結果ノ良好ナリシハ櫟ヲ以テ第一トシ亞ヲ櫟トス然レトモ櫟ヲ採材トシテ使用スルトキハ少シク築立期ニ先チテ樹立スルカ或ハ伐採後數月ヲ閱シタルモノヲ用ヒサルヘカラストス尙試驗ノ上其事實ヲ明

ニスヘシ
 以上本年度ニ於テ施行シタル紫菜養殖ノ經過ヲ記述セリ要スルニ本年ノ紫菜發生成育ハ其ニ良好ナリト云フヘカラス由
 來紫菜養殖ノ如キハ一ノ附着材料ヲ與フルノミニシテ其發生成育ノ如キハ自然ニ放任シテ敢テ人爲的ニ之ヲ左右ス可カ
 ラス只可及的其着生ヲ容易ナラシメ被害ヲ避クルノ手段ヲ講スルニアルノミ氣象ノ關係ニヨリ年々豊凶ヲ生シ場所ニヨ
 リ優劣アルハ避ケヘカラサルモ以後試験ヲ經テ其因テ來ル原因ヲ確メントス

調査部

一、漁業報告

各種漁業ト氣象、期節、漁場漁具漁法及ヒ地方ニ據ル諸種ノ關係等ヲ詳知センカタメ縣下沿岸各地ニ漁業報告員ヲ配置
 シ左記ノ種類ニ就キ報告セシメタリ然シテ連年之ヲ繼續シテ數多ノ報告ヲ聚集スルニアラサレハ以テ正確ノ結果ヲ期シ
 難シ故ニ本年度ニ在リテハ單ニ其報告ノ事項ヲ記載スルニ過キヌ

報告ノ種類

鯉、鱒、鰻、鮭、鱈、鱒、鰻、青串魚、柔魚、龍蝦

報告員ノ配置

報告者住所氏名

鯉	北牟婁郡長島村	石倉龜三郎
全	度會郡吉津村	脇和五郎
鰻	志摩郡安乘村	木下文四郎

鰻	北牟婁郡引本町	伊藤惣七
全	志摩郡答志村	中村與助
鱒	南牟婁郡泊村	生駒正之助
鱈	南牟婁郡木ノ本町	新谷貞信
鱈	南牟婁郡南輪内村	大川保嘉
鱈	志摩郡烏羽町	河村利平治
鱈	南牟婁郡阿田和村	堀口俊郎
鱈	志摩郡波切村	山下三良次
鱈	志摩郡坂手村	西橋長七
青串魚	北牟婁郡桂城村	三宅好之助
全	南牟婁郡荒坂村	加藤清
全	北牟婁郡引本町	櫻井平八
柔魚	北牟婁郡尾鷲町	土井英十郎
全	度會郡中島村	西浦義衛
龍蝦	度會郡中島村	西村新五郎
全	志摩郡越賀村	小川兵次郎

鰻

十月廿八日	十月廿七日	十月廿六日	十月廿五日	十月廿四日	十月廿三日	十月廿二日	十月廿一日	十月二十日	十月十九日	十月十八日	十月十七日	十月十六日	十月十五日	十月十四日	十月十三日	十月十二日	十月十一日
神阿 會浦			全	神神 前浦	全	全	神神 前浦		全	全	全	神神 前浦	神古 和浦	全	全	全	全
雨	晴	晴	晴	晴	曇	晴	晴	雨	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴
南東 風及	南東 風及	南東 風及	北東 風及	南東 風及	北東 風及	東 風	東 風	南東 風及	北東 風及	東 風及	東 風及	南東 風及	北東 風及	北東 風及	北東 風及	西東 風及	東南 風及
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
七 下			三 下	七 下	五 下	八 下	二 下	休	五 下	三 上	三 上	三 下	一 七下	一 九下	二 七下	二 七下	三 〇上
潮	全	付 料 休 芝 業	潮	潮	潮	潮	潮	業	潮	潮	潮	潮	潮	潮	潮	潮	潮

十月十日	十月九日	十月八日	十月七日	十月六日	十月五日	十月四日	十月三日	十月二日	十月一日	九月三十日	九月廿九日	九月廿八日	九月廿七日	九月廿六日	九月廿五日	九月廿四日	九月廿三日
全	地神 前浦			地神 前浦	地阿 曾浦	地古 和浦	神 浦	全	全	全	全	地神 前浦		全	地神 前浦	神古 和浦	神古 和浦
晴	晴	晴	雨	雨	雨	晴	晴	晴	晴	雨	雨	晴	雨	雨	雨	雨	晴
東南 風及	南北 風及	東北 風及	東南 風及	北南 風及	東北 風及	東北 風及	南 風及	東南 風及	東南 風及	南 風及	東北 風及	東北 風及	南 風及	東北 風及	南 風及	南 風	南 風
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
八 下	四 上	ナ シ下	ナ シ下	ナ シ下	二 三下	四 〇下	二 二下	四 上	二 七下	二 二下	二 二上	五 下	休	五 下	二 三下	三 三上	休
潮	潮	潮	潮	潮	潮	潮	潮	潮	潮	潮	潮	潮	業	潮	潮	潮	業

八月廿九日	八月廿八日	八月廿七日	八月廿六日	八月廿五日	八月廿四日	八月廿三日	八月廿二日	八月廿一日	八月廿日	八月十九日	八月十八日	八月十七日	八月十六日	八月十五日	八月十四日	八月十三日	八月十二日
	雨	ヒラ場雨	ヒラ場晴	ヒラ場晴	ヒラ場晴	白ラ濱晴	晴	午後晴	晴	曇	曇	曇	晴	白ラ濱中	白ラ濱晴	晴	晴
天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天
南風強シ	南風強シ	南風	南風微シ	南風微シ	南風微シ	南風微シ	南風	南風	南風	南風	南風強シ	南風	南風	南風強シ	南風微シ	南風強シ	南風強シ
	釣	釣	釣	釣	釣									釣	釣		
		五	二八五	七二	一一	一八								五	二〇		
出漁セズ	出漁セズ				潮流不順		出漁セズ	出漁セズ	出漁セズ	出漁セズ	出漁セズ	出漁セズ	出漁セズ	雷鳴ス	出漁セズ	出漁セズ	

八月十一日	八月十日	八月九日	八月八日	八月七日	八月六日	八月五日	八月四日	八月三日	八月二日	八月一日
晴	白ラ濱晴	白ラ濱晴	白ラ濱曇	白ラ濱午後晴	白ラ濱晴	晴	曇	白ラ濱午後曇	白ラ濱晴	白ラ濱晴
天	天	天	天	天	天	天	天	天	天	天
南風強シ	東風トナル強	微南風及東風	東南風	東風トナル	南風微シ	微西南風	東風強シ	東風強シ	微西南風	微東風
	釣	釣	釣	釣	釣			釣	釣	釣
	三五	四〇	七〇	一〇三	二二三			一〇三	一一五	八三
出漁セズ	下グ湖	下グ湖	下グ湖	下グ湖	出漁セズ	出漁セズ	出漁セズ	下グ湖		

鯖

十月廿九日	十月三十日	十月卅一日
沖前全	全	全
晴	晴	午後晴
東風	北風	北風
全	全	全
ナシ	ナシ	ナシ
下リ湖	下リ湖	休業

年月日	字引	天候	風向風力	漁具	漁獲高	記事
十二月十日	字引北浦湖	曇天	強西北風	全	七石八斗	漁出セズ
十二月十一日	字引北浦湖	雨天	強西北風	全	七石三斗	
十二月十二日	字引北浦湖	半晴	西風微シ	全	拾貳石六斗	
十二月十三日	字引北浦湖	曇天	微西南風	全	拾壹石四斗	
十二月十四日	字引北浦湖	曇天	微西南風	全	拾壹石四斗	
十二月十五日	字引北浦湖	曇天	微西南風	全	拾壹石四斗	
十二月十六日	字引北浦湖	曇天	微西南風	全	拾壹石四斗	
十二月十七日	字引北浦湖	曇天	微西南風	全	拾壹石四斗	
十二月十八日	字引北浦湖	曇天	微西南風	全	拾壹石四斗	
十二月十九日	字引北浦湖	曇天	微西南風	全	拾壹石四斗	
十二月二十日	字引北浦湖	曇天	微西南風	全	拾壹石四斗	
十二月廿一日	字引北浦湖	曇天	微西南風	全	拾壹石四斗	
十二月廿二日	字引北浦湖	曇天	微西南風	全	拾壹石四斗	
十二月廿三日	字引北浦湖	曇天	微西南風	全	拾壹石四斗	
十二月廿四日	字引北浦湖	曇天	微西南風	全	拾壹石四斗	
十二月廿五日	字引北浦湖	曇天	微西南風	全	拾壹石四斗	
十二月廿六日	字引北浦湖	曇天	微西南風	全	拾壹石四斗	
十二月廿七日	字引北浦湖	曇天	微西南風	全	拾壹石四斗	
十二月廿八日	字引北浦湖	曇天	微西南風	全	拾壹石四斗	
十二月廿九日	字引北浦湖	曇天	微西南風	全	拾壹石四斗	
十二月三十日	字引北浦湖	曇天	微西南風	全	拾壹石四斗	
十二月卅一日	字引北浦湖	曇天	微西南風	全	拾壹石四斗	

年月日	字引	天候	風向風力	漁具	漁獲高	記事
十二月九日	字引大根湖	全	全	全	十三石	
十二月八日	字引古里湖	全	全	全	五石	
十二月七日	全	全	全	全	三石六斗	
十二月六日	字引木尻湖	晴天	微西南風	全	十八石	
十二月五日	全	全	全	全	全	
十二月四日	全	全	全	全	全	
十二月三日	全	全	全	全	全	
十二月二日	全	全	全	全	全	
十二月一日	全	全	全	全	全	
十一月三十日	全	全	全	全	全	
十一月二十九日	全	全	全	全	全	
十一月二十八日	全	全	全	全	全	
十一月二十七日	全	全	全	全	全	
十一月二十六日	全	全	全	全	全	
十一月二十五日	全	全	全	全	全	
十一月二十四日	全	全	全	全	全	
十一月二十三日	全	全	全	全	全	
十一月二十二日	全	全	全	全	全	
十一月二十一日	全	全	全	全	全	
十一月二十日	全	全	全	全	全	
十一月十九日	全	全	全	全	全	
十一月十八日	全	全	全	全	全	
十一月十七日	全	全	全	全	全	
十一月十六日	全	全	全	全	全	
十一月十五日	全	全	全	全	全	
十一月十四日	全	全	全	全	全	
十一月十三日	全	全	全	全	全	
十一月十二日	全	全	全	全	全	
十一月十一日	全	全	全	全	全	
十一月十日	全	全	全	全	全	
十一月九日	全	全	全	全	全	
十一月八日	全	全	全	全	全	
十一月七日	全	全	全	全	全	
十一月六日	全	全	全	全	全	
十一月五日	全	全	全	全	全	

鑑

年月日	天候	風向風力	記事
十月五日	雨天	北風ヨリ東	高浪
十月六日	雨天	東風ヨリ北	高浪
十月七日	晴天	東風ヨリ北	出漁セズ
十月八日	晴天	西風	出漁セズ
十月九日	晴天	西風	出漁セズ
十月十日	晴天	西風	出漁セズ
十月十一日	晴天	無風	出漁セズ
十月十二日	晴天	無風	出漁セズ
十月十三日	晴天	無風	出漁セズ

二月五日	二月四日	二月三日	二月二日	二月一日	一月卅一日	一月卅日	一月廿九日	一月廿八日	一月廿七日	一月廿六日	一月廿五日	一月廿四日	一月廿三日	一月廿二日	一月廿一日	一月廿日	一月十九日
字引大木根澗	字引古本里澗	字引大木根澗	字引古本里澗	字引大木根澗	字引古本里澗	字引大木根澗	字引古本里澗	字引大木根澗	字引古本里澗	字引大木根澗	字引大木根澗	字引大木根澗	字引大木根澗	字引大木根澗	字引大木根澗	字引大木根澗	字引大木根澗
雪降	晴天	雨天	晴天	晴天	晴天	晴天	晴天	晴天	晴天	晴天	晴天	晴天	晴天	晴天	晴天	晴天	晴天
西風	無風	微東 北風	微西 北風	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
十五石	六十六石	三十五斗	二石	十六石	三十二石	四十三斗	三石	八石五斗	四石五斗	四石五斗	四石五斗	四石五斗	四石五斗	四石五斗	四石五斗	四石五斗	五石八斗

一月十八日	一月十七日	一月十六日	一月十五日	一月十四日	一月十三日	一月十二日	一月十一日	一月十日	一月九日	一月八日	一月七日	一月六日	一月五日	一月四日	一月三日	一月二日	一月一日
字引大木根澗	字引大木根澗	字引大木根澗	字引大木根澗	字引大木根澗	字引大木根澗	字引大木根澗	字引大木根澗	字引大木根澗	字引大木根澗	字引大木根澗	字引大木根澗	字引大木根澗	字引大木根澗	字引大木根澗	字引大木根澗	字引大木根澗	字引大木根澗
曇天	曇天	曇天	曇天	曇天	晴天	曇天	曇天	曇天	曇天	曇天	曇天	曇天	晴天	晴天	晴天	晴天	晴天
西風微シ	強西南風	西風微シ	西風強シ	西風強シ	西風微シ	西風強シ	西風強シ	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
七石八斗	三石四斗	三石	七石二斗	三石	三石	三石	三石	三石二斗	三石二斗	四石八斗	四石八斗	三石二斗	三石二斗	三石二斗	三石二斗	三石二斗	三石二斗

九月廿八日	九月廿七日	九月廿六日	九月廿五日	九月廿四日	九月廿三日	九月廿二日	九月廿一日	月 日
全	全	全	全	全	全	全	御濱沖	漁場
晴天	曇天	全	全	全	全	晴天	東風	南
全	全	全	全	全	全	全	縮延細	牟婁郡木本町
二〇	ナシ	九	九	八	二八	八		漁獲方記事
								漁場
								天候
								風向風力
								漁具
								漁獲方記事
								南牟婁郡泊村

鮪

二月廿八日	二月廿七日	二月廿六日	二月廿五日	二月廿四日
字引大根灣		字引大根灣	字引大根灣	字引大根灣
晴天		晴天	晴天	晴天
西風		西風	西風	西風
全		全	全	全
四石八斗		十一石二斗		

二月廿三日	二月廿二日	二月廿一日	二月廿日	二月十九日	二月十八日	二月十七日	二月十六日	二月十五日	二月十四日	二月十三日	二月十二日	二月十一日	二月十日	二月九日	二月八日	二月七日	二月六日
字引大根灣	字引大根灣	字引大根灣	字引大根灣	字引大根灣	字引大根灣	字引大根灣	字引大根灣	字引大根灣	字引大根灣	字引大根灣	字引大根灣	字引大根灣	字引大根灣	字引大根灣	字引大根灣	字引大根灣	字引大根灣
晴天	晴天	晴天	晴天	曇天	晴天	晴天	晴天	晴天	晴天	曇天	晴天	晴天	晴天	雨天	晴天	晴天	曇天
西風	西風	西風	西風	無風	無風	無風	無風	無風	無風	無風	西風	西風	西風	微西南風	西風	西風	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
七石六斗	十四石	拾六石八斗	十六石	三石六斗	三石六斗	三石六斗	三石六斗	三石六斗	九石六斗	二十石	二十石	五石六斗	五石六斗	二十八石	三十五石	五斗	地引網六十三石

十月十七日	十月十八日	十月十九日	十月廿一日	十月廿二日	十月廿三日	十月廿四日	十月廿五日	十月廿六日	十月廿七日	十月廿八日	十月廿九日	十月卅一日	十月卅二日	十一月一日	十一月二日	十一月三日
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	晴天	雨天	全	全	全	全	全	全	全	全	全
西南風	西南風	西南風	西南風	西南風	西南風	西南風	西南風	西南風	西南風	西南風	西南風	西南風	西南風	西南風	西南風	西南風
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
一〇	一五	一八	二二	二八	三五	三八	四五	五一	五八	六五	七二	七八	八五	九二	九九	一〇六

風波ノ爲出
流セズ

九月廿九日	九月三十日	十月一日	十月二日	十月三日	十月四日	十月五日	十月六日	十月七日	十月八日	十月九日	十月十日	十月十一日	十月十二日	十月十三日	十月十四日	十月十五日	十月十六日
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
御濱沖	晴天	南風	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
一〇	一五	二〇	二五	三〇	三五	四〇	四五	五〇	五五	六〇	六五	七〇	七五	八〇	八五	九〇	九五

風波ノ爲出
流セズ

十月十六日	十月十五日	十月十四日	十月十三日	十月十二日	十月十一日	十月十日	十月九日	十月八日	十月七日	十月六日	十月五日	十月四日	十月三日	十月二日	十月一日	九月三十日	
			會根浦														
			晴天														
			南西風														
			敷網														
		一七二	六四 _斤														
		南牟婁郡南輪內村															
		志摩郡鳥羽町大字小濱															

魚

十一月廿二日
十一月廿三日
十一月廿四日
十一月廿五日
十一月廿六日
十一月廿七日
十一月廿八日
十一月廿九日
十一月三十日

十一月廿一日	十一月廿日	十一月十九日	十一月十八日	十一月十七日	十一月十六日	十一月十五日	十一月十四日	十一月十三日	十一月十二日	十一月十一日	十一月十日	十一月九日	十一月八日	十一月七日	十一月六日	十一月五日	十一月四日
			全	全					全		全	全				御濱沖	
			晴天	晴天					雨天		全	全				晴天	
			西南風	南風					東風		西南風	西南風				西南風	
			全	全					全		全	全				縮繩	
				四五					五		一三五	五				四	

年月日	志摩郡坂手村	北牟婁郡桂城村大字島勝浦
三十三日	日和海面	
一月三日	午前晴	
一月二日	午前晴	
一月四日	全	
一月五日	午前晴	
一月六日	全	
一月七日	雨	
一月八日	全	
一月九日	全	
	西風	
	全	
	全	
	三六	
	二	
	三八	
	一五	
	二一	
	三〇	
	八	
	三	
	〇	

師

一月廿九日			
一月三十日			
一月卅一日			
二月一日			
二月二日			
二月三日			

年月日	阿比知	和	晴	西	風	網
一月十一日						
一月十二日						
一月十三日						
一月十四日						
一月十五日						
一月十六日						
一月十七日						
一月十八日						
一月十九日						
一月廿一日						
一月廿二日						
一月廿三日						
一月廿四日						
一月廿五日						
一月廿六日						
一月廿七日						
一月廿八日						
			全			
			曇天			
			全			
			全			
			全			
			全			
			一五			
			二〇			
			一〇			
			三〇			

三月廿三日	三月廿二日	三月廿一日	三月廿日	三月十九日	三月十八日	三月十七日	三月十六日	三月十五日	三月十四日	三月十三日	三月十二日	三月十一日	三月十日	三月九日	三月八日	三月七日	三月六日
	日和海及 的尖出シ				全	全	全	全						日和海	志海		全
	曇晴				曇晴	晴	曇晴							全	晴	曇晴	
	北東風				北西風	北西風	西風							北西風	西風	南北風及	
	全				全	全	全							全	全	全	
六	八六			五八	三八		六五						九	二	九	三	
							午後留鴨?										
二夕候					全	全	天滿	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全					全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全					西風	南風	無風	南風	西風								
全					全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
二五〇					三〇	八〇〇	三〇〇〇	三〇	六〇								

三月五日	三月四日	三月三日	三月二日	三月一日	二月廿八日	二月廿七日	二月廿六日	二月廿五日	二月廿四日	二月廿三日	二月廿二日	二月廿一日	二月廿日	二月十九日	二月十八日	二月十七日	二月十六日
全							全	全	全	全	全	全	日和海				
全							全	全	全	晴	雨晴	全	晴				
南北風及							全	北風	北風	西風	北風	西風	北風及				
全							全	全	全	全	全	全	線立釣				
一							六〇	二六五	二五六	四〇	五八五	三七	一二八				
全	天滿	二夕候					二夕候	天滿		天滿		全	全	全	全	全	二夕候
晴	曇	全					全	全		全		全	全	全	全	全	晴
南風	北風	全					全	南風		全		全	全	全	全	全	西風
全	全	全					全	全		全		全	全	全	全	全	風大敷網
六五	三〇〇	一五〇					一三〇	七〇		三三		六五〇	二六〇	一五〇〇			

四月十八日	四月十九日	四月廿一日	四月廿二日	四月廿三日	四月廿四日	四月廿五日	四月廿六日	四月廿七日	四月廿八日
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

全	天滿	全	全	全	全	全	全	全	全
曇	晴	曇	晴	全	全	全	全	全	全
東	西	東	全	全	全	全	全	全	全
風	風	風	風	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
三〇〇	四〇〇	二五〇	二八〇	二二〇	八〇	一五〇	八〇〇	一五〇	一五〇

四月十日	四月九日	四月八日	五月七日	四月六日	四月五日	四月四日	四月三日	四月二日	四月一日	三月卅一日	三月三十日	三月廿九日	三月廿八日	三月廿七日	三月廿六日	三月廿五日	三月廿四日
------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

											全	全			全		全
											全	晴			全		曇
											南四北 東北風及	及北 南東風			北東風		北西風 線立鈞
											全	全			全		八六
											三八七	一五七			四二八		

天滿	二夕候	天滿	全	全	二夕候								天滿	二夕候			
曇	全	全	全	全	全								全	晴			
東	西	全	全	全	南								全	西			
風	風	全	全	全	風								風	大敷網			
全	全	全	全	全	全								全	八〇			
一五〇	四五〇	三〇〇	三〇〇	一三〇〇	三五〇								三五	八〇			

年月日	漁場	天候	風向風力	漁具	漁獲高	記事
三月廿五日	磯字宮浦	全	全	全	三	
三月廿四日	ア字ノマヒ	全	全	全	一	
十二月廿三日		全	全	全	二	
十二月廿二日		全	全	全	三	
十二月十九日	四字ノ黒見	全	全	全	四	
十二月十八日		全	全	全	一	
十二月十一日	ア字ノマヒ	全	全	全	ナシ	
十二月十日	ノ字ノ崎	全	全	全	三	
十二月九日	平字ノ瀬	全	全	全	二	
十二月八日		全	全	全	二	
十二月七日		全	全	全	二	
十二月六日		全	全	全	二	
十二月五日	沖字ノ黒見	全	全	全	二	
十二月四日		全	全	全	二	
十二月三日		全	全	全	二	
十二月二日	ノ字ノ崎	全	全	全	二	
十二月一日	越賀村字ノ黒見	晴天	西風	刺網	八	
十二月三十日						
十二月二十九年						

年月日	龍蝦	天候	風向風力	漁具	漁獲高	記事
一月十五日	二尾	晴天	西風	スバル	一四〇	
一月十六日	全	全	北風	全	二一六	
一月十七日	全	全	南風	全	一三〇	
一月十八日	全	全	全	全	九八	
一月十九日	全	全	北風	全	五四	
一月廿一日	全	全	全	全	三五	
一月廿二日	全	全	南風	全	五一	
一月廿三日	全	全	全	全	一〇	
一月廿四日	全	全	全	全	五	
一月廿五日						
一月廿六日						
一月廿七日						
一月廿八日						
一月廿九日						
一月卅一日						

一月卅一日	宇宮浦	晴	西風	全	一	
二月一日						
二月二日						
二月三日						
二月四日	宇平瀬	全		全		
二月五日	宇野里	全		全	二	漁獲ナシ
二月六日						
二月七日						
二月八日						
二月九日						
二月十日						
二月十一日						
二月十二日						
二月十三日						
二月十四日						
二月十五日						
二月十六日						
二月十七日						

二月十八日	宇野山	晴	西風	全	三	
二月十九日						
二月廿日	宇野山	全	無風	全		漁獲ナシ
二月廿一日	宇野山	全	西風	全	二	
二月廿二日	宇野里	全	全	全	四	
二月廿三日	宇野里	全	西南風	全	二	
二月廿四日						
二月廿五日						
二月廿六日						
二月廿七日						
二月廿八日						

二、介類生殖期節調査

縣下沿海ニ栖息スル各種介類及蟹蝦類ノ生殖期節ヲ調査シ其期間ヲ明ニスルノ目的ヲ以テ本年度ニアリテハ先ツ石決明、板屋介ノ調査ニ着手シタリ

石決明

石決明ハ濱島附近沿海ニ栖息セルモノニシテ調査ノ都度之ヲ捕獲セシメ又ハ購入シテ調査ノ原料トセリ調査ノ狀況ハ次表ニ明ナリ

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	九月二日	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	波切村	全	全
?	?	?	?	?	?	♂	?	?	♀	♂	♂	♂	?	?	?	?	?
?	?	?	?	?	?	未熟	?	?	全	全	全	未熟	?	?	?	?	?
四、一〇	三、四〇	三、五〇	四、九〇	四、〇〇	五、三〇	五、六〇	四、一〇	四、一〇	五、二〇	四、六〇	五、二五	四、七〇	四、三〇	三、三〇	三、八〇	三、五〇	四、四〇
三、二〇	二、六〇	二、七〇	三、二〇	三、二〇	四、二〇	四、五〇	三、三〇	三、一〇	四、三〇	三、八〇	四、二〇	三、八〇	三、五〇	二、七〇	三、四〇	二、七〇	三、四〇
全	全	全	全	全	全	生殖腺部發育セズ	全	生殖腺發育セズ	全	全	全	生殖腺ニヨリ僅ニ性ヲ辨シ得ルノミ	全	全	全	全	全

板屋介
石決明 あわび
英虞灣ニ栖息セルモノニシテ調査ノ都度之ヲ採收シテ原料トナセリ次表ニ其狀況ヲ示ス

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	八月廿八日	八月廿六日	調査月日	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	石鏡村	苔志村	産地	全	全
?	?	♂	♂	♀	♂	?	?	♂	♂	?	♀	♀	♀	性	?	?
?	?	未熟	全	成熟	未熟	?	?	未熟	成熟	?	未熟	?	?	熟否	?	?
四、六〇	四、八〇	四、七〇	五、〇〇	五、七〇	五、三〇	五、〇〇	四、五〇	五、四〇	五、三〇	四、五〇	五、四〇	三、三〇	三、三〇	体長	四、三〇	四、三〇
三、七〇	三、七〇	三、七〇	四、一〇	四、八〇	四、三〇	四、二〇	三、六〇	四、三〇	四、二〇	三、五〇	四、四〇	二、四〇	二、四〇	巾形	三、四〇	三、四〇
全	生殖腺部ノ發育ヲ認メズ									生殖腺發育セリ		生殖腺發育セズ	生殖腺ノ熟否及性不明	記事		

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	十一月廿四日	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	濱島村
♀	♂	♀	♀	♂	♀	♀	♀	♀	♂	♀	♀	♂	♀	♀	♂	♀	♀	
全	放產	未熟	放產	放產	放產	未熟	成熟	成熟	成熟	成熟	成熟	成熟	成熟	成熟	成熟	成熟	成熟	成熟
二、八〇	二、五〇	二、五〇	二、二〇	二、二〇	二、二〇	二、二五	一、九〇	二、二〇	一、九〇	一、九〇	一、九〇	二、〇〇	一、五〇	二、二〇	二、一〇	二、〇〇	二、〇〇	
二、〇五 全	一、八五 殆ント放産シ生殖腺部萎縮セリ	一、七五 尙發育完全ナラス	一、五五	一、五五 生殖腺部著シク萎縮セリ	一、四〇	一、五五 殆ント放産シ去レリ	一、五〇 殆ント産卵シ去レリ	一、三〇 生殖素ニヨリ僅ニ性ヲ辨シ得ルノミ	一、三〇 生殖素發育ス	一、四〇 全	一、三〇 生殖腺部發育不明	一、四〇 生殖素發育ス	一、一〇 全	一、二六 生殖腺部發育セス	一、一〇 全	一、五〇 生殖腺部發育不明	一、五〇 生殖素發育ス	

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	十一月七日	全	全	全	全	全	九月二日
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	波切村
♂	♂	♀	♀	♂	♀	♂	♂	♀	♂	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀
全	全	成熟	放產	全	全	全	全	成熟	放產	全	成熟	成熟	成熟	成熟	成熟	成熟	成熟	成熟
二、五〇	三、二〇	三、四〇	二、五〇	二、四〇	二、五〇	二、五〇	二、六〇	三、五〇	二、四〇	二、五〇	二、九〇	三、二〇	三、七〇	三、八〇	三、三〇	三、三〇	三、一〇	三、一〇
一、八〇 全	二、五〇 全	二、七〇 生殖素發育シ特ニ放産セントス	一、五〇 未タ生殖腺發育ヲ認メス	一、八〇 全	一、九〇 全	一、九〇 全	二、〇〇 全	二、七〇 全	一、八〇 殆ント生殖素ヲ放出セリ	二、一〇 全	二、四〇 生殖素著シク發育ス	二、九〇 全	二、七〇 全	二、七〇 全	二、七〇 全	二、五〇 全	二、六〇 全	

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀
全	全	全	放	放	放	未	?	全	全	放	?	?	?	?			
四、七〇	四、三〇	三、九五	四、三〇	四、〇〇	四、一五	四、二〇	四、一〇	四、四五	四、一〇	三、九〇	三、八〇	三、二〇	四、二〇	三、五〇	三、七〇	三、五〇	二、九五
三、六五	三、三〇	三、一〇	三、三五	三、一五	三、二〇	三、三〇	三、三〇	三、三五	三、二〇	三、一〇	三、四〇	三、四〇	三、四〇	二、六五	二、九〇	二、七〇	二、一五
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
					殘塊點存セルノミ	過半放産セリ	生殖素成育セス	過半放産セリ	生殖素ノ殘塊ヲ存セルノミ								

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀
?	?	放	?	?	全	全	全	放	放	?	?	?	放	?	?	全	放
二、九〇	三、〇〇	三、六〇	三、二五	二、七五	三、七〇	三、七〇	三、六五	三、〇五	三、九八	三、一〇	三、九五	三、七〇	三、五五	二、二五	三、三五	三、二〇	二、七〇
二、一〇	二、一五	二、七〇	二、四五	一、二五	三、一〇	三、一〇	二、七〇	二、二五	二、九五	二、五〇	二、九五	三、三〇	二、八五	一、四五	二、五〇	二、六〇	二、〇〇
全	放産シ去リテ性不明	僅ニ生殖素ヲ殘セルノミ			生殖素ノ殘塊ヲ見ルノミ	過半放産シ去レリ	殆ント放産シ生殖腺等シテ萎縮セリ		生殖素ノ殘塊ヲ點存スルノミ	全	全	已ニ放産シ去レルモノ、如シ	僅ニ生殖素ノ小塊ヲ點々殘存セルノミ			全	全

全	全	全	三月十二日	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
?	?	?	?	♀	♀	?	♀	?	?	?	♂	♀	♂	?	?	♂	?	?	
?	?	?	?	全	放産	?	放産	?	?	?	全	全	放産	?	?	放産	?	?	
三、四〇	三、七〇	四、〇〇	四、七〇	二、七〇	二、六〇	二、八〇	三、三〇	三、三〇	四、二〇	三、九〇	三、〇〇	三、二五	三、八〇	三、六〇	三、〇〇	三、三〇	三、四〇	三、四〇	
二、六〇	二、九〇	三、二〇	三、七〇	二、一〇	二、〇〇	二、一五	二、四〇	二、五〇	三、五〇	三、二〇	二、三〇	二、五五	三、一〇	三、〇〇	二、三〇	二、五五	二、七五	二、七五	
				全	點々生殖素ノ殘塊アルノミ		生殖腺著シク萎縮ス				全	全	生殖素ヲ殘スヲ僅微ナリ			僅ニ生殖素ヲ殘セルノミ			

二月二十七日	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	十二月廿八日
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	濱島村
?	?	?	♀	♀	?	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	♀	十二月廿八日
?	?	?	全	放産	?	全	全	放産	?	全	全	放産	?	全	全	全	全	全	濱島村
三、九〇	三、六〇	三、五〇	三、五〇	三、三五	三、三五	三、七〇	三、五五	三、四五	三、二五	三、三〇	三、二〇	三、〇〇	三、二〇	三、二〇	二、九五	三、九五	四、一〇	四、一〇	十二月廿八日
三、一〇	二、八五	二、六五	二、七〇	二、五五	二、五〇	二、九〇	二、八〇	二、六〇	二、四五	二、五五	二、五〇	二、四〇	二、四〇	二、四〇	二、二五	三、一〇	三、一五	三、一五	十二月廿八日
			全	放産シ去リ僅ニ生殖線ヲ存ス		全	殆ント放産シ僅ニ生殖線ヲ存スルノミ	半ハ放産シ去レリ		全	全	生殖素ノ殘塊ヲ存セシノミ		全	生殖素ノ殘塊ヲ存セルノミ	半ハ放産ヲ了レリ	全	全	十二月廿八日

全	全	全	全	全	十二月六日	調查月日
全	全	全	全	全	濱島灣	產地
全	全	全	全	全	雌雄全性	性
全	全	全	全	全	成熟	熟否
三、〇〇	三、五〇	二、七〇	二、七〇	三、一〇	二、九五	體長
三、七五	三、七〇	三、二五	三、三〇	三、八五	三、五〇	巾形
全	全	全	全	全	生殖腺膨大シ生殖素發達ス	記事

板屋介

全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全
?	♀	?	?	♀	?	♀	?
?	未熟	?	?	未熟	?	未熟	?
二、六〇	二、六〇	二、七〇	二、八〇	二、八〇	二、九〇	二、九〇	二、九〇
一、九〇	二、〇〇	二、〇〇	二、二〇	二、一〇	二、三〇	二、二五	二、一五
	未熟ノ生殖素ヲ見ル			未熟ノ生殖素ヲ見ル		生殖素發育セス	

全	全	全	全	全	全	三月三十日	三月十二日
全	全	全	全	全	全	全	濱島村
♀	?	?	?	♀	?	♂	?
未熟	?	?	?	放産	放産	放産	放産
三、一〇	三、一〇	二、六〇	二、八〇	三、三〇	三、二〇	四、三〇	二、四〇
二、三五	二、四〇	一、八〇	二、一〇	二、四〇	二、五〇	三、五〇	一、八〇
生殖素發育セス				殘塊ヲナセル生殖素ヲ見ル		生殖素殘部雲影状ヲナス	
						生殖素ノ過半ヲ放産セリ	
						殆ト放産シテ生殖素ノ殘塊ヲ見ル	
						全	全
						二、九〇	半ハ放産シ去レリ
						三、二〇	

全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全

十二月十七日

全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全

全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全

全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全

三、二五 三、四五 三、二〇 三、二〇 三、二〇 三、二〇 二、八〇 三、一〇 三、〇〇 三、〇〇 二、八五 二、八〇 二、八五 二、七〇 二、六五 二、一五 二、七五 二、五〇

三、八五 三、八〇 三、九〇 三、七五 三、八〇 三、四〇 三、四〇 三、四〇 三、六〇 三、二五 三、二五 三、二五 三、一〇 三、一〇 三、二五 三、二〇 三、〇〇

全 卵巢少シク萎縮ス
精巢少シク萎縮シ水色ヲ呈セル部分アリ
卵巢少シク萎縮シ水色ヲ呈セル部分アリ
卵巢少シク萎縮シ水色ヲ呈セル部分アリ
卵巢少シク萎縮シ水色ヲ呈セル部分アリ

全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全

十二月六日

全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全

濱島灣

全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全

雌雄全性

全
成 放 成 放 成 放
熟 産 熟 産 熟 産

三、一〇 二、七五 二、六五 二、七〇 二、八〇 二、四五 二、九〇 三、〇〇 二、六〇 二、七〇 三、〇五 三、一〇 二、八〇 二、八〇 二、五〇 二、五〇 二、九〇 二、五五

三、八〇 三、二〇 三、二〇 三、四五 三、四五 三、〇〇 三、四五 三、六五 三、一〇 三、三〇 三、六〇 三、八〇 三、四〇 三、三五 三、〇〇 三、一五 三、六〇 三、一〇

生殖腺少シク收縮セリ
生殖腺發達ス
生殖腺少シク萎縮セリ
生殖腺發育ス
全 全
生殖腺中雄性ノモノ大ニ收縮セリ
生殖腺著シク膨大ス

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	二月 八日	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	放 産	全
二、二〇〇	二、一〇五	二、一五〇	二、二一〇	二、二七〇	二、三〇〇	二、三六〇	二、四一〇	二、四七〇	二、五三〇	二、五九〇	二、六五〇	二、七〇〇	二、七六〇	二、八二〇	二、八八〇	二、九四〇	二、四五〇	二、九〇〇
二、五五〇	二、四〇〇	二、五〇〇	二、六〇〇	二、七〇〇	二、八〇〇	二、九〇〇	三、〇〇〇	三、一〇〇	三、二〇〇	三、三〇〇	三、四〇〇	三、五〇〇	三、六〇〇	三、七〇〇	三、八〇〇	三、九〇〇	二、九〇〇 三、五五〇 三、四五〇	生殖腺收縮シ水色ヲ呈スル部分アリ 生殖腺半ハ收縮シ水色ヲ呈スル部分多シ

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	十二月十七日	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	濱島灣	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	雌雄全性	全
成 熟	全	全	全	全	放 産	成 熟	全	全	放 産	全	全	全	全	全	全	全	成 熟	全
二、七五〇	三、一五〇	二、九五〇	三、一〇〇	二、七五〇	二、九〇〇	二、六〇〇	二、七五〇	三、三〇〇	二、九〇〇	三、一〇〇	三、〇〇〇	二、九〇〇	三、二〇〇	三、三〇〇	三、四〇〇	三、五〇〇	三、五〇〇	三、五〇〇
三、五〇〇	三、七五〇	三、六五〇	三、七〇〇	三、四〇〇	三、五〇〇	三、五〇〇	三、四〇〇	四、二〇〇	三、六五〇	三、八〇〇	三、八〇〇	三、六〇〇	三、九〇〇	四、五〇〇	四、五〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	生殖腺少シク收縮ス 生殖腺ノ收縮セルヲ認ム

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	三月十八日	全	三月十三日
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	濱島灣
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	唯雅全性
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	放産
二、五〇	二、七〇	二、五〇	二、四五	二、四〇	二、三五	二、四〇	二、三〇	二、二〇	二、一〇	二、一〇	二、一〇	二、〇五
三、一〇	三、二〇	三、〇〇	二、八〇	二、七〇	二、八〇	二、八〇	二、八〇	二、五〇	二、五〇	二、四五	二、四〇	二、四〇
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全

生殖腺ニ萎縮シ水色ヲ呈スル部分多シ
生殖腺大ニ收縮シ初期ノ三分ノ一ヲ殘ス
生殖腺收縮シ三分ノ一ヲ殘スノミ
殆ント放産ス

明治三十三年十一月七日印刷
 明治三十三年十一月十日發行

(禁發賣)

三重縣水産試驗場

京橋區山城町六番地

印刷者 堀田道貫

(電話新橋 一一七七番)

印刷所 堀田印刷所

14
334

明治三十三年度

三重縣水產試驗場事業報告

圖 解

第一版 牡蠣ノ筭竹ニ着生セル圖

桑名郡伊曾島海中養殖場ニテ養成シタルモノニシテ三十三年八月中着生シ三十四年一月廿日採收シタル實形ナリ

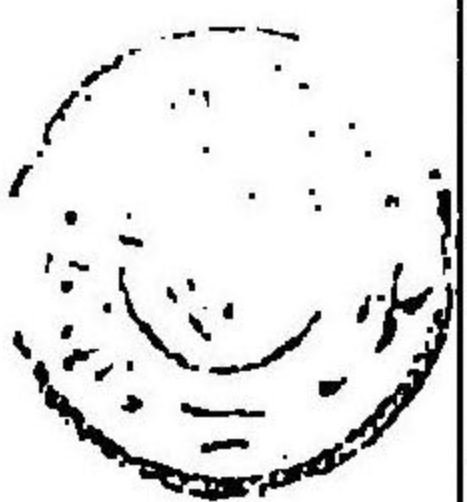
第二版 瓦付牡蠣及赤湖中生物圖

一、志摩郡鷗方海中養殖場ニテ養成シタルモノニシテ三十三年八月中着生シ全八月廿二日採收セル實形ナリ

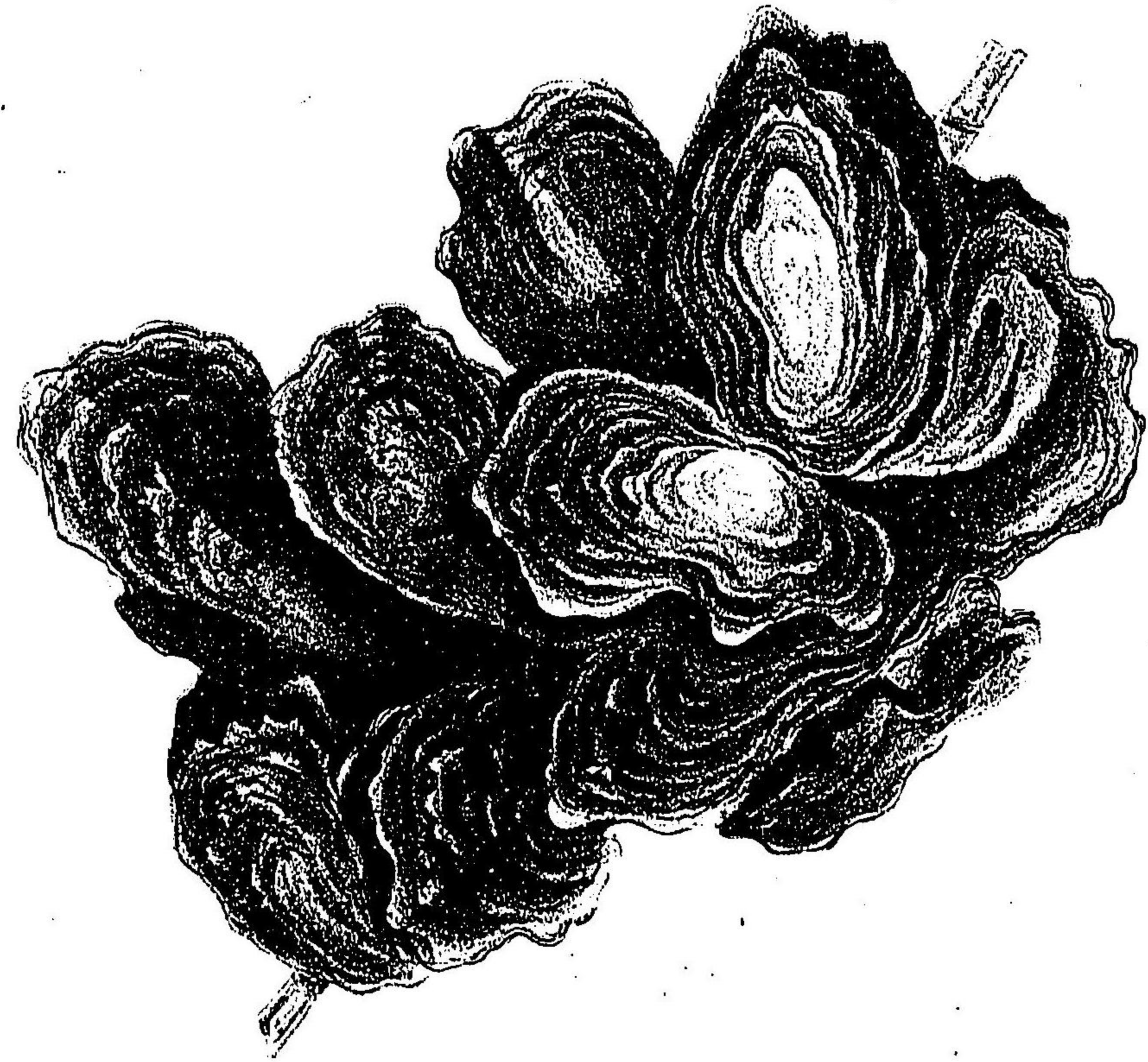
二、赤湖中主生物 *Geopanus* *Quisquamia* (六百五十倍)ノ擴大シタル實寫圖ニシテ實形ノ大サハ〇.〇四「ミ」メートルアリ

イ、脊面、口、腹面

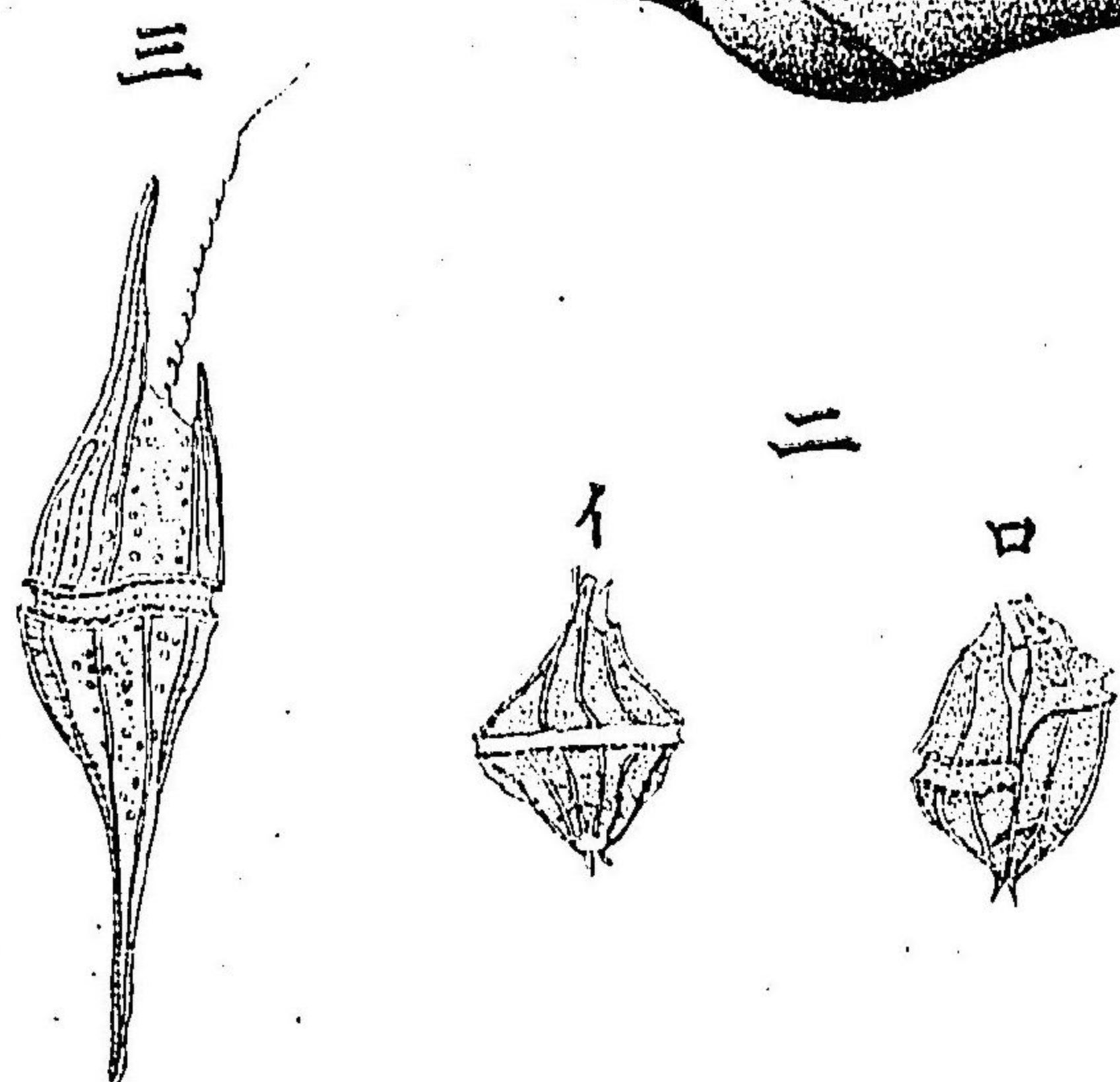
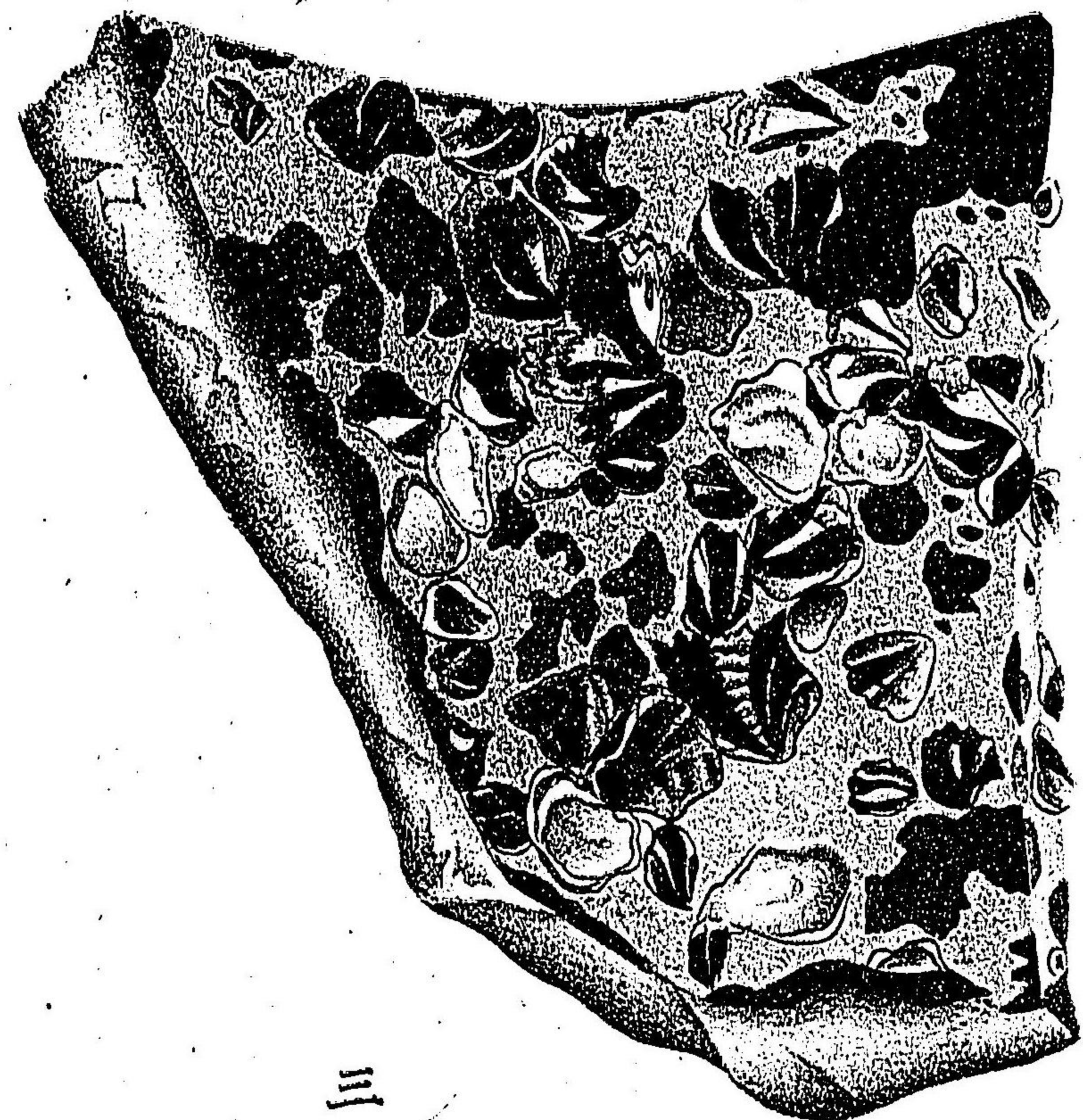
三、全 *Salinum* *Sp* (六百五十倍)ノ擴大シタル實寫圖ニシテ〇.一七「ミ」メートルアリ

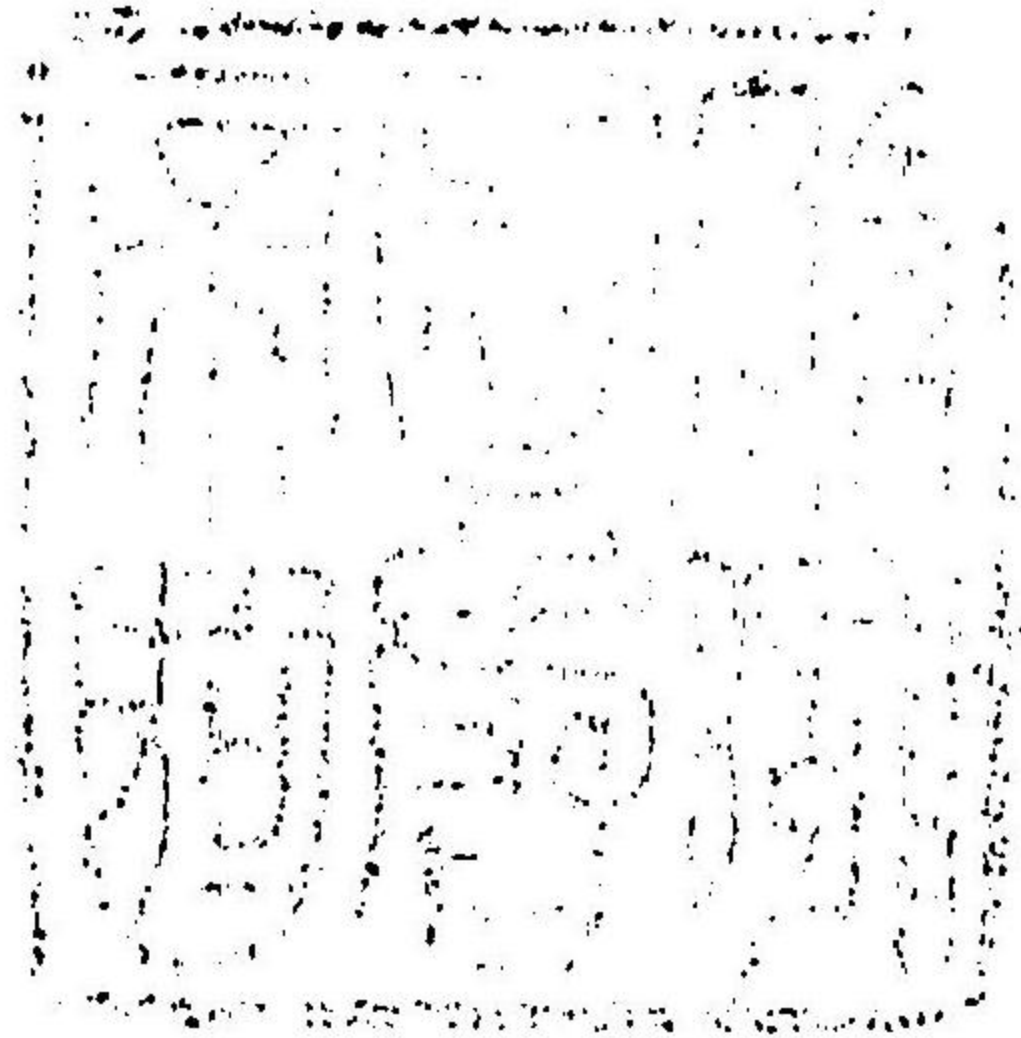


版 一 第



第 二 版





明治卅三年度三重縣水產試驗場事業報告

次



十七丁

十四丁

二十一丁

三十一丁

蕃殖部

一、球母養殖試驗

三十二丁

二、牡蠣養殖試驗

四十二丁

三、伏老養殖試驗

五十七丁

四、紫菜養殖試驗

五十九丁

五、池中養殖

六十四丁

鯉、鰻、泥鰱

六十五丁

調查部

一、生殖期節調查

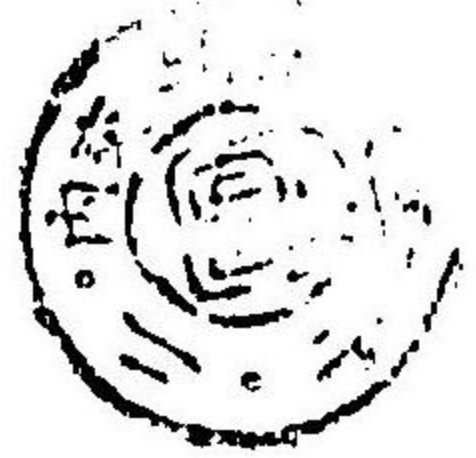
七十五丁

二、漁業報告

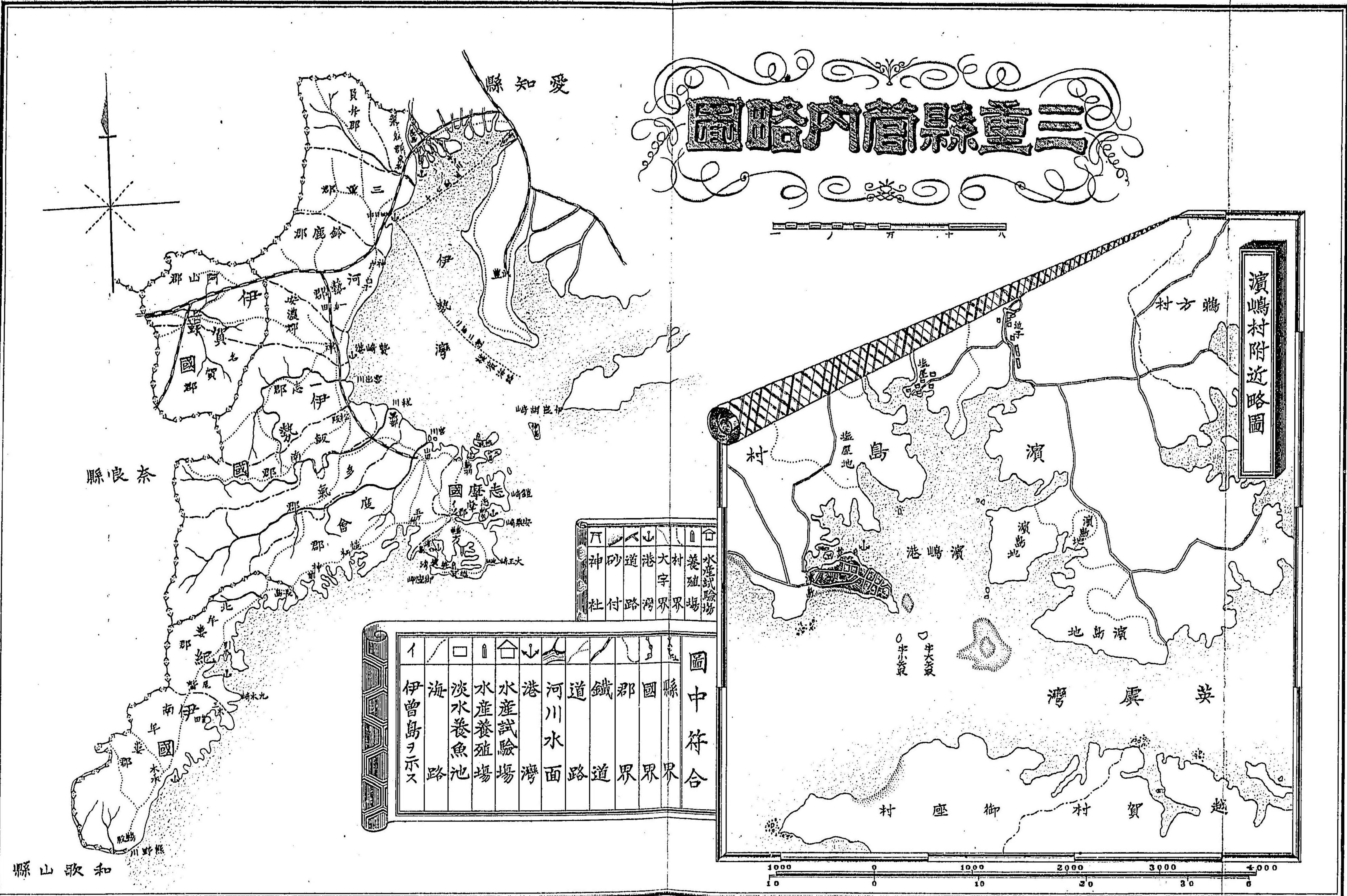
百三十三丁

三、氣象觀測

二百七十八丁



三重縣簡略內略圖

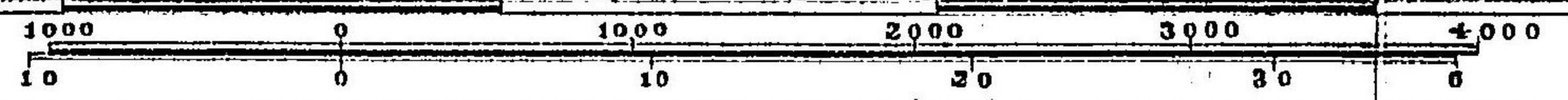


山	港	道	砂	神
大字	村	港	砂	神
界	界	路	付	杜

縣	國	郡	鐵	道	河	港	水	水	淡	海	伊
界	界	界	道	水	水	水	水	水	水	水	水
界	界	界	道	水	水	水	水	水	水	水	水
界	界	界	道	水	水	水	水	水	水	水	水

圖中符合

濱嶋村附近略圖



和歌山縣

明治三十三年重縣水產試驗場事業報告

漁撈部

鯉延繩利害試驗

鯉魚ハ縣下重要海産物ニシテ漁族ニシテ三十二年分勸業年報ニ依レテ五拾萬圓以上ノ漁額ヲ示シ實ニ該漁ノ豊凶ハ縣下外洋ニ而シテ沿岸漁村ノ經濟上至大ノ關係ヲ及ボス所ナリ從來鯉魚ヲ漁スルハ主トシテ竿釣法ヲ用ヒ來リ網具ハ近岸ニ群ルニ際用ニシテナリ然レモ此竿釣法ハ許多ノ資本ヲ用シ到底小漁業者ノ爲シ能ハザル所ニシテ且ツ種々ノ不便ヲ生シ漁業經濟上數年ヲ平均スルトキハ資本ノ損失ヲ招ク事往々アリ殊ニ近年勞力者ノ減少ハ鯉魚ノ欠乏トハ二層竿釣漁業者ニ困難ヲ増シメタリ斯ニ於テ近年鯉延繩釣法ヲ創メタルモノアリ其方法甚々簡單ニシテ些少ノ資本ト僅少ノ勞力ヲ以テ比較的許多ノ漁獲ヲ得ラル、ニ由リ沿岸一般ニ傳播シテ盛ンニ延繩漁具ヲ使用スルニ至レリ然ルニ從前ノ竿釣漁業者ハ之ヲ以テ彼等ノ漁業ニ害アルモノト信シ延繩漁法ハ鯉群ノ來游ヲ防ケ竿釣漁業ニ大ナル損害ヲ與フルモノナリト主張シ多數ヲ制シ漁業組合規約ヲ以テ殆ト之ヲ禁止シタルモ實利ノ存スル所自ラ之レニ赴キ易ク一部漁業者ハ尙規約ヲ凌テ之レカ使用ヲ絶タス且ツ組合規約中橫輪延繩ニ關シテハ少シク寬ナル制ナルヲ以テ之ヲ橫輪延繩ニ托シテ使用スルモノ鮮カラズ是レヲ以テ海上往々紛爭ヲ起シ竿釣漁業者ハ多數ヲ恃ミテ延繩漁者ヲ壓抑シ肆ニ彼等ノ漁具ヲ掠奪シ爲ニ互ニ漁利ヲ失フルニ至ルコトアリ

果シテ鯉延繩漁業ハ鯉釣漁業者等ノ謂フ所ノ如ク鯉竿釣漁法ニ甚大ノ妨害ヲ與フルモノナリ耶否耶且ツ又多少ノ阻害ハ之レ有リトスルモ漁業經濟上孰レカ尤モ利益多キ耶否耶ニ關シテハ實ニ研究シテ兩漁者間ノ關係ヲ明カニシ互ニ利益ノ増進ヲ圖ランメシ事ヲ目的トシ本場ニ於テ之レ

カ試験ニ着手シタリ

今縣漁業組合聯合會并ニ各漁業組合ノ規約中ヨリ鯉延繩ニ於ケル制限條項ヲ摘記スレバ左ノ如シ但シ橫輪延繩ハ鯉延繩ト殆ト異名同具ナルヲ以テ共ニ之ヲ附記ス

組 合 名	鯉 延 繩	橫 輪 延 繩
三重縣漁業組合聯合會	一切禁止	規定ナシ
度會郡南部漁業組合	一切禁止	自一月至五月使用
北牟婁郡漁業組合	一切禁止	自四月一日至五月一日禁止
南牟婁郡漁業組合	一切禁止	禁止
志摩郡北部漁業組合	一切禁止	規定ナシ
志摩郡南部漁業組合	一切禁止	自四月十五日至十月十日禁止

告報業事場驗試産水縣重三

鯉延繩ノ沿革及ヒ構造 鯉延繩ハ浮延繩類ノ一種ニシテ其ノ構造鯉延繩又ハ鯉延繩ニ均シク只浮標材ヲ幹綱ノ所々ニ附シ海ノ上層ヲ延敷スルノ差アルノミ元ト橫輪延繩ヨリ轉化シタルモノナリト傳フ是レ橫輪鯉魚等ハ其習性ニ於テ能ク相似タルモノナレバナリ

橫輪延繩又鯉延繩ノ起源ハ觀下シテ不明ニ屬スレモ要スルニ度會郡南部沿岸地方ヨリ創設サレタルモノ、如シ度會郡中島村大字阿曾ハ鯉延繩ノ起源地ナリト稱ス會テ同地ニ於テ調査シタル所ニ據レバ嘉永二年春阿曾ノ漁夫西浦三右衛門ナルモノ鯉延繩漁業中一日橫輪ノ枝系ニ罹レルヲ發見シ初メテ橫輪類ニモ延繩ノ用ヒラル、ヲ悟リ爾來大ニ工夫ヲ凝シ種々細繩ノ延方ニ意ヲ用ヒ或ハ延繩ノ一端ヲ沈メ他ノ一端ニ浮標ヲ結付シテ稍浮延繩ノ態トナセシニ普通鯉延繩ヨリハ多ク橫輪ノ漁獲アリタリ(但シ延繩ノ一端ヲ沈下セシメ他ノ一端ヲ浮上セシメタルハ鯛及橫輪ヲ共ニ漁獲スルノ工夫ナリシ

トモ云フ)夫レヨリ後安政元年同所漁夫江川藤吉ナルモノ復タ改良ヲ加ヘ延繩ノ所々ニ浮標材ヲ付シ全ク一種ノ浮延繩トナセシニ益々良結果ヲ得テ大ニ漁獲ヲ得ルニ至レリ爾來相傳播シテ隣浦ヨリ隣浦ニ及ホシ一般ニ橫輪延繩トシテ使用セラル、ニ至レリ如斯橫輪延繩トシテハ古クヨリ流布シタリシカ元來橫輪及鯉ハ其漁期習性酷々相均シキヲ以テ自然ニ鯉魚ノ漁獲多カリシタメ倍々進ンテ沖合ニ出漁シ鯉群ヲ導キテ該繩ヲ使用スルニ至リ多少ノ構造ヲ革メ遂ニ轉シテ鯉延繩トシテ使用セラル、ニ至レルナリト云フ蓋シ盛シニ鯉漁ニ使用セラル、ニ至リシハ數年前以前ノナリ今其構造ヲ述ブレハ左ノ如シ

告報業事場驗試産水縣重三

- 一 幹繩方目 原料麻あををヲ用ヒ四子右撚徑五厘長二百八十尋トス而シテ幹繩ノ兩端ハ長一尺許ヲ特ニ八子撚徑一分許トス此ノ部ヲ方言さいなト云フ之レ使用ノ際他ノ幹繩ト結付スル處ナリ
- 一 枝系 原料青茅ヲ用ヒ口元及ビ口の二部分ヨリナル幹繩ニ接スル部ヲ方言口元ト云ヒ四子右撚徑四厘長五尺口元ヨリ釣ニ至ルマテノ部ヲ方言ちのト云ヒ二子右撚徑二厘長十尺トス(但シちのハ特ニ精撰ノ麻ヲ用ユ)故ニ枝系ハ口元ちの合セテ十五尺トナリ一鉢ニ三十本ヲ附シ九尋距離トス
- 一 鈎 鐵鈎普通延繩用鈎八九分ヨリ一寸二三分ノモノヲ用ユ多クハ自家製又ハ播摩國吉本製ノ鈎ヲ使用ス(但シ枝系六本目毎ニ一二分許大ナル鈎ヲ結付ス是レ該繩使用ノ際ニ浮標材ヲ懸クルナリ)
- 一 鉢方目 槍製圓形ノ鉢ニシテ底ハ削竹ヲ荒ク編ミタルモノナリ直徑一尺四寸厚三分深サ二寸五分許而シテ其半圓ノ上部ニハ藁ヲ少サク束ネ編ミタルモノヲ結付シ枝系毎ノ鈎ヲ掛クルモノトス
- 一 附屬具浮標材方目 杉製周リ三尺高六寸許ノ密封樽ニシテ之レニ徑七厘長廿尺許ノ綱方目ヲ附ス(但シ浮標ハ十鉢ノ延繩ヲ使用スルニハ四個乃至五個ヲ要ス)
- 一 附屬具浮標竹方目 末口徑六分長六尺五六寸ノ竹ニ下部ヨリ凡二尺許上ニ周リ七寸余長八寸余ノ桐材ヲ麻糸ニテ結附

シ下端ニハ二百三十寸ノ石ヲ麻糸ニテ二寸許隔テ、繫着シ上端ニハ七八寸ノ白布ヲ付ス是レ延繩ノ目標トス(但シ浮標竹ハ延繩十鉢ヲ使用スルキハ五本ヲ要ス)

一浮材方骨 桐材周リ六七寸長八九寸許ノモノニテ一端ニ孔ヲ穿テ棕梠繩又ハ藁繩ヲ結付シタルモノナリ即チ枝系六本目ノ釣ニ之ヲ掛シルナリ

以上ハ延繩トシテハ普通一般ノ構造ナレド地方ニヨリ又ハ同地方ト雖モ漁夫等各自ノ意匠ニ依リ枝系ノ長サヲ十尺ニ又ハ七尺ニ枝系間ノ距離モ七尋ナルアリ又五尋ト爲スアル等其ニ於テモ多少ノ差違アルモノナリ

使用法及漁期 延繩ヲ使用スルニハ厩五尺内外ニシテかん(即チ餌活場ヲ備ヘ)四挺乃至五挺ノ櫓ヲ用ユル漁船(方言てんと又ハるんばト稱ス)ニ漁夫四人乗組ミ該延繩十鉢及擴大小二個鉤竿等ノ漁具ヲ積入レ早朝帆又ハ櫓ニテ出漁シ漁場ニ達スレバ海流ノ模様又ハ海鳥ノ飛翔ノ状態ニ依リ魚群ノ濃淡ヲ探察シ能ク其動靜ヲ見定メテ延繩延布ノ用意ヲナシ其進路ニ向テ潮流ヲ斜斷或ハ橫斷シテ延繩ヲ延下スルニハ通例左舷表ノ間ニ於テシ先ツ浮樽ニ付セル浮網ノ末端ヲ幹繩ノ一端ト共ニ縛シ之ヲ海ニ投シ夫レヨリ漸次幹繩枝系ヲ投ジ枝系ニハ釣ニ活繩ノ頭又ハ厩(頭部ト脊鰭トノ間)或ハ時トシテ尾部ヲ刺貫シテ之ヲ幹繩ニ纏絡セサル様注意シテ投下ス而シテ枝系六本目ノ大ナル釣ニ至レバ桐浮材ノ一端藁繩ニテ結付セル處ヲ掛ケテ投下ス之レ幹繩ヲ浮泛セシメンカ爲メナリ如斯一鉢ノ終リニ達スレバ更ニ又他ノ一鉢ト接合シ且ツ之レニ浮標竹ヲ結付ケテ共ニ之ヲ投下ス而シテ其ノ一鉢モ終リニ至レバ復タ他ノ鉢ト接合シ此ノ間ニハ浮樽ヲ結付ケテ投下ス斯ノ如ク浮標竹ト浮樽ト交互ニ一鉢ノ接キ目毎ニ結付シ全ク十鉢ヲ延ヘ終レバ末端ニ始メノ如ク浮網ヲ結ヒテ浮樽ヲ投下シ置クナリ其間二人ノ漁夫ハ常ニ櫓ヲ繰リ魚群ノ方向及潮流ノ模様ヲ謀リテ船ヲ進メ又幹繩枝系等ノ纏絡セザルカヲ注意ス延繩ヲ延下スルハ多クハ一人ノ漁夫之ヲ爲シ又一人ハ餌籠ヲ餌籠ニ抄ヒ或ハ一鉢ノ延終リニ近ケハ他ノ鉢ト接合シ浮標竹ヲ結付セル等隨時出來事ニ注意シテ延布漁夫ノ助手ヲナス此ノ延繩ヲ延下スルニ

當リ殊ニ注意スベキハ餌籠ノ損傷セサル様二三鉢毎ニ餌籠ノ海水ヲ酌ミ替ユル等及ブ可キ丈餌籠ヲ衰弱セシメザラシムベシ何ントナレバ餌籠弱リテ枝系ト共ニ水面ニ浮上スルカ如キ場合ニハ少シモ漁獲ヲ得ルコト能ハザレバナリ

該延繩ヲ延ヘ終ルニハ通常一時間以内トス而シテ全ク延終リタル後ハ終始延布セル延繩ノ附近ヲ巡航シ浮材ノ動搖セルモノヲ認ムレバ直チニ之ヲ線上ケ幹繩ヨリ枝系ヲ曳上ケテ攢ニテ捕魚ヲ抄得ス凡ソ鯉魚該繩ニ掛ルキハ釣ヲ脱セント欲シテ強ク枝系ヲ曳クヲ以テ幹繩ヨリ浮材ニ及ボシ之ヲ動搖浮沈セシムルモノナリ然シテ魚ヲ抄ヒ捕リタル際ニハ其ノ釣ニ復タ新ナル餌籠ヲ刺シ再ヒ之ヲ投下シ更ニ他ノ方向浮材又ハ浮標竹ヲ注意ス如斯シテ延繩ヲ巡檢シツ、凡ソ三四十分余ニ及ベバ最后ニ延下シタル一端ノ浮樽ヨリ之レカ線上ケニ着手ス線上方法ハ延下ノ時ノ如ク二人ノ漁夫ハ櫓ヲ操リ他ノ二人ノ漁夫ハ一人ハ幹繩ヲ線上ケ一人ハ枝系ヲ收メ漁獲物アルキハ一々攢ニテ抄ヒ捕ヘ浮標竹浮材及浮樽ハ元ノ如ク之ヲ取り片付ク線上ニ要スル時間ハ約一時間許リヲ通例トスレド時トシテ海況ノ變調又ハ漁獲ノ模様ニ由リ二時間余ヲ費スアアリ

全ク線上ケ終ルノ後更ニ魚群ヲ認ムル時而シテ尙時間ニ餘裕アルキハ再ヒ延繩ヲ整理シテ之ヲ使用スルコトアルモ時刻午後ヲ過クルキハ使用ヲ歇メテ歸港ス

餌籠ハ都テひらご及ヒシノ活餌ニシテ体長二寸以上五寸以下ノモノヲ用ヒ餌欠乏ノ場合ニハ小鯖等ヲ代用スルコトアリ漁期ハ四月中浣ヨリ十一月中浣迄トス即チ普通鯉釣漁期中ハ之ヲ使用スルコト得ルト雖モ就中四五月及九十月頃ヲ最好期トス漁場ハ沿岸二三湮ノ邊ヨリ十四五湮ノ沖合ニ至ルマテ凡ソ鯉魚ノ回游スル所ハ之ヲ使用セラレザルナシ殊ニ該延繩ハ鯉ノ外鮪鰯等ヲモ能ク漁獲セラル、モノナリ

試驗之方法、本試驗ノ方法ハ延繩ヲ實地ニ使用シテ利害ノ現象ヲ調査スルニ在リ由來鯉竿釣漁業者ノ延繩ノ害トシテ唱フル所ハ種々雜多ニシテ前後矛盾ノ說多シト雖モ之ニ約言スレバ左ノ四項ニ外ナラズ

一、沖合ニ於テ延繩ヲ延下スルトキハ鯉群桁繩又ハ枝系ニ恐レ忽テ遠洋ニ逃去シ爲メニ鯉釣漁業者ヲシテ空シシ鯉群ヲ逸セシメ何ノ捕獲ヲ得ル能ハザラシム

二、鯉釣船ニ於テ鯉魚ヲ釣獲スルノ際若シ誤ツテ網系ヲ切ラレ鯉魚ヲ遺逸セシムルトキハ他ノ鯉群モ之レト全時ニ散逸スルモノナリ是レト全シ理ヲ以テ延繩ノ枝系ニ罹リ之レヲ切斷シタル鯉魚アルトキハ他ノ數多ノ鯉群ヲ逸去セシムルモノナリ況ンヤ延繩ハ唯餌ヲ付シテ海中ニ泛在セシムルノミナレバ殊ニ釣糸ヲ切斷セラル、コノ夥シキニ於テヲギ

三、鯉魚延繩ノ釣ニ罹リ之ヲ脱セント欲シテ苦悶スルル又ハ途ニ枝系ニ罹リ片々トシテ海水中ニ漂フ時ハ他ノ鯉群之レニ驚キテ忽テ遠ク沖合ニ逸去シ鯉竿釣漁者ヲシテ空シク漁獲ヲ失ハシム

四、沖合ニ於テ延繩ヲ延下スルトキハ鯉群延繩ノ餌繩ニ付イテ海面ノ或下層ニアリテ容易ニ浮上セヌ爲メニ鯉竿釣漁者ヲシテ十分ニ漁獲ヲ得ル能ハザラシム

之レニ對シ延繩漁業者等ニ於テハ一々反駁シテ曰ク

一、鯉群ハ敢テ延繩ニ恐ル、モノニ非ス鯉群ノ盛ソニ群來スル時ニ當ツテハ延繩ノ附近ニ於テモ群ヲニ躍跳群游スルコアルハ屢々實驗スル所ナリ

二、鯉魚延繩ノ枝系ヲ切斷シテ逸去スルコト往々アリ夫レカ爲メ他ノ鯉群ヲ散散セシムルトスルモ或一部ノ鯉群ヲ散逸セシムルノミニシテ決シテ廣大ナル漁場ニ於ケル竿釣漁業者等ノ漁獲ヲモ防クルモノニ非ス下等動物ニシテ如何ノ急變害敵ノ有無ヲ一般ニ通信スルノ機關アラシヤ

三、鯉魚延繩ノ枝系ニカ、リ之レヲ脱セント欲シテ苦悶シ又ハ片々トシテ海水中ニ漂フト雖モ之レガ爲メ別段他ノ鯉群ヲ驚カシメザルガ如ク何ソトナレバ延繩ノ捕魚ヲ繰リ揚クルノ際他ノ鯉魚恰カモ之レニ戯ムル、ガ如ク浮泳シ來ルコアルハ往々見ル所ナリ

四、延繩延布ノタメ鯉群ヲ海面ノ或下層ニ游泳セシメ爲メニ竿釣漁業者ニ捕獲ナカラシムト云フノ說ハ甚々強率附會ノ說ナリ大凡鯉群ハ春秋ノ二季ハ常ニ海ノ或下層ニ在リテ浮上セザレモ夏季ニハ海ノ上層ヲ浮游スルヲ常トス是レ氣候ト海温トニ因リテ然ルモノ、如クサレバ延繩ノタメ常習ヲ變シ或ハ沈降シ又ハ浮上スル等ノコナシ

以上ノ如ク各說ヲ爲テ我田引水ノ論ヲ退フスルヲ以テ果シテ孰レカ事實ニ適合シタル說ナルカハ實地調査ノ上ニ於テ判斷セサル可ラズ故ニ前記四項ヲ以テ試驗要點ノ標榜トシ之レニ準シ實地調査ヲ爲サル可ラズ斯ニ於テ本試驗ハ各年鯉漁期ノ初メ即チ四月下浣ヨリ鯉漁期ノ終リ即チ十月末迄毎月約一週間宛出漁シ漁場ニ於テ魚群ヲ搜索シ之レニ向フテ延繩ヲ延布使用シ果シテ鯉群ノ之レニ恐怖シ忽テ群影ヲ失スルヤ否ヤ又ハ延繩ヲ延布シテ其ノ附近ニ於テ餌魚ヲ撒布シテ之レニ付クヤ否ヤ又延繩延下ノ近接ニテハ竿釣ヲ用ヒテ捕獲シ難キヤ否ヤ又ハ延繩ノタメニ魚群ノ浮上ヲ阻害スルヤ否ヤ其他延繩ノ使用中釣鉤ノ切斷數ト漁獲數トヲ檢シテ有害說第二項ノ關係ヲ調査スル等充分前記四項ニ關スル出來事ヲ注意調査ヲ爲シ併セテ各日漁業日誌ヲ備エ左記ノ事項ヲ調査記載スルコトス

天候 風向 風力 氣温 漁場 海流 水温 比重 使用時刻 捕獲額等

調査ニ使用スル漁船ハ五尺長五間二尺而シテ二尺ノ餌活場ヲ備エタルモノニシテ之レニ漁夫四人ヲ乗込マシメ延繩拾鉢鯉竿釣具擬餌飼餌等一般鯉釣ニ要スル漁具及氣象觀測器具ヲ準備出漁スルコトトセリ

本年度中試驗ノ成績 本試驗ハ本年度ヨリ創メテ之レカ試驗ニ着手シタルヲ以テ漁具ノ構成漁船ノ借入、漁夫ノ雇入等ノタメ甚々日子ヲ要シタルト又各月出漁時期中數々不穩ナル天候ニ際シタル爲メ尙又本年度鯉魚來去ノ狀態ハ春季及夏季ノ初メニ於テハ志摩沿岸盛ソニ群游ヲ見タリシモ夏季土用以后ヨリハ沿岸一般頓ニ鯉魚ノ來游減少シタル等ノ事情ニ由リテ充分ノ調査ヲ行フ事能ハザリシ今左ニ本年度中ノ出漁日誌ヲ掲ケ成績ノ顯著ナルモノヲ述ヘン

告報業事場驗試產水縣重三

年月日	漁場	漁具	漁夫數	使用時間	天候	風向	風力	氣温	海流	水温	比重	捕獲物	記	事
三月二十日	度會郡 約十三里	十餘網	四人	午前七時十分ヨリ 午前十一時マデ	晴	南東	2	18.0	南	17.5	1.025	鯉五尾	氣象上ノ觀測ハ午前十時トス。湖濱ノ附近ニ於テ一二艘ノ鯉釣船ヲ見ル	
三月二十一日	度會郡 約十三里	十餘網	四人	午前七時十分ヨリ 午前十一時マデ	晴	西	1	18.0	北東	17.5	1.025	鯉四尾	氣象上ノ觀測ハ午前十時トス。湖濱ノ附近ニ於テ一二艘ノ鯉釣船ヲ見ル	
三月二十二日	度會郡 約十三里	十餘網	四人	午前七時十分ヨリ 午前十一時マデ	晴	北西	3	18.0	北東	17.5	1.025	鯉三尾	氣象上ノ觀測ハ午前十時トス。湖濱ノ附近ニ於テ一二艘ノ鯉釣船ヲ見ル	
三月二十三日	度會郡 約十三里	十餘網	四人	午前七時十分ヨリ 午前十一時マデ	晴	北東	2	18.0	南西	17.5	1.025	鯉三尾	氣象上ノ觀測ハ午前十時トス。湖濱ノ附近ニ於テ一二艘ノ鯉釣船ヲ見ル	
三月二十四日	度會郡 約十三里	十餘網	四人	午前七時十分ヨリ 午前十一時マデ	晴	無風	0	18.0	北東	17.5	1.025	鯉二尾	氣象上ノ觀測ハ午前十時トス。湖濱ノ附近ニ於テ一二艘ノ鯉釣船ヲ見ル	
三月二十五日	度會郡 約十三里	十餘網	四人	午前七時十分ヨリ 午前十一時マデ	曇	無風	0	18.0	南西	17.5	1.025	鯉一尾	氣象上ノ觀測ハ午前十時トス。湖濱ノ附近ニ於テ一二艘ノ鯉釣船ヲ見ル	
三月二十六日	度會郡 約十三里	十餘網	四人	午前七時十分ヨリ 午前十一時マデ	曇	無風	0	18.0	南西	17.5	1.025	鯉一尾	氣象上ノ觀測ハ午前十時トス。湖濱ノ附近ニ於テ一二艘ノ鯉釣船ヲ見ル	
三月二十七日	度會郡 約十三里	十餘網	四人	午前七時十分ヨリ 午前十一時マデ	曇	無風	0	18.0	南西	17.5	1.025	鯉一尾	氣象上ノ觀測ハ午前十時トス。湖濱ノ附近ニ於テ一二艘ノ鯉釣船ヲ見ル	
三月二十八日	度會郡 約十三里	十餘網	四人	午前七時十分ヨリ 午前十一時マデ	曇	無風	0	18.0	南西	17.5	1.025	鯉一尾	氣象上ノ觀測ハ午前十時トス。湖濱ノ附近ニ於テ一二艘ノ鯉釣船ヲ見ル	
三月二十九日	度會郡 約十三里	十餘網	四人	午前七時十分ヨリ 午前十一時マデ	曇	無風	0	18.0	南西	17.5	1.025	鯉一尾	氣象上ノ觀測ハ午前十時トス。湖濱ノ附近ニ於テ一二艘ノ鯉釣船ヲ見ル	
三月三十日	度會郡 約十三里	十餘網	四人	午前七時十分ヨリ 午前十一時マデ	曇	無風	0	18.0	南西	17.5	1.025	鯉一尾	氣象上ノ觀測ハ午前十時トス。湖濱ノ附近ニ於テ一二艘ノ鯉釣船ヲ見ル	

告報業事場驗試產水縣重三

年月日	漁場	漁具	漁夫數	使用時間	天候	風向	風力	氣温	海流	水温	比重	捕獲物	記	事
三月三十日	度會郡 約十三里	十餘網	四人	午前七時十分ヨリ 午前十一時マデ	晴	北北西	2	18.0	南西	17.5	1.025	鯉五十尾	氣象上ノ觀測ハ午前十時トス。湖濱ノ附近ニ於テ一二艘ノ鯉釣船ヲ見ル	
三月三十一日	度會郡 約十三里	十餘網	四人	午前七時十分ヨリ 午前十一時マデ	曇	北	2	18.0	南	17.5	1.025	鯉二十八尾	氣象上ノ觀測ハ午前十時トス。湖濱ノ附近ニ於テ一二艘ノ鯉釣船ヲ見ル	
四月一日	度會郡 約十三里	十餘網	四人	午前七時十分ヨリ 午前十一時マデ	曇	北	2	18.0	南	17.5	1.025	鯉三尾	氣象上ノ觀測ハ午前十時トス。湖濱ノ附近ニ於テ一二艘ノ鯉釣船ヲ見ル	
四月二日	度會郡 約十三里	十餘網	四人	午前七時十分ヨリ 午前十一時マデ	曇	北	2	18.0	南	17.5	1.025	鯉三尾	氣象上ノ觀測ハ午前十時トス。湖濱ノ附近ニ於テ一二艘ノ鯉釣船ヲ見ル	

備考 本調査ニ雇用シタル漁夫ハ多少度會郡中島村及志摩郡濱島村全郡波切村ノ漁夫ニシテ鯉漁ニハ能ク熟シタル者ヲ採用セリ而シテ漁具ハ度會郡中島村ニ於テ之ヲ構成セリ

前章試驗方法ニ於テ述ヘタル有害無害兩説間ニ於テ主張スル所ノ四項ニ就キテ殊ニ注意觀察ヲ下シタルニ即チ有害説ノ第一項タル鯉延繩ヲ沖合ニ延布スルルハ鯉群桁繩又ハ枝糸ニ恐レ忽チ遠洋ニ逃去シ云々ハ本年度試驗ニ據レハ如斯状態ヲ認メザルノミナラズ特ニ七月中ノ出漁ニ於テ實驗スル所ニ由レバ延繩延下后鯉群ノ來遊ニ會セリ然ルニ鯉群ハ延繩ノ存在ハ更ニ意ニセザルモノ、如ク殊ニ甚クシキニ至ツテハ群游跳躍ノ際尾端ヲ以テ延繩ノ浮標材ヲ打ツク見タリ試ニ餌餌ヲ撒投シタルニ延繩延布ノ水面ニ接近シテ群游集シテ暫時他ニ泳去セザリシ此ノ際漁夫ヲシテ竿釣ヲ試マンメタルニ貳拾余尾ノ捕獲ヲ得タリ但シ該魚群ハ延繩ニテハ捕獲渺カリシト雖モ此ノ實驗ニ於テ有害説ノ第一項ハ全ク根據ナキ不確實ノモノト認定セザル可カラズ加之鯉延繩ハ竿釣漁者ト相混シテ之ヲ使用スルモ甚ク接近ノ場合ヲ除クノ外自他ノ間少シモ互ニ防害トナルノ患ナク共ニ漁獲ヲ得ルニ至ル可キハ數々ノ實驗ニ因リテ確認セラレタリ復タ有害説ノ第二項ノ如キハ未ダ充分ノ實驗ヲ經サリシト雖モ思フニ是レ一種ノ想像説ニ過キサルモノニシテ竿釣漁ノ場合ニハ或ハ如斯事

實アリトスルモ延繩ニ於テハ仮令數本ノ枝糸ヲ切ラル、コアリト雖モ爲メニ漁獲上甚クシキ影響ヲ及ボサルガ如シ七月中洗ヨリ八月ニ亘リテ鯉群ノ來遊頓ニ減少シタリシタメ夏季土用ノ浮上群(俗ニおかみト云フ)ニ對シテ調査ヲ遂クルヲ能ハス九、十兩月間ハ大王崎沖合ニ到リ調査ヲ行ヒタリシモ當時天候常ニ險惡ニシテ出漁ノ期ヲ得難ク又好天ノ日ヲ圖ツテ出漁スルモ鯉群甚ク稀ニシテ偶々群ニ遭會スルモ多ク鯨族ト混遊シテ泳行速カナリシヲ以テ又充分ノ成績ヲ擧グルヲ能ハサリシヲ遺憾トス

餌料貯藏試験

餌料ノ供給及ヒ貯藏方法ハ漁業經濟上重要ナル問題ナリ本場ハ縣下漁業上餌料トシテ使用セラル、各種魚介類ニ就キ諸種ノ貯藏方法ヲ試驗シテ漁業家ノ参照ニ附シ餌料供給上ノ利便ヲ圖ラシメンカ爲メ之レカ試驗ニ着手セリ然レモ本年度ハ貯藏藥品又ハ硝子燻等ノ準備ノタメ時日ヲ失ヒタルト且ツ原料ノ供給ニ乏シカリシタメ未タ充分ノ成績ヲ示スヲ能ハザリシ今左ニ試驗ノ事實ヲ錄シテ參考ニ供ス

由來餌料貯藏劑トシテ用イラル、藥品ハ諸種アリト雖モ硝石、水揚酸、硼酸等ヲ主ナルモノナリトス以上藥品ハ簡易ニシテ且ツ容易ク求メ得ラル可キ藥品ナルヲ以テ本場ハ以上三種藥品ト及ヒ食鹽トヲ以テ貯藏劑ニ供セリ原料ハ十分ノ供給ナカリシタメまいわし及ヒこましノ二種ヲノミ試用セリ

一、三十三年六月八日まいわし五種ノ配劑法ヲ以テ貯藏セリ其ノ原料及貯藏藥品割合左ノ如シ

- 第一號 硝石二匁四分 水揚酸五匁六分 食鹽三十四匁八分 清水四合(百九十六匁)
- まいわし百五十匁
- 第二號 硝石三十三匁 食鹽六十六匁 まいわし九十九匁
- 第三號 硼酸三十五匁 食鹽七十匁 まいわし百〇五匁

第四號 水揚酸一匁四分 食鹽六十一匁 まいわし六十三匁
 第五號 水揚酸十匁 食鹽百五十匁 まいわし百六十匁

一、貯藏后ノ模樣 前記貯藏餌料ヲ其貯藏ノ日即チ六月八日ヨリ一週間ヲ經テ六月十四日之ヲ驗シタルニ第一號ハ貯藏液黃色ニ變シ液面脂肪粒多ク浮出シ魚ノ眼球白色ヲ呈シ体稍膨脹ス第二號ヨリ第五號迄容量各三分位宛減縮ス而シテ魚体色澤少シク褪減シ眼球凹入稍々白色ヲ帶ブ復タ一週間ヲ經テ六月廿日ニ於テ驗シタルニ第一號ハ表皮剝落腹部壞裂シ所々ニ微菌ノ附着ヲ看ル第二號ヨリ第五號迄ハ前週ニ驗シタル時ト別ニ異狀ナク魚体稍緊縮セルノミ攝氏最高廿九度六最低十四度ニヲ示シ一ヶ月平均溫度廿一度九トス

貯藏后一ヶ月即チ七月八日之ヲ驗シタルニ第一號ハ魚体已ニ腐敗壞潰シ第二號ヨリ第五號迄ハ前週ニ異ナルヲナシト雖モ殊ニ第二號ハ色澤形狀甚ク良好ナリ斯ニ於テ第一號配劑法ハ餌料貯藏トシテハ効力ナキモノト認定ス可シ而シテ六月八日ヨリ七月八日迄ノ氣温ハ最高廿九度六最低十四度ニヲ示シ此ノ一ヶ月間平均溫度ハ廿一度九ナリシ

貯藏后一ヶ月即チ八月八日之ヲ驗シタルニ第二號ハ先月驗シタル時ト少シモ異ラス甚ク良好ナリ第三號ハ表皮剝落ヲ初メ肉質柔軟トナリ微菌ノ附着ヲ顯ハス第四號ハ第二號ニ亞イテ良好ナリ第五號ハ肉質緊縮乾固ノ狀アリ脂肪液面ニ泛イテ上面ノ一部ハ色澤帶黃褐色ナリ而シテ七月八日ヨリ八月八日迄ノ氣温ハ最高三十四度ニ最低十七度九ヲ示シ此一ヶ月平均溫度廿五度〇ナリ

貯藏后三ヶ月即チ九月八日之ヲ驗シタルニ第二號ハ或部分表皮少シク剝落ノ狀ヲ呈スレモ色澤宜シク他ニ異狀ナシ第三號ハ微菌ノ附着先月ヨリモ多ク色澤淡黃ヲ呈シ魚体柔軟ナリ第四號ハ第二號ニ亞イテ色澤良好ナレモ眼球ノ周邊ニ少シク微菌ノ附着ヲ見ル第五號ハ先月驗シタル時ト異ナラズ而シテ前月八日ヨリ九月八日迄ノ氣温ハ最高攝氏三十三度六最低攝氏二十一度一此ノ一ヶ月間平均溫度二十七度一ナリ

三重縣水産試驗場事業報告

貯藏后第四ヶ月即チ十月八日之ヲ檢シタルニ第二號ハ形狀良好先月檢シタル際ト異ナラス第三號ハ各部分微菌ノ附着甚クシク腐敗ノ狀アルヲ以テ之ヲ委棄セリ此ニ於テ第三號配劑法モ炎暑ヲ過コスヲ能ハザルモノト認定スルヲ得可シ第四號ハ微菌少シク附着シ肉質大ニ柔軟トナレリ然レモ色澤ハ良好ナリ第五號ハ液汁減少シ上部原料露出シ魚體乾固恰モ煮乾ノ如キ狀ヲ呈スレモ液汁濁ラズ寧ロ良好ナリ而シテ前月八日ヨリ十月八日迄ノ氣温ハ最高攝氏三十二度三最低攝氏十六度ヲ示シ此一ヶ月間平均温度攝氏廿四度一ナリ

貯藏后第五ヶ月即チ十一月八日之ヲ檢シタルニ第二號ハ前月檢シタル時ト異狀ナク益良好ナルヲ覺ニ第四號ハ外形甚クシク敗潰セザルモ肉質益柔軟トナリ最早餌料トシテノ効力ヲ失ヘルヲ以テ之ヲ委棄セリ思惟スルニ水揚酸ノ量減ニ過キシナラン歟第五號ハ異狀ナク色澤形狀共ニ先月檢シタル時ノ如シ而シテ前月八日ヨリ本月八日迄ノ氣温ハ最高廿五度六最低十二度四ヲ示シ此一ヶ月中ノ平均氣温ハ二十三度五ナリ

貯藏后第六ヶ月即チ十二月八日之ヲ檢シタルニ第二號ハ色澤形狀先月ト異ナラザレモ液汁少シク濁リヲ帶ブ第五號ハ色澤少シク赤味ヲ呈シ來レモ他ニ異狀ナク液汁モ亦濁ラズ而シテ前日八日ヨリ十二月八日ニ至ルマテノ氣温ハ最高廿二度六最低七度三ヲ示シ此一ヶ月中ノ平均温度ハ十七度三ナリ

貯藏后第七ヶ月即チ三十四年一月八日之ヲ檢シタルニ第二號ハ別段變狀ナク第五號ハ表皮甚クシク緊縮セルヲ覺ユルノミニシテ又先月ニ異ナラズ而シテ前月八日ヨリ本月八日迄ノ氣温ハ最高十五度五最低一度五ヲ示シ此一ヶ月間平均氣温ハ九度七ナリ

貯藏后第八ヶ月即チ三十四年二月八日之ヲ檢シタルニ第二號及第五號共ニ先月ト異ナラズ色澤體質共ニ能ク保テリ而シテ前月八日ヨリ本月八日ニ至ルマテノ氣温ハ最高十六度一最低零度一ヲ示シ此一ヶ月中平均氣温七度九ナリシ貯藏后第九ヶ月即チ三十四年三月八日之ヲ檢シタルニ第二號ハ色澤體質共ニ宜シケレモ液汁濁リヲ増シ上部ノ一部分ハ

ハ微菌少シク附着シ始メタリ第五號ハ先月檢シタル際ト別ニ異狀ナク液汁少シモ濁ラズ肉質能ク緊固セリ共ニ尚餌料トシテ使用セラル、ニ堪ユ可シ而シテ前月八日ヨリ本月八日ニ至ル迄ノ氣温ハ最高十六度八最低〇度三ヲ示シ此一ヶ月間平均温度五度四ナリ

一、三十三年十一月十五日こませヲ左ノ配劑法ヲ以テ貯藏セリ但シこませハ北勢内灣沿岸ニテ捕採シ直ニ攪漬シタルモノニシテ我縣志摩度會南北牟婁ノ各郡ニ於テ餌料トシテ使用スル處ノモノナリ

第一號	罐七百六十匁	硝石二十匁	水揚酸四十五匁	食鹽二十匁
第二號	罐七百五十匁	硝石十九匁	水揚酸四十四匁	食鹽二十匁
第三號	罐七百十匁	硝石十二匁二分	硼酸七十匁	食鹽三十匁
第四號	罐七百十匁	硝石十二匁二分	硼酸七十匁	食鹽三十匁
第五號	罐七百〇五匁	硼酸六十匁	水揚酸九匁	食鹽二十匁
以上五種ハ硝子燻ニ之ヲ貯藏セリ				
第一號	罐五百五百匁	硝石百八十五匁	食鹽二百匁	
第二號	罐五百匁	水揚酸百匁		
第三號	罐二百匁	硝石四十四匁	硼酸四十五匁	食鹽六十匁
以上三種ハ樽ニ之ヲ貯藏セリ				

貯藏后ノ模樣 前記貯藏罐ヲ貯藏ノ日ヨリ一週日ヲ經テ之ヲ驗閱シタルニ何レモ皆容積一割乃至二割ヲ減シ夫レ丈ケ肉質緊縮シ液汁一部ニ滯留シ色澤紫褐色ヲ呈セリ其後毎月之ヲ驗スルモ少シモ異狀ヲ呈セザリシ

罐ハ從來志摩外海及熊野海ニ面スル沿岸漁業家ノ編網餌料トシテ欠クベカラサルモノニシテ年々ノ需用額甚ク夥大ナ

三重縣水産試驗場事業報告

三重縣水産試驗場業務報告

リトス然レモ貯藏方法宜シキ得サルタメ損失ヲ招クモ亦タ妙カラズ故ニ前記罐貯藏試驗ニシテ完全ニ貯藏セラル、
ヲ得バ漁業家ヲ益スルコト蓋シ鮮少ナラズト信セリ猶此ノ藥劑貯藏罐ヲ實際ニ使用シテ魚類ノ捕獲ヲ完全ニ行ハル、哉ノ
點ニ就キ十分ノ試驗ヲ行ハント欲シタルモ遂ニ其機ヲ得サリシヲ遺憾トス

製造部

一、海參

三十二年度ニ引繼キ第二回試驗ヲナス其ノ試驗ノ方法順序ハ三十二年度ト異ナラザレバ之ヲ略シ左ニ本年度ニ於ケル試
驗ノ成績ヲ報告ス

原料

原料ハ三十二年度試驗ニ供シタルモノト同種同處産ノ海鼠ニシテ三十四年三月二十一日漁夫ノ網獲シタルモノニ係ル而
シテ其ノ試驗ニ供シタル量ハ總テ四百二十八貫八百二十匁ナリ

製造法

前陳ノ如ク製造ノ方法ハ三十二年度ニ異ナラザレバ茲ニ贅セズ左ニ參考ノ爲メ其ノ試驗日誌ヲ表記ス

第二回海參試驗日誌

月日	氣壓	氣温	風力	風向	雲量	降水量	天氣	記	事
三月廿一日	七五〇	三四	八	南風	八〇	—	曇	本日海鼠ヲ買入レ人夫ヲ備ヒ試驗ニ着手ス 翌日午前四時煮熟ヲ了ル	
三月廿二日	七六〇	三四	二	北風	二〇	—	晴	煮上ケタルモノヲ秤量シ蒸籠ニ排列シ鯨節製造納屋 ニアル火山ニテ焙乾シテ后日乾ス	

三重縣水産試驗場業務報告

全日	全日	四月一日	全日	全日	全日	全日	全日	全日	全日	全日	全日	全日
七五〇	七六一	七五〇	七五七	七五三	七五三	七五三	七六一	七五八	七五三	七五三	七五三	七五三
一五〇	一五〇	一五〇	一〇二	一〇一	一四三	一五〇	一七四	一五九	一三七	九二	三三	三三
和南風	吹北風	吹北風	和北風	強北風	和東風	和南風	和南風	吹西風	吹西風	和北風	吹東風	吹東風
一〇〇	二〇	〇〇	五〇	五〇	一〇〇	一〇〇	一〇	〇〇	〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一〇〇	一五	—	—	—	五三	四四	—	—	—	〇三	一六	一六
雨	雨	快晴	晴	晴	雨	雨	快晴	快晴	快晴	雨	雨	雨
納屋ニ入レ陰乾シ置ク 午后四時半ヨリ降雨	午前十時ヨリ日乾 午后四時三十分ヨリ降雨	全上	終日日乾ス	本日焙乾シ納屋ニ置ク	納屋ニテ陰乾ス	午前十時三十分ヨリ降雨	全上	全上	終日日乾ス	焙乾シ納屋ニ擴ゲ陰乾ス 午后三時過ヨリ降雨	焙乾シ納屋ニ擴ゲ陰乾ス 午后三時四十分雨歇ム	焙乾シ納屋ニ擴ゲ陰乾ス 午后三時過ヨリ降雨

廿七日	廿六日	廿五日	廿四日	廿三日	廿二日	廿一日	二十日	十九日	十八日	十七日	十六日
七二、二	七〇、九	七〇、八	七〇、二	七〇、二	七〇、八	七〇、三	七〇、九	七〇、六	七〇、一	七〇、三	七〇、六
一六、八	一四、八	一七、八	一九、三	一五、七	一七、六	一九、〇	一五、五	一五、一	一六、六	一五、四	一四、六
疾北 風東	疾東 風	吹東 風	無 風	和北 風東	和北 風	無 風	和北 風西	吹北 風	和西 風	強西 風	強北 風東
10.0	10.0	10.0	0.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	0.0	1.0	10.0
1	三、九	五、〇	1	〇、〇	一五、七	二、一	1	三、〇	1	1	〇、〇
曇	雨	雨	快晴	曇	雨	雨	曇	雨	快晴	快晴	曇
納屋ニ入レ置ク	午前六時ヨリ降雨	全上	全上	納屋ニ入レ置ク	午前二時三十八分ヨリ降雨全八時二十三分歇ム午後九時ヨリ降雨	納屋ニ入レ置ク	午前七時五十分雨歇ム	納屋ニ入レ置ク	午後二時三十分ヨリ降雨	終日日乾ス	納屋ニ入レ置ク 午前十一時三十五分雨歇ム

十五日	十四日	十三日	十二日	十一日	十日	九日	八日	七日	六日	五日	四日
七六、〇	七六、〇	七六、二	七六、七	七〇、一	七〇、三	七五、四	七三、五	七〇、九	七二、五	七二、六	七〇、三
一六、一	一六、七	一五、四	一四、一	一三、五	一六、五	一六、一	一六、八	一六、二	一六、四	一四、一	一五、七
疾東 風	和東 風	疾東 風	疾北 風東	強西 風	無 風	和東 風	和北 風	無 風	吹南 風西	和西 風	和北 風
10.0	四、〇	10.0	10.0	0.0	10.0	三、〇	二、〇	10.0	三、〇	1.0	10.0
六、六	〇、五	一、五	1	1	六、四	一七、五	1	1	1	1	三、七
雨	雨	雨	曇	快晴	雨	晴	晴	曇	晴	快晴	雨
納屋ニ入レ置ク 午后二時四十八分ヨリ降雨	納屋ニ入レ置ク 午後二時五十分ニ少雨アリ	納屋ニ入レ置ク 午後七時ヨリ全九時十八分迄降雨	納屋ニ蒸籠ニ入レタル儘積ミ置ク	終日日乾ス	納屋ニ入レ置ク	午後二時十分ヨリ降雨	全上	納屋ニ入レ置ク	全上	終日日乾ス	納屋ニ入レ置ク

三重縣水産試驗場業務報告

九全	八全	七全	六全	五全	四全	三全	二全	一五	三全	廿全	廿全
日	日	日	日	日	日	日	日	日月	十日	九日	八日
七 五 三	七 三 〇	七 二 四	七 〇 四	七 五 四	七 九 三	七 三 九	七 三 八	七 三 六	七 三 五	七 〇 七	七 三 七
二 五 二	三 三 三	四 八 八	二 五 七	五 八 八	一 九 一	三 三 六	三 三 七	三 〇 一	三 三 三	二 〇 〇	一 六 二
吹東 風	吹北 風	吹北 風	無 風	吹北 風	吹東 風	無 風	和南 風	和南 風	吹西 風	無 風	吹西 風
一 〇 〇	九 〇 〇	一 〇 〇	一 〇 〇	一 〇 〇	一 〇 〇	〇 〇 〇	二 〇 〇	一 〇 〇	〇 〇 〇	一 〇 〇	八 〇 〇
一 一 六	〇 五 〇	四 二 二	五 五 五	一 九 一	四 〇 〇	—	—	—	—	〇 六 六	—
雨	雨	雨	雨	雨	雨	快 晴	晴	曇	快 晴	雨	曇
納屋ニ入レ置ク 午前四時四十五分ヨリ降雨	全上	納屋ニ入レ置ク	午前八時三十五分ヨリ降雨全十一時五十分歇ム午後 三時廿分ヨリ降雨 納屋ニ入レ置ク	納屋ニ入レ置ク 午前十時三十分雨歇ム	納屋ニ入レ置ク 午前十時ヨリ降雨	終日日乾ス	午前八時ヨリ蓬草ノ煎汁ヲ以テ海參ノ色付ヲナシ 又蒸籠ニ並ラベ日乾ス	全上	全上納屋ニ入レ置ク	納屋ニ入レ置ク 午前十時二十六分ヨリ午後一時二十分マデ降雨	全上

三重縣水産試驗場業務報告

十二全	十一全	十全
日	日	日
七 五 三	七 五 〇	七 五 八
二 六 八	二 一 七	二 七 五
吹北 風	吹西 風	吹南 風
一 〇 〇	八 〇 〇	一 〇 〇
〇 〇 〇	—	三 四 四
快 晴	曇	雨
終日日乾シ全ク乾了ス以テ其ノ製品ヲ貯藏桶ニ入レ 貯フ 午後一時四十分ニ少雨アリタルレ直ニ歇ム	全上	納屋ニ入レ置ク

備考

本表ハ毎日午前十時ニ於テ觀測シタルモノナリ

氣壓ハ水点ニ更正シタル數ナリ

氣温ハ攝氏ノ寒暖計ヲ以テ觀測シタルモノナリ

風向ハ北、北東、東、南東、南、南西、西、北西、ノ八方ニ風力ハ無風吹風和風疾風強風烈風颶風ノ七種ニ分テリ

雲量ハ零ヨリ十ニ至ル數ヲ以テ區別シ雲量ニ以下(ニヲ含マズ)ヲ快晴トシ八以上(八ヲ含ム)ヲ曇天トシ全日

ノ降水量十分ノ一以上ニ達シタル日ヲ雨天日數トナシタリ

降水量ハ當日午前十時ヨリ翌日午前十時ニ至ル間ノ降水量ヲ其日ニ於ケル量トナセリ而シテ表中〇、〇トアル

ルハ降雨アリタルモ其ノ量僅少ニシテ測ルコト出來サルモノニシテ一ヲ以テ充タシタルハ全ク降水ナキ日ナ

リ

上表ノ如ク今回ノ試驗ハ三月二十一日ニ始メ五月十二日ニ製了セリ其ノ間五十三日ヲ要セシト雖レ之レ試驗中ノ天候晴

天少ナク曇雨天勝多カリシタメ乾燥ニ多クノ時日ヲ費ヤセシガタメナリ

步止リ

歩止リハ左表ニ示ス如ク原料四百二十八貫八百二十匁ヲ脱腸洗除シテ二百〇五貫七百匁トナリ之ヲ煮上ゲテ六十四貫五百六十匁ニ減シ之ヲ乾燥色付ヲナシ製了シテ十二貫三百九十匁トナル即チ原料ニ對シ歩止リハ百分ノ二、八九ニ當ル之ヲ三十二年度試験ノ歩止リ百分ノ三、一四ニ比較スルニ〇、二五ノ差アリ之レ原料ノ大小期節ノ遲速ニヨリ此ノ差違ヲ生ゼシモノナランカ

製造年月日	原料ノ產地	生重量	全上脱腸量	全上煮揚量	全上乾燥量	歩止リ
三十三年三月二日	志摩郡濱島村灣内産	三八七匁	一八、〇三匁	五、〇一匁	一〇、三〇匁	三分一厘四
三十四年三月廿一日	全上	四八八匁	二五、七〇匁	六、五〇匁	二、三九匁	二分八厘九

三 重 縣 水 産 試 驗 場 事 業 報 告

元來海鼠ハ製造シテ甚シク量目ヲ減シ其ノ形狀ヲ縮小スルハ驚クベキモノニシテ其歩減ノ度ハ海鼠ノ大小ハ生長ノ度及ヒ期節ニヨリテ甚シキ差違アルモノナリ一般ニ小ナルモノハ大ナルモノニ比シ減量多ク寒中捕獲製造シタルモノハ春季ニ製シタルモノヨリ歩止リ多シ故ニ海鼠製造上海鼠ノ大小期節ヲ撰ムハ最モ必要ノコトニシテ當業者ハ宜シク茲ニ留意シテ製造ヲ施ササルベカラズ尙試験ヲ積ンデ詳論スル處アルベシ

製品ノ貯藏

製了シタル海鼠ハ豫メ用意セル箱又ハ四斗桶(内部ヲミたん板ニテ張リタルモノ)ニ入レ堅ク蓋ヲナシ販賣ノ時期迄貯ヘ置ケリ凡ソ製品ハ販賣ニ供スル迄適當ノ方法ヲ以テ貯藏シ置クハ當業者ノ務ムベキ事柄ニシテ即チ乾燥シタル桶又ハ箱等ニ詰メ蓋ヲ施シ濕氣ノ少ナキ處ニ貯ヘ置キ適宜一二回日乾スベシ若シ貯藏ノ方法ニシテ欠クル處アレハ品質ヲ損シ意外ノ失敗ヲ招クモノナレバ宜シク注意スベキコト、ス

三十二年度試製ノ海參試賣

三十二年度ニ於テ試製ノ海參ハ左ノ如ク大中小ノ三種ニ分チ三十四年二月五日大阪市西區阿波堀通四丁目貿易商小泉清左衛門ニ試賣シタルニ左ノ價格ヲ得タリ

- 大 (每個ノ重量平均五匁五分) 百斤ニ付金五拾八圓替
- 中 (每個ノ重量平均二匁八分) 百斤ニ付金四拾圓替
- 小 (每個ノ重量平均壹匁五分) 百斤ニ付金貳拾六圓替

而シテ小泉清左衛門ハ本品ニ就キ左ノ如ク品評ヲナセリ

(前略)御送附被下候海參ハ大五拾八圓中四拾圓小貳拾六圓等ニテ取計賣込申候御仕立方(製造法ノコト)ハ一点ノ申分無之誠ニ良製ニ御座候併シ乾目ハ斯ル上乾ニハ不及此ノ乾目ヨリ七八分乃至一割方若干ニ被遊候方御利益ニ御座候ニ乾キ宜敷ニ上越ス事ハ無之候得共左迄上乾キノ割ニ買望ミ不申候間左様御承引之上御製造可然ト奉存候(下略)又大坂地方海參販賣時期ニ就キ左ノ如ク回答アリタリ

(前略)海參販賣好季節ハ一年度ノ内先ツ舊二月中夫レヲ經過セバ舊七八月或ハ舊十一月中ヨリ舊一月十日頃迄方宜敷御座候其他ノ日ニテモ賣買出來候得共輸送地ニ於テ需用乏敷折柄ニ付氣配極メテ惡シク隨テ相場モ百斤ニ付大品ニテ拾圓内外中以下ノ品ニテ四五圓方安價ナラデハ取組出來不申候右二月中ヨリ七八月中ニ及ヒ十一月中ニハ彼地必要好時期ニ付平素ノ相場ヨリ必ズ多少上進可仕候ハ是迄ノ例ニ御座候(下略)

一、乾海苔

乾海苔製造試験ハ紫菜養殖試験ト共ニ三十二年度ヨリ桑名郡伊島村赤渚水産株式會社内ニ於テ行ヘリ其原料採取法及ビ製造上ノ順序方法ハ前年度報告ニ同シケレバ略ス

三 重 縣 水 産 試 驗 場 事 業 報 告

本年度乾海苔製造試驗ハ三十四年一月十八日より全年四月十日ニ至ル間五回場員ヲ伊曾島海中養殖場ニ出張セシメ製造ヲナセリ其抄製枚數ハ左表ノ如シ(判ノ大サハ東京ニテ小判ト稱フルモノナリ)

試驗回数	抄製年月日	抄製枚數	記	事
第一回試驗	三十四年一月廿三日	五五二枚	一月廿二日紫菜ヲ摘採シ翌日抄製乾了セリ	
第二回試驗	二月六日	一二一九	二月五、六ノ兩日ニ紫菜ヲ採収シ全月六、七、八ノ三日ニ抄製乾了セリ	
第三回試驗	三月八日	一二三二	三月七、八ノ兩日ニ紫菜ヲ採収シ全月八、九ノ兩日ニ抄製乾了セリ	
第四回試驗	三月廿三日	七三二	三月廿二日紫菜ヲ採収シ廿三日ニ抄製乾了セリ	
第五回試驗	四月九日	七六八	四月八日紫菜ヲ採収シ九日ニ抄製乾了セリ	
合計		四四九三		

三重縣水産試驗場業務報告

而シテ製品ハ製造ノ都度本場ニ送り焙乾ヲ施シ亞鉛板製ノ貯藏函ニ詰メ厚紙ニテ目張ヲナシ密封シテ一定ノ室内ニ貯藏シ置キタリ

製品ノ試賣

製品ヲ左記ノ三種ニ分チ之ニ前年度製造ノ乾海苔ヲ加ヘテ四種トナシ各見本ヲ深ヘ東京市日本橋區通三丁目乾海苔問屋津島儀助、名古屋市船入町四丁目名古屋水産合資會社ニ就キ價格ヲ問合セタルニ次ノ如ク回答アリシニヨリ其ノ高價格

者ナル津島儀助ニ試賣スルコト、セリ

- 第一號 第一回第二回製造ノ乾海苔
- 第二號 第三回第四回製造ノ乾海苔
- 第三號 第五回製造ノ乾海苔
- 第四號 三十二年度製造ノ乾海苔ニシテ變色シタルモノ

津島儀助ノ報告

(前略)兼テ小包ヲ以テ御送附被下候御見本ノ海苔昨今相場左ニ

- 一、第一號海苔 百枚ニ付 金五拾錢
- 一、第二號海苔 全 上 金四拾五錢
- 一、第三號海苔 全 上 金四拾錢
- 一、第四號海苔 全 上 金拾 錢

右之通りニ御座候(下略)

名古屋水産合資會社ノ報告

(前略)海苔見本四品御送附被下拜見仕候處何レモ上黒品質上等殊ニ第一、二號トモ東海本場物同様ト存候第三號ハ色黒帶ニ候ヘトモ品物ハ少シ落ル様思ヒ候第一、二號ハ目今賣地成行百枚三十五錢位ニ第三號ハ三十錢位ニ第四號即チ古物ハ賣捌見込ナシ(下略)

三、鹽 鱈

鹽鱈ハ縣下産鹽魚中屈指ノモノニシテ年々其ノ産額ヲ増加セリ左ニ最近五ケ年間ニ於ケル鹽鱈ノ産額表ヲ掲ゲン

沿海郡市	次	明治二十九年	全三十年	全三十一年	全三十二年	全三十三年
桑名郡		四	四	四	四	四
三重郡		一七一	一八、〇七二	四四、〇一五	三九、八七〇	七四、六二五
四日市市			二七四	一九六	三、七八〇	八、七五〇
河越郡		三、六一五	八二二	三、七八三	三、八八九	三三、三四八
津市				一六五		七、三二〇
安濃郡						
一志郡		四五〇	四〇〇	三〇〇	四五〇	一三、四七五
飯南郡					四八〇	四五〇
多氣郡			八〇〇	一、四八〇	一、一九七	一、三六五
度會郡		一、一九一	三、三八三	六、一八三	四九二	五三
志摩郡		二、三〇			五、二五一	二、五八八
北牟婁郡		五四五	五、九二一	一一、二三〇	二五、八〇八	二四、六九八
南牟婁郡		七九〇	一、七六三	一、一一八	一、八三二	一、五四三
計		六、九九二	二二、五〇四	七六、五七〇	八三、〇四九	一六八、六七二

表ノ如ク鹽産額ハ年一年ニ其ノ産額ヲ増加シ明治三十三年ニハ實ニ拾六萬八千六百余圓ニ達セリ之レ年々交通機關ノ備ハ

三重縣水産試驗場業務報告

ルト共ニ各漁村ト都會トノ交通日ニ月ニ開ケ鮮魚ノ販路擴張シ爲メニ魚價騰貴シ到底搾粕干鰯ニ製スルモ収支相償ハサルニ至リ從テ鹽産額ヲ製スルモノ多キニ至リタル結果ニ外ナラズ且ツ鹽産ハ多クハ山間僻地ノ人士ノ食膳ニ供セラレ彼等ヲシテ低廉ナル滋味ヲ得セシムルモノハ獨リ之レアルノミ眞ニ社會的ノ有用食用魚類トス然ルニ從來各村浦ニ於テ製スル鹽産見ルニ一般ニ粗笨ニシテ或ハ原料ノ陳ナルアリ或ハ用鹽ノ品質ヲ吟味セズ苦汁多キ粗鹽ヲ以テ浸漬シタル等アリ加フルニ荷造貯藏ノ方法ノ不完全ニシテ需用地ニ輸ル前已ニ魚体ノ水分蒸散シ脂肪分滲出シテ赤色ヲ帶ビ所謂「油燒ケ」ナルモノヲ生ジ當ニ其ノ形色ヲ損スルノミナラズ往々有害物ヲ生スルコトアリテ到底永久ノ貯藏ニ堪ヘシムルコト能ハズ之レ本邦ニ於テ鹽産ノ中流以上ノ人士ノ食膳ニ昇ラザル所以ナリ依之本場ハ本年度ヨリ鹽産ノ改良試驗ヲ行ヒ其ノ模範ヲ當業者ニ示シ益々之レガ産出ヲ増大ナラシムルコトニ力メタリ左ニ本年度ニ於ケル試驗ノ成績ヲ掲ゲテ參考ニ供ス

一、原料

試驗ニ供セシ鰯ハ所謂大羽鰯ニシテ志摩郡答志村ノ沖合俗ニ神島下場ト稱スル漁場ニ於テ同村漁夫ノ鰯刺目網ヲ以テ捕獲シタルモノナリ（答志村ハ鰯刺目網漁業ノ盛ナル地ニシテ朝夕二回ツ、出漁ス原料ハ即チ夕漁ノモノニシテ三十三年十一月十九日購入セリ）而シテ該網ハ魚ノ鰹蓋ヲシテ網目ニ懸シムル裝置ナレバ之ヲ網目ヨリ抜き取ルニ際シ或ハ頭ヲ落シ或ハ腹ヲ裂リモノアリ是等ハ製造ノ際取り除キ完全ナルモノノミヲ撰ミ用ヒタリ

二、製法

購入シタル鰯ハ一度海水ニテ丁寧ニ洗ヒ塵砂等ヲ除去シ策ニ入レ水分ヲ滴下セシメタル後適宜凡ソ其ノ量ヲ計リ莖上ニ入レ二人ニテ莖ノ両端ヲ持テ前後ニ鰯ヲ振り動カシツ、食鹽ヲ撒布シ魚体ニ平均ニ附着シタル度トシテ豫メ用意セル酒空樽（樽ノ内部ヲ藁火ニテ狐毛色ニ燒キ温湯ニテ洗ヒ次ニ冷水ニテ丁寧ニ洗滌シ以テ鹽水ノ漏洩セザル様ナシタルモ

ノニ底ノ見エザル迄食鹽ヲ撒布シタルモノニ頭尾ヲ揃ヘテ整然ト排列シ一層毎ニ食鹽ヲ撒布ス層々魚ト摺トテ詰メ重
 ネ樽ニ充ツレバ最上層ニモ又魚体ノ見エザル迄食鹽ヲ撒布シ其ノ上ヲ蓋ヲ以テ蔽ヒ置ケリ而シテ翌朝毎樽ノ魚ヲ撿シタ
 ルニ各樽トモ容量減ゼシヲ以テ其ノ減量丈ケ詰メ上ニ食鹽ヲ撒布シ蓋ヲ俵メ細掛ゲヲナシ直ニ之ヲ本場ニ送り本漬ニ着
 手セリ

本場到着后一日ヲ經テ(即チ製造ノ日ヨリ六日目ニ)本漬ヲナセリ其法假漬樽ノ鹽汁ト共ニ大ナル半切桶ニ入レ鹽
 汁ニテ丁寧ニ汚物ヲ洗ヒ落シ箆ニ揚グ水分ヲ滴下セシメタル後更ニ新ラシキ酒空樽ニ(假漬樽ノ如ク内部ヲ燒キ清潔ニ
 ナシタルモノ)底ノ見エザル位食鹽ヲ撒布シ之ニ右ノ鰻ヲ頭尾ヲ揃ヘテ排列シ一層毎ニ少量ノ食鹽ヲ撒布ス斯クノ如ク
 鰻ト食鹽トヲ交々層々樽ニ詰メ滿ツレバ上層ニ食鹽ヲ撒布シ直チニ蓋ヲ堅ク俵メ蓋ニ設ケアル孔ヨリ飽和食鹽水ヲ魚体
 ヲ全ク蔽フ迄注入シ捨テナシ納屋ニ貯藏セリ爾後時々各樽ヲ撿シ鹽水ノ漏出セルモノニハ更ニ飽和食鹽水ヲ補注セリ
 用鹽ハ特ニ本場技手ヲ製鹽地ナル多氣郡東黒部村ニ派シテ所謂眞鹽蒸法及洗取法ヲ以テ煎鹽セシメタル苦汁(ニガキ)上等
 鹽ナリ其ノ假漬及ビ本漬ニ要シタル鹽量ハ左ノ如シ

假漬ハ所謂撒鹽ニシテ一樽ニ付平均七升八合ニシテ本漬ハ立鹽(即チ濃厚鹽水ヲ以テ浸漬シ壹樽ニ付平均撒鹽叁升及
 ビ飽和食鹽水壹斗ヲ要セリ而シテ飽和食鹽水ハ淡水一斗ニ付食鹽六升ノ割合ヲ以テ釜ニ入レ一旦煮沸冷却シタルモノニ
 シテボーン一氏比重計二十四度五(溫度攝氏十八度五)ナリ

本試驗ハ明治三十三年十一月十九日志摩郡答志村ニ於テ原料ヲ買ヒ入レ假漬ヲ行ヒ之ヲ本場ニ輸送シ全月廿四、廿五ノ
 兩日ヲ以テ本漬ヲナシタリ而シテ試驗ニ供シタル鰻ハ假漬ニテ二拾樽(酒空樽)之ヲ本漬ニ詰メ直シテ拾八樽ヲ得タリ其
 每樽ノ鰻ハ左表ノ如クニシテ總テ鰻壹萬九千五百八十尾アリタリ

樽數	一樽鰻尾數	假漬ニ要シタル食鹽	本漬ニ要シタル食鹽
		撒	一飽和食鹽水

○ 第一號	一、一〇〇	一、四〇四	一、八〇〇	本樽ハ貯藏試驗ノタメ本場ニ置ク
○ 第二號	一、一〇〇			
○ 第三號	一、一〇〇			
○ 第四號	一、一〇〇			
○ 第五號	一、一〇〇			
○ 第六號	一、一〇〇			
○ 第七號	一、二〇〇			
○ 第八號	一、一〇〇			
○ 第九號	一、一〇〇			
○ 第十號	一、一〇〇			
○ 第十一號	一、一〇〇	一、四〇四	一、八〇〇	本樽ハ貯藏試驗ノタメ本場ニ置ク
○ 第十二號	一、一〇〇			
○ 第十三號	一、一〇五			
○ 第十四號	一、一〇〇			
○ 第十五號	一、一〇〇			
○ 第十六號	一、一〇〇			
○ 第十七號	一、一〇〇			
○ 第十八號	一、一〇〇			
○ 第十九號	一、一〇〇			
○ 第二十號	一、一〇〇			

本樽ハ貯藏試驗ノタメ本場ニ置ク

拾合 八樽計	一九、五八〇	一、四〇四	五四〇	一、八〇〇
平均 樽分均	一、〇八八	〇七八	〇三〇	一、一〇〇

樽ノ上ニ〇印ヲ附シタルモノハ試賣ニ供セルモノナリ

今左ニ鹽醃製造中注意スベキ要点ヲ掲グ

一、原料ハ肉質肥滿脂肪豐カニシテ最モ新鮮ナルモノヲ撰ムベシ即チ肉質瘠疲脂肪少量ナルモノハ形色下等ニシテ美味ナラズ又原料ニシテ陳ナラシカ如何ニ精巧ナル手術ヲ施スモ善良ナル製品ヲ得ザルハ勿論作業困難ニシテ比較的多少ノ生産費ヲ要ス故ニ最初ヨリ鹽魚ニ供スル目的ヲ以テ新鮮ナル原料ヲ採リ化製ヲ施スコト最モ必要ナリ

一、次ハ鹽漬ノ方法トス從來ノ製ヲ見ルニ土俗ぶきいわし或ハもみいわしト稱シ單ニ撒鹽法ニヨリテ鹽漬シタルモノヲ樽又ハ箱等ニ詰メ或ハ漁期間鹽買船ヲ派シ沖合船中ニテ撒鹽ヲ施シ直ニ其ノ儘需用地ニ廻漕スルモノニシテ何レモ其ノ方法簡略且ツ荷造不完全ニシテ需用者ニ供スルマデ之ヲ空氣ニ曝露シテ恬トシテ願ミサレバ其間脂肪滲出水分乾枯シテ食味ヲ變シ惡臭ヲ發シ食用ニ堪ヘザラシム之レ營業者ノ只ダ舊來ノ方法ヲ墨守シ學理ヲ知ラザルノ致ス所ナリ即チ永久ノ貯藏ニ堪ユルモノヲ得ントスルニハ始メニ撒鹽法ヲ以テ假漬ヲナシ之ヲ更ニ堅牢ナル樽ニ木漬ヲナシ飽和食鹽水ヲ注入シ以テ需用者ニ得給スル迄魚体ヲ空氣ニ觸レシメザルニ在リ斯クノ如ク製シタルモノハ實ニ數月以上ノ貯藏ニ堪ユ然シテ鹽藏ニ付注意スベキ事柄ハ木漬ヲナスニ當リ假漬樽ノ鹽汁ニテ魚体ヲ洗滌スルコト、ス若シ魚体ニ汚物有機分等附着スルトキハ之レガタメ魚ノ腐敗ヲ招ク憂アリ又木漬ノ際飽和鹽水ヲ注入スルノミニテハ時日ヲ經ルニ從ヒ鹽汁稀薄トナリ魚味ヲ變スルモノナレバ撒鹽ヲ施シ豫メ之ニ備フルハ最モ注意スベキコト、ス且ツ注入鹽水漏洩スルトキハ其ノ部分丈ケ油やけヲ生シ惡臭ヲ放ツニヨリ時々之ヲ檢シテ補注スルヲ要ス

樽 數	第一號	第二號	第三號
鹽 罎 ノ 尾 數	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
壹 樽 ノ 價 格	二、七五〇	二、七五〇	二、七五〇

三、製品ノ試賣

製品ハ明治三十四年二月六日名古屋水産合資會社(名古屋市船入町)ニ試賣シタルニ其ノ價格左ノ如シ

一、用鹽ノ品質ヲ吟味スルコト食鹽ヲ以テ魚ヲ浸漬スルノ理ハ鹽ノ作用ニヨリ魚肉中多量ノ水分ヲ除キ腐敗バクテリアノ發生ヲ防クルモノナレバ鹽分ノ肉中ニ充分浸透スルニ務ムベキハ勿論ナレ其ノ鹽質粗惡ナルトキハ魚味ヲ害シ却テ貯藏ニ堪ヘサルコトアリ故ニ豫メ其ノ鹽質ヲ吟味スルハ鹽魚製造上最モ大切ノコト、ス依テ本場ハ技手ヲ製鹽地ニ派シ品質上等ノ食ヲ製セシメタリ

抑モ食鹽ノ良否ハ其ノ中ニ含ム鹽化會達(純粹ノ食鹽ハ化學上純素ト會達トノ化合物ニシテ味純鹹ニシテ白色散子形ノ結晶ナセリ)ノ量ト夾雜物及水分ノ多寡如何ニヨルモノニシテ鹽化會達ノ量多ク夾雜物等少ナキモノハ良鹽ニシテ之ニ反シ鹽化會達ノ量少ナク他ノ夾雜物等多キモノハ粗惡鹽ナリトス而シテ夾雜物トハ鹽化マクネシニウム(即チ俗ニ苦汁ト稱スルモノ)鹽化加里、硫酸石灰、硫酸マグネシニウム、塵砂等ニシテ人身ニ有害ナル物質ナク、就中鹽化マクネシニウムハ其ノ量比較的多少ニシテ鹽魚ニ苦味ヲ附スルノミナラズ空氣中ノ水分ヲ吸收スルノ性アルヲ以テ腐敗ノ原因ヲ來スモノナリ然ルニ從來ノ製造家ハ苦汁多キ食鹽ヲ以テ却テ其ノ効力大ナルモノト誤解セリ宜シク慣習ニ拘泥セズ學理ニ基キ良鹽ヲ撰用スベキナリ

第 四 號	1,100	2,750.00
第 五 號	1,100	2,750.00
第 六 號	1,100	2,750.00
第 七 號	1,200	3,000.00
第 八 號	1,200	2,750.00
第 九 號	1,200	2,750.00
第 十 號	1,200	2,750.00
第 一 號	1,200	2,750.00
第 二 號	1,050	2,625.00
第 三 號	1,100	2,750.00
第 四 號	1,100	2,750.00
第 五 號	1,100	2,750.00
第 六 號	1,100	2,750.00
第 七 號	1,100	2,750.00
合計拾六樽	17,650	44,125.00
平均壹樽分	1,103	2,757.5

第九及拾八ノ二樽ハ其ノ貯藏期日ヲ試驗セシメ本場ニ備ヘ付ケタリ

即チ鹽鹼壹尾ニ付金貳厘五毛ニシテ壹樽平均二千百〇三尾入金貳圓七拾五錢七厘余ノ價格ヲ以テ賣却セリ尙本試驗ハ數

年繼續シテ其ノ結果ヲ收メントス

四、乾和布

和布ハ食用藻類ノ重要ナルモノニシテ縣下志摩以南外海ニ面スル沿岸ニ饒多シ皆乾和布ニ製シテ京阪地方及縣内各地方ニ需用セラル就中志摩沿岸ニ産スルモノハ品質上等ニシテ其ノ産額モ亦タ多ク其名京阪地方ニ顯ハル然ルニ只舊來ノ方法ヲ墨守シ採取シタル生和布ヲ海濱適當ナル乾場ニ擴ゲ數日乾セルニ過キズ甚シキハ其ノ重量ヲ増サンガタメ運搬船中ニ於テ海水ヲ撒注スルモノアリ爲メニ變色變味シ易ク貯藏ニ堪ヘズ一時ニ出荷アルトキハ其ノ價格大ニ暴落スルコト少ナカラズ依テ本場ハ乾和布ノ本場ト稱スル鳴戸和布ノ製法ヲ採リ之レガ改良試驗ニ着手セリ而シテ本試驗ハ明治三十三年四月四日志摩郡答志村ニ於テ原料ヲ求メ灰乾ヲナシテ本場ニ送り更ニ水洗シテ灰ヲ落シ製了シタルモノナリ

一、原料

原料ノ志摩郡答志村沖合俗ニ大中ト稱スル處ニ於テ採取セルモノニ係ル而シテ該村ニ産スル和布ハ他地方産ヨリ品質上等ニシテ美味ナリト稱セララル

二、製法

生和布ヲ購入スルヤ直ニ海濱ノ砂上ニ擴ゲ豫メ用意セル木灰若クハ蔭灰ヲ撒布シ(上下ヲ切り換ヘ灰ヲ平均ニ附着セシム)日乾スルヲ晴天四五日後淡水或ハ海水ニテ洗ヒ(直ニ販賣セサルモノハ灰乾ノ儘貯藏シ販賣時期ニ至リ水洗ヲナスモ良シ)附着セル灰ヲ能ク洗ヒ落シ中央ニアル俗ニ道ト稱スル剛キ部分ヲ除キ之ヲ細或ハ竿ニ掛ケ乾燥シテ製了ス本試驗ニ供シタル生和布ハ總テ壹百貫匁ニシテ製了シテ五貫五百〇九匁ノ乾和布ヲ得タリ

三、製品ノ試賣

製品ハ明治三十四年二月五日一ヲ宇治山田町大字河崎魚問屋金新問屋及一ヲ京都市西納屋海産諸魚問屋綿嘉玉城松三郎

ニ試買シタルニ左ノ價格ヲ得タリ

新開屋ノ分

(1) 乾和布(小形ノモノ及折レクズヲ除キタルモノ)

壹貫目ニ付金貳圓替

(2) 乾和布(本品ハ前記和布ト同品ナルモ乾燥ノ際小形トナリタルモノ及折レクズヲ混シタルモノ)

全 上金壹圓五拾錢替

玉城松三郎ノ分

(1) 乾和布(小形ノモノ及折クズヲ除キタルモノ)

壹貫目ニ付金七拾錢替

蕃殖部

海中養殖

縣下所産ノ水族其種ニ富ミ産額亦比隣ニ冠タリ而シテ其沿岸ハ伊勢海ニ臨ミ外海ニ瀕シ河川此内ニ注入シ淺濶遠ク連リ
岬角崎嶇所々灣人多ク以テ沿岸線百數十里ニ亘ル此間水族ノ蕃殖ヲ講ズルニ適當ナル個所尠ナカラズト雖モ未ダ以テ之
ヲ圖ルモノアルヲ聞カズ遺利紳々タル有望ノ地ヲシテ空シク價值少ナキ水族ノ蹂躪ニ委ヌルノミ茲ニ本場ノ創設ニ際シ
先ヅ沿岸適當ノ地ヲ選ビテ諸種ノ蕃殖試驗ヲ施シ以テ現今荒廢ノ地ヲ與シテ將來ノ利源タラシメントシ養殖地ヲ各
所ニ選定シ本年度ニ至リテ漸ク事業ノ緒ニ就キタルモノ即紫菜牡蠣珠母伏老ノ四種トス其效蹟ハ之ヲ他日ニ求メ以テ其
地ノ價值ヲ定メントス

一 珠母あこやかい (たまかゝいしんじゆかゝ)

縣下ニ於テ珠母ヲ産スルノ地少ナカラズ英虞灣尾鷲灣五ヶ所灣地柄方座浦等皆之ヲ産ス就中英虞灣ハ最モ其繁殖ニ適
シ古來肥前大村灣ト共ニ其名東西ニ高カリシト雖モ近時殖産ノ途開ケ會テハ單ニ介中ニ包含セル眞珠ヲ得ルニ止マリシ
モノ現今ニ至リテハ尙其肉體ヲ食用ニ供シ加製シテ市場ニ販賣シ介殼ハ裝飾品ノ原料ニ供給シ大ニ用途ヲ擴張セシ結果

其捕採濫酷ニ流レ從テ繁殖ヲ阻礙シ近時著シク其産出ノ減少ヲ來シ從來縣下著名ノ産物モ漸次沈銷セントスルノ傾向ヲ
示スニ至レリ於是カ明治二十二年七月十四日英虞灣瀕海ノ各村協商ノ上介ノ大サニ或ハ採收期節ニ制限ヲ設ケ漁場ヲ禁
止區域ヲ定メテ種々保護ノ途ヲ講ジタリト雖モ其奏効完キヲ見ズ又個人ニ於テ珠母養殖ヲ行フモノアルモ營業的ノ事業ハ
他ヲ顧ミルノ遠アルナシ是ヲ以テ本場ニ於テハ保護養殖ノ目的ヲ以テ濱島村及越賀村地先海面ニ位置ヲ選ビ珠母ヲ放養
シテ胚子ヲ附近海面ニ傳播セシメ以テ後繼者ノ産出ニ勉メ傍ラ其生理ヲ探究シ養殖ノ法ヲ究メントス今本年度ニ於ケル
事業ノ狀況ヲ記述スルニ先チ英虞灣ノ狀況及珠母ニ就キ少シク説明スヘシ

英虞灣地形

志摩國ニ三大灣アリ鳥羽灣的矢灣英虞灣是レナリ英虞灣ハ國ノ南部ニ位セル一長灣ニシテ東西四里十一ヶ村ヲ以テ圍繞
ス濱島村御坐村ハ其灣喉ヲ扼ス其距三十丁余灣内ニ入ルニ從テ次第ニ幅廣ク其中央以後ニ至レバ縦横ニ潰れ分岐シテ數
多ノ小灣ヲナシ島嶼其間ニ碁布シ數箇ノ暗礁アリ小河ノ其内ニ注入スルモノ七皆灣ノ北岸ニアリ水底ハ概シテ北岸ハ砂
礫ヨリ成リ南部ハ岩石ニ砂礫ヲ交ヘ東部即灣奥ハ灰色ノ泥土及砂礫等ヨリ成ル水深ハ北部ニ淺ク南部ヨリ灣口ニ至リ三
十尋余ノ個所アトリ雖モ概シテ十四五尋以内ニシテ岸ニ近クニ從ヒ次第ニ淺シ湖水ノ塩分亦灣ノ南北部ニヨリ少差アリ
其北部ハ南部ニ比シ稍稀薄ナリ比重一、〇二〇乃至一、〇二五アリ灣内生物ノ重ナルモノハ鱧黒鯛鱈比目魚鰈鱚鱚、
鱈鱚、珠母海鼠、板屋介、荒布、若布、みる、あじも、ほんだわら等ニシテ就中珠母鱈鱚海鼠ハ其漁獲ノ大ナルモノナリトス
灣内珠母ノ棲息最モ多キハ北部海岸ニシテ濱島神明鵜方立神ノ諸灣トス他ハ之ヲ産セザルニアラザルモ寡少ナリトス

珠母

英虞灣産珠母ハ學術分類上軟体動物辨總類中ノ異柱類ニ屬シ學名ヲ *Stioda matsumi* *Okada* 稱ス脚絲ヲ以テ海底
ノ礫石ニ着生ス古來貴重ナル眞珠ヲ生出スルヲ以テ著名ナリ珠母ノ棲息ニ適スル個所ハ灣内水底砂礫ヨリ成リ海藻(ほ

んたわら、みる)等ノ生ズル處ニシテ泥土及海藻ノ生殖セザル處ニハ生殖至テ少シト雖モ其生長ハ頗ル良好ナリト水深四五尋マデノ個所ニ多ク之ヨリ深キニ從ヒ其生息減少セリ

雌雄異体ニシテ英歲灣ニアリテハ五月下旬ヨリ卵卵シ七八月ニ入り概ネ生熟シ九月下旬ニ至レバ生殖線著シク萎縮ス十二月ニ入り長五分許リノ稚介ヲ見ル生殖最モ多キハ二年又ハ三年生ノ長一寸五分乃至二寸巾一寸四分乃至二寸迄ノモノニシテ長三寸五分以上ヲ有スルモノニ至リテハ養殖スルモノ、外ハ稀ニ見ル處ノモノナリ

珠母ハ盡ク眞珠ヲ含ムモノニアラズ僅少ノモノニ就テ之ヲ發見ス五年生以上ノ老生セルモノニハ「ケシタマ」ト稱スル粟粒大ノ眞珠ヲ含有スレモ其「ハネタマ」ト稱シ時ニ山椒實大ノ美麗ナル光澤ヲ有シ價値貴キモノヲ含ムハ敢テ老幼ニ關セザルモノ、如シ

三重縣水産試驗場事業報告

眞珠ハ介殼ノ裏面ニ固着シ又ハ外套膜ノ内外ニ存ス其形狀着色光澤ハ敢テ一定セズ從テ種々ノ名稱ヲ附セリ「ギンタマ」ト稱スルモノハ眞珠中品質最上ニ位シ世人ノ最モ稱重スルモノニシテ正圓形ニシテ光澤ヲ存シ銀色ニシテ殆ト透明ノ觀アリ然レモ「ギンタマ」ニシテ形不正圓形ナルカ或ハ小形ナルカ若クハ光澤充分ナラズ多少曇ルガ如キ觀ヲ呈シ又ハ具備スル形狀色澤完全ナル中ニ僅ニ一部ニ光澤ヲ欠キタルモノアリ如此ハ上位ノモノニアラズシテ價亦廉ナリ「ギンタマ」ハ「ギンタマ」ニ亞ギ其質良好ナリト雖モ少シク帶黃色ヲナス其不正圓形ナルカ色澤ヲ損スルモノハ均シク價値ヲ墜スモノナリ其他凡テ小形ナルモノヲ「ケシタマ」ト稱シ形狀色澤劣等ノモノヲ「アノイリ」又ハ「ドロタマ」等ト稱ス其品質下等價値最モ低シ

抑モ眞珠ハ介殼内ニ於テ如何ナル原因ニヨリテ産出セラル、ヤニ就テハ從來泰西諸國ニ於テ種々ノ研究ヲナセル者尠ナカラズ通常唱フル處ニテハ砂粒殼片其他植物性細片或ハ寄生虫若シクハ他ノ小動物又ハ卵等ノ介殼内ニ存スルモノナルキハ即眞珠質ヲ以テ之ヲ圍繞シ初メテ眞珠ヲ形成スルモノナリト云ヘリ支那ニテハ古來ヨリ殼片粗惡ノ眞珠小細工物其他

三重縣水産試驗場事業報告

像等ヲ作り之ヲ蚌介ノ介殼ト外套膜トノ間ニ差入レ以テ人工眞珠ヲ製セリ明治二十八年理學博士佐々木忠次郎氏ノ調査セラレタル説ニ依レバ人工ニテ眞珠ヲ製出スベキハ敢テ疑ヲ容レザル處ナリト雖モ如斯外物ヲ眞珠介殼ト外套膜トノ間ニ挿入シ之ヲ核トシ産出セル眞珠ノ如キハ敢テ正圓形ナラズ光澤ヲ欠ケリ其完全圓形ニシテ光澤アル良質ノ眞珠ニ至リテハ人工ヲ以テ製出スルコトハ至難ノ事ニシテ如斯モノハ單ニ眞珠質ヨリナリ外套膜ノ組織中ニ於テ産出スルモノナルベク其核ハ即外套膜ノ分泌ニ係ル眞珠質ノ不明ノ方法ニ依リテ全組織中ニ凝結シテ核トナリ眞珠質ハ此周圍ニ層々加ハリ以テ完全無缺ノ光澤アル眞珠ヲ生出スルモノナルベシト云ヘリ

濱島海中養殖場

地勢

濱島村珠母養殖場ハ全灣内宇切石浦及本場地先ノ二個所ニアリ切石浦ハ灣ノ西方ニ位シ東方ニ向ヒタル一小入江ニシテ沿岸岩礁砂礫其面積四千六百四十三坪アリ本場地先ハ切石浦ノ南東五十間距ノ處ニアリ面積三百四十三坪共ニ潮水清シ能ク流通シ比重常ニ一、〇二〇一、〇二二アリ水深カラズ其最深キ處ヲ五尋トス水底泥砂礫石ニシテほんたわら、みる、おこのり、(方言)あじも、ヲ生シ珠母、板屋介、赤辛螺、咽介、板良介、淺鯛、玉跳、海鼠、海鱈、車黒鯛、章魚、等ヲ産ス

養殖場ノ整理

珠母ハ水底ノ或固定物ニ着生シ依テ以テ其生ヲ保ツモノナルヲ以テ多數ノ珠母ヲ放養スルニハ必ず其附着材料ヲ投與セザルベカラズ殊ニ泥底ノ個處ニ於テ然リトス然ラサレバ互ニ其介殼ニ着生シ相重疊シテ其成長ヲ妨グ或ハ窒息ニ至ラシムルコトアルノミナラズ再ビ其胚子ヲ着生シテ益々其害ヲ大ナラシムルコトアリ

珠母ノ附着材料トシテ石瓦木幹木枝等ヲ用ユルモ今回本場ニ於テ用ヒタルモノハ岩石ニシテ其質堅硬ナラズ而粗糙大サ長側ニ於テ五寸乃至一尺五百目乃至三貫目ノ量アルモノニシテ附近海岸ニ於テ採收シ三十三年二月十三日ヨリ三月八日

ニ至ル間ニ其投入ヲ了リ五月十二日ヨリ十七日ニ至ル五日間蟹類ヲシテ所々堆積散亂セル投石ヲ海底一面ニ並列整理セシメ其區域ヲ整然タラシメタリ今各區ノ面積及狀況ヲ左ニ列記ス

別圖參照

三重縣水産試驗場事業報告

位置	區域	敷石面積	水深	底質	水底生物
切石浦	第一區	六九坪	一尺一、五尋	泥土、砂礫	あじも、いたやかいひ、あかにし、ばい
全	第二區	一〇八	三尺一、三尋	泥土、砂礫	あじも、みる、あかにし、いたやかいひ
全	第三區	九七	三尺一、三尋	礫石	みる、あじも、ほんたわら、あかにし、なまこ、ばい、ひこで
全	第四區	一六二	三尺一、四尋	礫石	ほんたわら、みる、あかにし、なまこ、ばい、ひこで
全	第五區	六〇	三尺一、三尋	礫石	ほんたわら、みる、あかにし、なまこ、ばい、ひこで
本場地	第一區	一九六	三尺一、三尋	礫石、泥土	ほんたわら、みる、あかにし、ひこで
全	第二區	一四七	三尺一、三尋	泥土、砂礫	みる、ひこで、あかにし

珠母放養

養殖場ノ整理已ニ終リタルヲ以テ六月ニ入り漁民ノ採收セハ珠母ヲ購入シ母介トシテ之ヲ養殖場ニ放養シタリ珠母ハ濱島灣及鶴方灣ニ發生セル二年生乃至五年生ノモノニシテ蟹類ニヨリテ採收セラレ礫石介殼ニ着生セル儘又ハ個体ノモノヲ養殖場ニ移シ翌日ニ至リ蟹類ヲシテ養殖場内圍集散亂セル珠母ヲ拾ク敷石區域内ニ散布シ敢テ厚薄ナカラシメ七月二日ニ至リ全ク放養ヲ終了セリ

珠母ノ放養率ニ就テハ未ダ攻究セルモノアルヲ聞カズ從テ明ナラズト雖モ元來珠母ハ海底ノ或固定物ニ着生シ自ラ甚々



濱嶋附近之圖二万分之一

濱嶋港

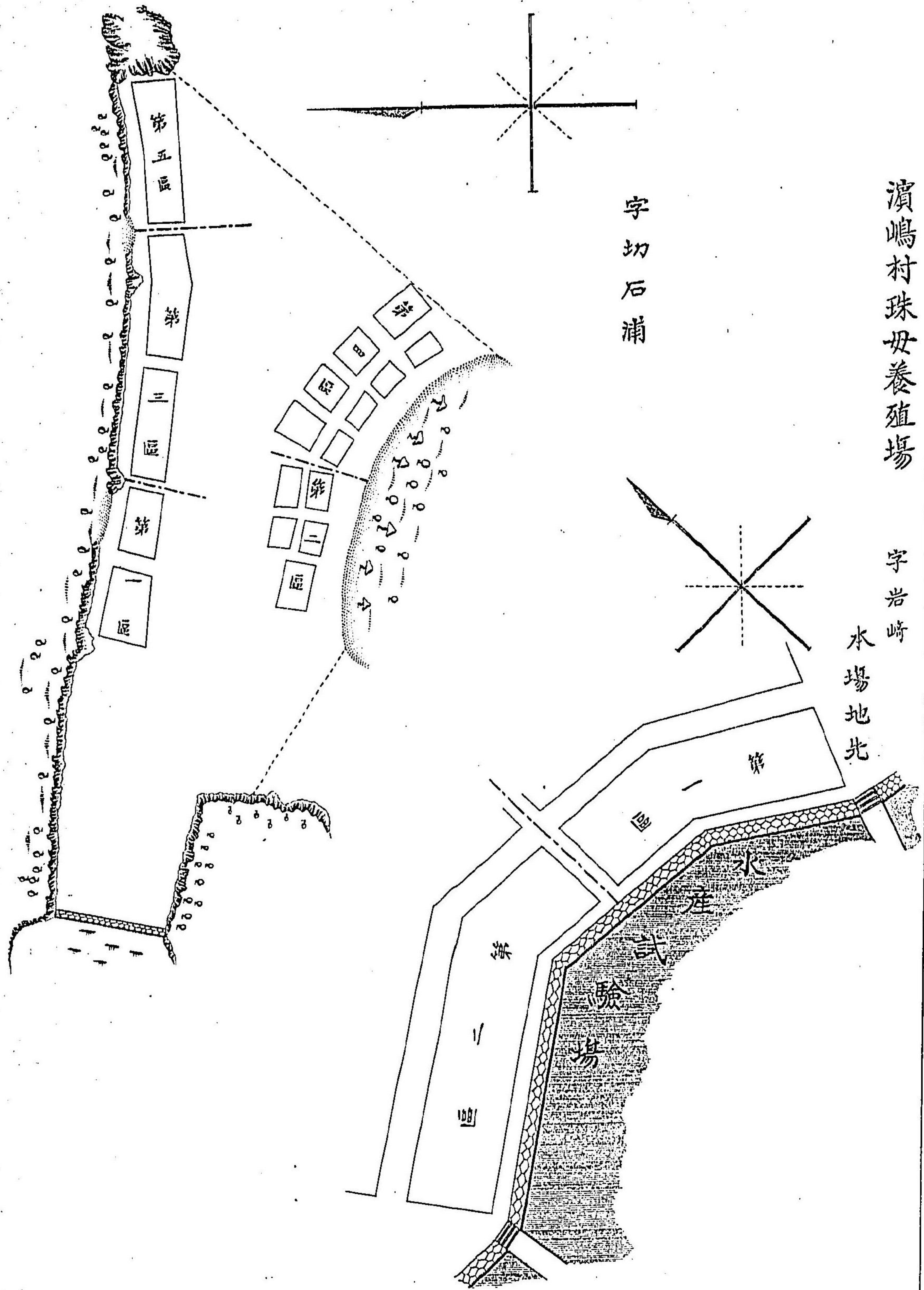
英厦灣

濱嶋村珠母養殖場

字岩崎

水場地北

字切石浦



位	置	最大ナルモノ		最小ナルモノ		平均
		体長	体幅	体長	体幅	
本場地先	第一區放養ノモノ	一、八五	一、八〇	一、三五	一、二五	一、六〇
全	第二區放養ノモノ	二、二〇	二、〇〇	一、八〇	一、七〇	一、八一
切石浦	第三區放養ノモノ	全	全	全	全	全
全	第四區放養ノモノ	二、二〇	二、〇〇	一、八〇	一、七〇	二、二〇
全	第五區放養ノモノ	二、七〇	二、八〇	二、一〇	二、〇〇	二、四五

位	置	域	珠母年齢	放養數	一坪ニ對スル率數
切石浦	第三區	三年生以下	全	二八、六二八	三〇〇
全	第四區	四年生以下	全	三八、七八九	二四〇
全	第五區	四年生以下	全	六、二六三	一〇〇
本場地先	第一區	三年生以下	全	三四、三三七	一八〇
全	第二區	三年生以下	全	一四、一三五	一〇〇
計				一二三、一五二	一〇〇

シク移轉スルモノニアラズ其成育ニ直接關係ヲ有スルモノハ底質ノ如何ト潮流ノ良否ニアリ殊ニ已ニ壯成セル珠母ヲ放養シ逐年老成ノモノヲ採收スルモノナレバ他ノ伏老等ニ比スレバ比較的其放養率ヲ増加スルモ甚シキ障礙ヲ來スコトナルベク要ハ只其地ノ底質ト潮流ノ如何ヲ計リ其範圍内ニ於テ放養率ヲ増減シ可及的多數ヲ放養セバ可ナルベシト信ズ今其關係ヲ明ニセン爲メ種々ノ放養率ニヨリ珠母ヲ放養セリ即左記ニ示ス

放養後ノ狀況

珠母放養後ハ看守人ヲ置キテ養殖場ヲ監視セシメ海底ヲ攪拌スル漁業ハ之ヲ禁ジ常ニ養殖場ヲ巡視シテ害敵タル赤螺章魚等ヲ驅除セシメ珠母ノ被害殆ント皆無ニシテ放養後ノ附着成育最モ良好ナリ八月二十三日ニ至リ始テ濱島灣内ニ赤潮ヲ記シタルモ養殖場ヲ距ル遠ク處々ニ流動ス以後四五日間日々記生消散常ナカリシモ區域狭小稀薄ニシテ生物ノ被害アリシモノヲ認メズ二十七日午後二時ニ至リ俄然養殖場附近ニ赤潮ヲ認メシモ是亦區域狭小約二三十間平方ニ瀰蔓セルノミ夕刻ニ至リ養殖場ヲ犯スコトナク飛散セリ

因ニ記ス赤潮ハ年々英虞灣ニ起ルノ例ニシテ天候不順ノ際之ヲ見ル赤潮ノ襲來甚シキハ爲メニ沿岸生棲魚介類ヲ敵シ甚シキ害ヲ及ボスコトアリト云フ

以上放養後ノ經過ハ尙見ルベキモノナキヲ以テ之ヲ翌年ニ至リテ報告セン

越賀海中養殖場

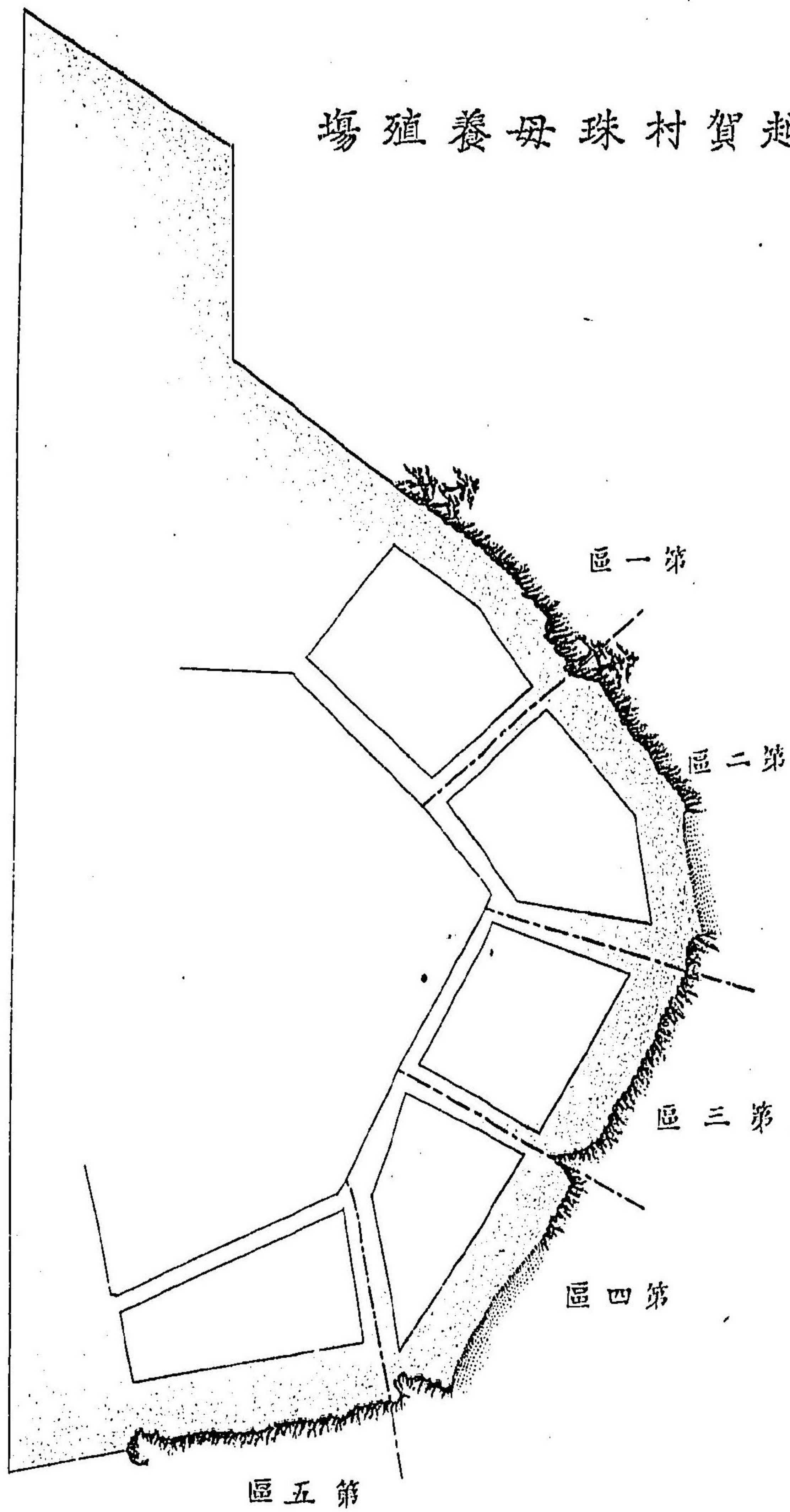
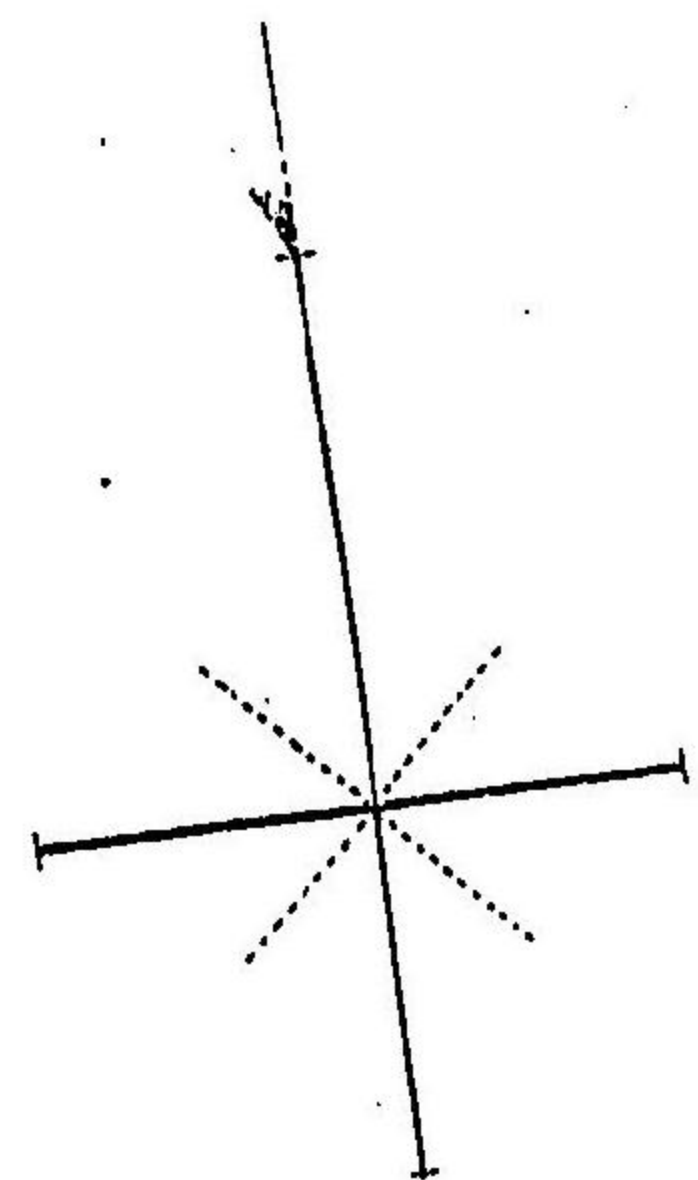
地勢及狀況

越賀村養殖場ハ英虞灣ノ南部ニ位セル越賀浦ノ東方ニアリ沿岸礫石ニシテ傾斜急ナリ其面積三千四百二十五坪アリ湖水清ク能ク流通シ比重ハ一、〇一八乃至一、〇二二アリ水少シク深ク場内其最モ深キ處八尋アリト雖モ石ヲ投入シテ附着床ナセル處ニテハ干潮時五尺以上四尋アリ水底礫石沙泥及岩石ヨリナリ從來珠母ヲ産スルコト多シ生物ノ主タルモノハ板屋介赤螺頭介はんたわら、みる、あおのり、ひとで、等トス

養殖場ノ整理及珠母ノ放養

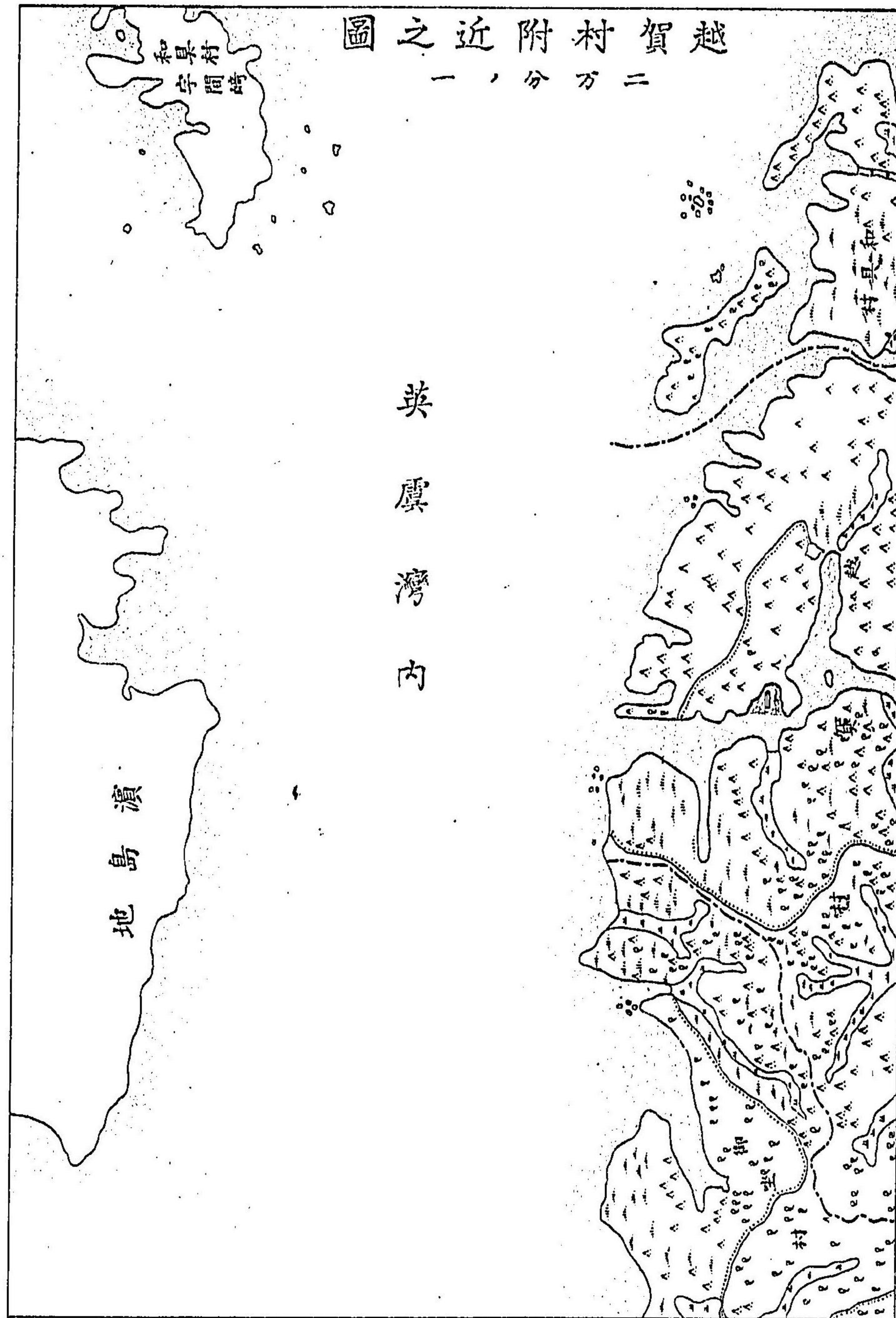
珠母ノ附着材料トシテ濱島養殖場ト等シク海岸ニ散在セル岩石ヲ採收投入シ三十三年五月十九日産婦ヲシテ之ヲ整理セシメ區域内ニ著シク一層ニ散布セシム敷石面積二百二十四坪アリ七月一日ニ入りテ第一區ヨリ第四區ニ至ルマデ珠母ヲ

越賀村珠母養殖場



越賀村附近之圖

二萬分一



放養ス珠母ハ鶴方灣ニ於テ採收シタルモノニシテ全ク三年生以下ノモノトメ放養後産婦ヲシテ團集散乱セルモノヲ一様ニ整理セシメタリ其數左ノ如シ

放 養 數	四萬九千九百七十二個		
放 養 率	一坪三百個ノ割		
珠 母 体 長	最大ナルモノ	長 二、二〇	幅 二、〇〇
	最小ナルモノ	全 一、八〇	全 一、七〇
	二十個平均	全 二、〇二	全 一、八五

放養後ノ狀況

放養後ハ看守人ヲ置キテ常ニ養殖場ヲ監視セシメ害敵ノ驅除ニ勉メシメタリト雖モ害敵生物ヲ獲ルコトナク更ニ其被害ヲ認メズ放養後着生發育共ニ甚ダ良好ナリシガ九月二十一日ニ至リ赤潮ノ襲來ニ遭ヒ附近生物ノ被害アリトノ急報看守人ヨリ到リシヲ以テ直ニ場員ヲ現場ヘ出張セシメテ其狀況調査ヲナサシメタリシガ更ニ珠母ノ被害ヲ認メサリシ左ニ其概況ヲ示スベシ

赤潮襲來ノ狀況

赤潮ハ九月二十日越賀浦養殖場附近ノ灣筋ニ起リ風向潮流ニ從ヒ養殖場ノ南部少許ノ部分ヲ洗ヒ深ク灣内ニ流入シ二十一日ノ干潮ト共ニ漸次灣口ニ流出シ此ニ北西風ノ爲ニ漂流シテ養殖場ノ南東面ニ最モ多ク停滯シ流域ハ沿岸ニ接シテ場ノ過半ニ涉レリ二十二日ニ入り全ク其形蹟ヲ見ズ

存 在 區 域 赤潮ハ水ノ表面ニ現ハレ厚サ約一尺風下ニ浮流セラレ養殖場南東面沿岸ニ沿ヒ幅二間長三十餘間ノ

區域ニ涉リ干潮ニ至レバ瀉面ニ干涸シ黄色ノ痕跡ヲ呈セルヲ見ル

九 州

三 重 縣 水 産 試 驗 場 事 業 報 告

三重縣水産試驗場業務報告

赤潮状態 此赤潮ハ從來茨城灣ニ於テ屢見ル處ノ赤潮ト異ニシテ其色黄色ヲ呈シ濃厚ナル處ハ雨後ノ混濁河水ノ如シ水色ニ濃淡アリ卷雲状ニ變シ普通海水ニ比シ甚ク異様ノ醜状ヲ發シたこくらげノ浮游セルモノ特ニ夥シキヲ見ル此湖水ヲ硝子器ニ採リ透視スルルハ水中無數ノ黄色細粒中稀ニ黑色ヲ呈セル細粒生物トヲ見ル之ヲ静置スルルハ多ク水面ニ浮集シ數時間放置スルルハ此微細生物ハ粘膜状ニ集合シテ水底ニ沈降シ或ハ半漂体ヲナス之ヲ硝子板ニ取ルルハ再ビ散乱シテ細粒トナル

水温比 調査當時ニ於ケル普通海水ト赤潮トノ比重ヲ檢スルニ其間差違ヲ認メズ即左ノ如シ

普通海水	赤潮
氣温 30.0	氣温 30.0
水温 25.2	水温 25.2
比重 1.010	比重 1.010

天候 赤潮ノ起リタル以前一週日間ノ天候ハ敢テ劇變アリシニアラズ南東風吹き續キタル後天候晴レ西風ヲ起シ九月十六日直ニ北東風ニ變ジ以後全方向ノ風續吹シ陰鬱ノ天氣ヲナシ十九日北西ノ風ヲ生ジテ天候晴レ敢テ異變ヲ呈セシヲナク降雨至ラズ毎午前十時氣温二十三度及二十四度ノ間ヲ昇降シ十九日以後二十一日ニ至ルニ二十六度乃至二十七度ノ間ヲ昇降セリ今左ニ本場ニ於テ觀測セル氣象日表ヲ舉グ

自九月十一日 氣象表
至九月廿四日

事項	日	十一日	十二日	十三日	十四日	十五日	十六日	十七日	十八日	十九日	二十日	廿一日	廿二日	廿三日	廿四日
----	---	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

三重縣水産試驗場業務報告

天候	蒸發量	雨量	雲量	風力	風向	濕度	氣温		氣壓	
							最高	最低	前六時	前二時
曇	2.2	1.7	5.3	2	南東	76.0	71.7	75.1	75.2	
曇	1.5	3.1	6.5	3	北	76.7	73.0	75.3	75.3	
曇	1.4	2.7	6.0	3	東	76.5	73.3	75.7	75.3	
晴	3.0	3.3	6.5	1	南	76.5	73.5	75.4	75.1	
晴	3.9	—	5.0	2	北西	76.5	73.2	75.4	75.1	
曇	4.5	—	5.0	2	西	76.7	73.4	75.9	75.7	
曇	4.8	—	5.5	4	北東	76.8	73.4	75.4	75.7	
曇	3.8	—	6.0	3	北東	76.5	73.0	75.5	75.1	
晴	4.6	—	6.7	1	西	76.0	73.8	75.1	75.6	
曇	4.4	3.7	6.0	2	北	76.0	73.1	75.5	75.1	
雨	1.3	3.3	9.5	0	—	75.5	74.2	75.0	75.4	
雨	0.6	6.4	10.0	1	南	76.0	73.8	75.1	75.1	
雨	—	6.7	10.0	3	北東	76.2	71.5	75.4	75.4	

被害 赤潮ノ襲來區域内ニ於ケル水族ノ被害ハ殆ド之ヲ認メズ蟹類ノ云フ處ニヨレバ該赤潮ニ接スルルハ身体ヲ刺
 激スルコト甚シク爲メニ珠母ノ斃死セルモノヲ生ジ且沿岸ニ來游セル魚類ハ之ガ爲メ深海ニ去リシト云フ然レモ實視ノ結
 果養殖場内珠母及其他ノ珠母ノ被害アリシヲ認メズ蓋シ該赤潮ハ假令生物ニ害ヲ及ボスモノトスルモ一帯ニ水而ニ瀾縵
 シ深ク水底ニ達セザルヲ以テ水深九尺乃至四尋ノ水底ニ放養セル珠母ノ被害ナキハ當然ノコトナルベシ
 赤潮 中ノ生物 前記ノ赤潮ヲ採收シ之ヲ顯微鏡下ニ窺ヒタルニ全ク第 圖ニ示ス如キ二種ノ允微生
 物ニシテ就中第三圖ニ示スモノハ稀ニ認メシノミ皆黃金色ヲ呈シ活潑ナル運動ヲナス体長一ハ、〇四、ミ、メ他ハ長一七
 「ミメ」アリ之ヲホルアリン稀液ニ浸漬保存セシニ偶々九月廿六日農商務省技師西川藤吉氏赤潮調査ヲ爲メ本縣へ出張セ
 ラレタリ氏ノ査定ニヨルニ海水ヲ混濁セシメシ主生物ハ下等植物 *Dinophytes* 中 *Synalaba* *Prasinanema*, *Spin*
 (第二版第二圖)及 *Prasinanema* 科中 *Prasinanema* *Prasinanema* (第二版三圖)ト稱スルモノニシテ從來亞米利加近海其他ニ於テ起
 リシ赤潮中ニ多ク見ル處ノモノナリト云フ

一、牡蠣 かん

縣下沿岸内海ヲ論セス外海ヲ間ハス牡蠣種族ノ棲息セザル處殆ンドナシト云フモ過言ニアラス内灣ト外海、河口ト海底
 トニヨリ其種屬ヲ異ニシ從テ形ニ大小アリ價值ニ高卑アリ就中形大ニ且價值アル牡蠣ノ產出最モ多キハ北牟婁郡相賀村
 宇渡利ニシテ之ニ次クハ桑名郡掛斐川口志摩郡磯部村飯濱及度會郡宮川口沿岸トス其他牡蠣養殖ニ適セルノ地少ナカ
 ラズト雖モ未ダ以テ海面ヲ利用シテ牡蠣ノ蕃殖ヲ講ズルモノアルヲ聞カス只北牟婁郡相賀村宇渡利ハ古來縣下牡蠣產地
 トシテ著名ナル處ニシテ慣例ニヨリ毎年初夏ノ候其沿岸生產地ニ礫石ヲ投入シテ牡蠣胚子ヲ着生セシメ其蕃殖ヲ維持ス
 ト雖モ素ヨリ完全ノ法ニアラス尙更ニ蕃殖方法ヲ講ジ生產力ヲ増進セシムルノ餘裕ヲ存スル位置甚多シ又桑名郡掛斐川

口伊曾島村地先ノ如キ牡蠣ノ生産甚多ク是亦蕃殖ノ法ヲ講シテ一ノ利源タラシムベキ個所ナリトス夫レ如斯育養法ヲ講
 スルノ急ナル地及更ニ蕃殖法ヲ企圖スルノ價值アル個所數多アルヲ以テ親シク其方法ヲ當業者ニ知得セシメ縣下ニ普及
 セシメンガ爲メ本場ニ於テ位置ヲ選定シ先ツ本年度ニ於テ桑名郡伊曾島村地先及志摩郡相賀村地先ノ二個所ニ於テ牡蠣
 養殖試驗ヲ施行シ洪立ヲ行ヒ牡蠣胚子(牡蠣ノ稚介)ヲ附着セシメ其育養ニ着手シタリ今事業ノ狀況ヲ序述スルニ先テ少
 シク牡蠣及牡蠣ノ養育方法ノ要点ニ就キ記述スル處アラントス

牡蠣及牡蠣養育法

牡蠣ハ軟体動物辨鰓類中ノ單柱類ニ屬シ種類多クかき、ながかき、いたばかき、いわかき等アリ種類ニヨリ棲所ヲ異ニス
 本縣ニ生産スル主ナルモノハかき、いたばかき、いわかきノ三種トス何レモ之ヲ養育スルコトヲ得ト雖モ其方法ノ最モ發達
 セルモノハかきノ養殖トス
 かきハ多ク河口淡鹹水ノ混濁セル海底泥沙礫石ニシテ干満潮線間ノ礫石又ハ抗等ニ着生シテ棲息ス其成育最モ良好ナル
 ハ泥底ニ礫石ヲ混シ潮水良ク流通シ淡鹹其度ヲ得タル處ニシテ淡水ノ混入多キ處ハ多ク蠖殼ノミ長大シテ肉量之ニ伴ハ
 ス鹹水多量ナル處ハ殼肉共ニ成育充分ナラザルモノ、如シ雌雄異体ニシテ四五月頃ヨリ孕卵シ六月ニ入り産卵盛期トナ
 リ八月ニ至リ漸次萎縮ス九月ニ至レバ已ニ大豆大ノモノヲ見ル牡蠣ノ生育ハ多クハ四年ヲ限度トシ長四寸余ニ至ルモノ
 アリ以後尙生活スト雖モ殼質厚クナルノミニシテ介肉ノ生育スルコト僅微ニ止マレリ
 かきハ自然ノ生殖ヲ補助シテ能ク其蕃殖ヲ圖リ生長ヲ大ナラシムルコトヲ得ルモノニシテ從來本邦及支那歐米ニ於テモ盛
 ニ之ヲ行フ今左ニ其方法ノ要点ヲ摘記センかきノ養殖ニ適スル箇所ハ

淡水常ニ注入シ海水ノ比重一、〇〇五乃至一、〇二〇ヲ保ツ處

海底泥沙又ハ少シク沙礫ヲ混在シ海藻ノ繁殖セサル處

潮水能ク流通シ干潮時干瀉ヲ呈スベキ處
風波靜穩ナル處
ヲ選ブヘシ

かきハ六月ニ至リテ産卵シ孵化シタル胚子ハ海中ヲ浮游シ或物体ニ附着シテ生長スルモノナレハ養殖場ニハ一ノ固着物
ヲ置キ附着面ヲ擴大ニシテ胚子ヲ着生セシメ之ヲ育養スルモノナリ本邦ニ於テハ多ク竹ヲ用ニ此竹ヲ稱シテ笹ト云フ尙
位置ニヨリ種々其法ヲ異ニセリ即

淡竹又ハ苦竹ヲ枝ノ儘三尺許リハ切り四五本ヲ一株トシ列ヲナシテ海中ニ挿入スルモノ

孟宗竹淡竹ノ類ヲ長五尺余ニ切り前者ト均シク海底ニ挿入シ籬ノ如キモノヲ作ルモノ

瓦ノ如キモノヲ海底ニ配置シ又ハ重疊シテ一ノ臺トナスモノ

量一ノ目以内ノ岩石ヲ海中ニ投入シ又ハ所々ニ堆積シテ蠣胚ヲ附着セシムルモノ

竹又ハ粗朶ヲ以テ一ノ臺(四方ニ枕ヲ打チ之ニ結付)ヲ編ミ之ヲ海底ニ布設スルモノ

等ニシテ其目的トスル處ハ皆胚子ヲ附着セシムルニアルヲ以テ要スルニ其土地ノ状況ニヨリ經濟ノ如何ヲ考ヘ適宜ノ方
法ヲ講ズルモノトス縣下ニ於テ是等ノ築立ヲ行フハ五月ヨリ六月ノ間ニ於ケル潮時ニ於テ行フモノニシテ七月末ニ至レ
バ胡麻大ノ稚介ヲ見ルニ至ル筈又ハ風ニ附着セル牡蠣ハ翌年ニ至リ之ヲ離落シテ海底ニ撒布シ養成スルモノナレバ位置
ニヨリ風波高ク適當ノ地ヲ得ザルハ其ノ儘育養スルモノ可ナリ海底ニ撒布シタル牡蠣ハ每潮時々々くまさらいヲ以テ攪
把シ牡蠣ノ窒息ヲ防キ其成長ヲ均等ナラシムヘシ斯クシテ養成シタル牡蠣ハ二年目或ハ三年目ノ冬季ニ至リ採收スルモ
ノトス牡蠣養成中被害ノ甚シキモノハ胚子附着后夏季土用中炎暑酷熱時ニ於テ附着稚介ヲ斃スル夥シク赤潮ノ襲來ハ多
ク牡蠣ヲシテ斃死ニ至ラシムルモノニシテ冬季ノ嚴寒ニハ干瀉ニ於ケル牡蠣ヲ害シ河水限溢シ或ハ風波ノ爲メニ牡蠣ヲ

堆積スルモノハ爲メニ窒死ヲ來スモノ多シ生物ニアリテハ章魚黒鯛赤鯉ノ爲メニ害セラル、コアリ
以上ハ築立法ニヨリ牡蠣ヲ養成スル概畧ニ過ギサルモ沿海多ク牡蠣ヲ生産スルモ以上ノ方法ヲ施スコ能ハザルハ其附
近所々ニ瓦又ハ石(瓦又ハ石ニハ石灰乳ヲ塗抹スルヲ可トス)ヲ投入又ハ堆積シテ其附着面積ヲ大ニシ増殖ヲ圖ルベシ
牡蠣養殖法ノ詳細ハ本場事業中ニ記述スルヲ以テ之ヲ畧ス

伊曾島海中養殖場

桑名郡伊曾島村大字松蔭新田地先ニアリ前年度ヨリ紫菜養殖試驗ヲナセル地ニシテ從來牡蠣ノ産出アリシガ木曾川口突
堤ヲ築キテ以后其掛幾川方面ニ著シク牡蠣ノ生産ヲ増加シ突堤ノ半バ以東ハ悉ク牡蠣ヲ以テ蔽ハル、ニ至リシモ單ニ之
ヲ捕採スルニ止マリ蕃殖ノ法ヲ講ズルモノナキヲ以テ本場試驗地ニ選定シ本年度ヨリ養殖試驗ヲ施行セリ位置ノ狀況ハ
已ニ前年度紫菜養殖ノ條下ニ記述セシヲ以テ茲ニ贅セズト雖モ養殖上直接關係ヲ及ボシ築立其他ニ就キ考察ヲ要スル事
項アルヲ以テ重複ヲ顧ミス之ヲ摘示セン

- 一、風波激シク海底ヲ攪拌スルヲ著シ
- 一、海底沙泥底ニシテ干潮時一面干瀉ヲ呈ス
- 一、降雨連續スルハ出水夥シク週日間淡水ヲ以テ満スコアリ
- 一、從來ノ牡蠣ハ多ク底面ニ近ク着生ス

位置ノ狀況前記ノ如キヲ以テ左記ノ要領ニヨリ養殖試驗ノ方法ヲ講セリ

- 一、築立ハ可及的風波ノ激衝ヲ避ケ且耐久セシムルノ方法
- 一、風波ノ爲メ附着材料ヲ流失シ且泥沙ノ埋沒ヲ除ク方法
- 一、牡蠣ノ着生ヲ多大ナラシムル方法

前記ノ要領ニヨリ

- 一、牡蠣ノ養成ハ築塙ニ於テスル
- 一、築竹トシテ淡竹ヲ長三尺ニ切り廣島縣草津ニ於ケル築立法ニ依ルモノ……………築立法
- 一、竹ヲ長三尺ニ切り地底ニ挿入シテ一個ノ臺ヲ形ツクレルモノ……………臺付法
- 一、瓦ヲ附着材料トセルモノ……………瓦付法

ノ三法ヲ施シ以テ此地ニ適セル養蠔方法ノ得失ヲ試驗スルノ目的ヲ以テ左記ノ調査試驗ヲナスコトセリ

- 一、胚子着生ノ多寡比較
- 一、附着牡蠣ノ成度
- 一、牡蠣採收量ノ多寡
- 一、各三法經濟上ノ得失
- 一、被害ノ多少
- 一、胚子ノ着生期
- 一、氣象海水トノ關係

築立及附着材料配置

蠔厓附着材料ハ根回り二寸五分乃至三寸ノ苦竹及淡竹并ニ全大ナル無枝ノ淡竹古瓦ニ石灰乳ヲ塗抹セルモノ、三種ニシテ各試驗ノ目的ニヨリ用途ヲ異ニセリ築ノ材料トセル苦竹及淡竹ハ事業ノ都合ニヨリ前年ニ於テ購入スルハ能ハザルヲ以テ築立期ニ先ツ一ヶ月以前ニ於テ伐採セルモノナレバ築材トシテ遺憾ナキ能ハス附着材料ノ配置及築立期ハ例年産卵期壹ヶ月以前ニ於テ行フヲ常トス本場ニ於テハ五月廿五日築立ニ着手シ全二十九日之ヲ終了セリ築立法ヲ左ニ示ス(別

圖參照)

第一號 築立法

築塙面積 東西一四間南北十七間總坪數百八十七坪

築ノ材料 苦竹及ビ淡竹ヲ枝付ノ儘長三尺ニ切りタルモノ壹株五本ヲ用ユ總數壹千百拾六株ヲ樹立セリ
 築ノ樹立 圖ノ如ク二尺ヲ距テ、交互ニ樹立シ列間五尺ヲ距テ、十列ヲ作り其前後六尺ヲ距テ、直角ニ風除ヲ作ル築ハ地下二尺ヲ挿入シ潮流ニ從ヒ風向ヲ受ケテ樹立ス

第二號 臺付法

場所ノ面積 東西九間南北十四間總坪數百二十六坪

材料及構造 苦竹長三尺切ノモノ三十本ヨリナル即中央ノ竹ハ直立シ其左右ヨリ斜ニ二本ノ竹ヲ交叉シテ三十本ニ至ル一個ノ大サ長二尺五寸乃至三尺巾一尺高一尺トス

竹臺ノ配置 竹臺ハ三尺宛ヲ徑テ、一個ヲ置キ一列十八個五尺ヲ距テ、十列ヲ設テ合計百八十一個竹臺ハ溼筋ニ接シ潮流ニ從テ設ク

第三號 瓦付法

場所ノ面積 東西四間南北十四間總坪數五十六坪

材料及構造 古キ平瓦ニ石灰乳液(生石灰一俵ヲ水三斗ニ溶カシタルモノ)ヲ塗抹シタルモノヲ用ユ

平瓦四枚ヲ并べ兩側ヨリ竹ニテ挿ミ棕梠繩ヲ以テ繫結シタルモノ四個ヲ合シテ二列ノ山形狀ノモノトナシ其前後ニ四本ノ杭ヲ立テ是ニ瓦ノ兩端ヨリ延長セル竹ヲ繫結シ風波ニヨリ更ニ動搖セザラシム即圖ノ如シ

瓦葺ノ配置

瓦葺ハ三尺ヲ徑テ、一個ヲ置キ一列十二個六尺ヲ距テ、四列ヲ設ク合計四十四個

蕪竹ヲ樹立スルニハ圃ニ示ヌ如キ方言ふリト稱スル器ヲ以テ干潮時水底ニ穴ヲ穿テ一人ハ蕪竹ヲ持テ直ニ之ヲ挿入シ足ヲ以テ其孔ヲ踏ミ堅ム

蕪立后ノ氣象及海水

蕪立后蠨蛸ノ着生ニ至ル即五月ヨリ八月ニ至ル此地ノ氣象ハ左表ニ示ヌガ如シ但左表ハ在桑名町(養殖場ヲ距ル二里許ノ上流ニアリ)桑名郡役所ノ觀測ニ係ル

五月以后四ヶ月間ノ氣象ハ表記ノ如ク六月ヲ除ク外常ニ快晴ノ天候少ナク多ク曇天ニシテ降水量比較的多量ニ北西、北及南、南東ノ軟風多キ吹キ其間二回ノ暴風ヲ見ル之カ爲メ牡蠣ノ養殖ニ與ヘシ障害亦少ナカラズ

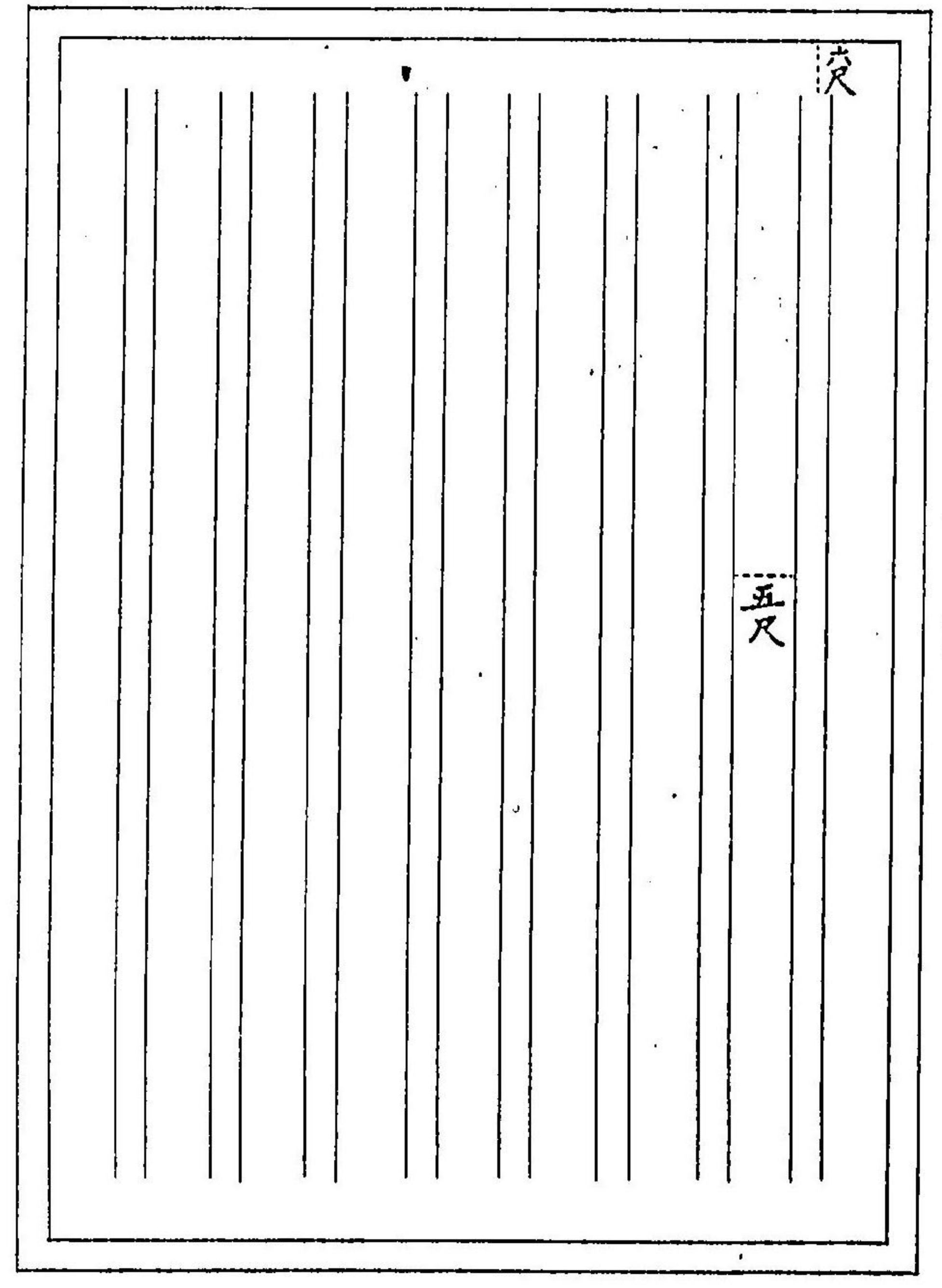
又氣象ノ如何ハ海水ニ影響スルコト甚シク海水ノ變動ハ養殖牡蠣ニ著シキ關係ヲ有ス今此地ニ於テ驗測シタル海水塩分ノ濃淡ヲ示セバ左ノ如シ

觀測月日	氣	溫	水	溫	比	重	潮
五月二十五日		三〇、五		二二、三		一、〇二四	落潮時
二十六日		三一、〇		二三、六		一、〇二二	〃
二十七日		二四、五		二三、六		一、〇二〇	升潮時
二十八日		二八、六		二八、二		一、〇二〇	干潮時
二十九日		三〇、三		二九、〇		一、〇二〇	〃
六月八日		二五、〇		二六、〇		一、〇一五	落潮時

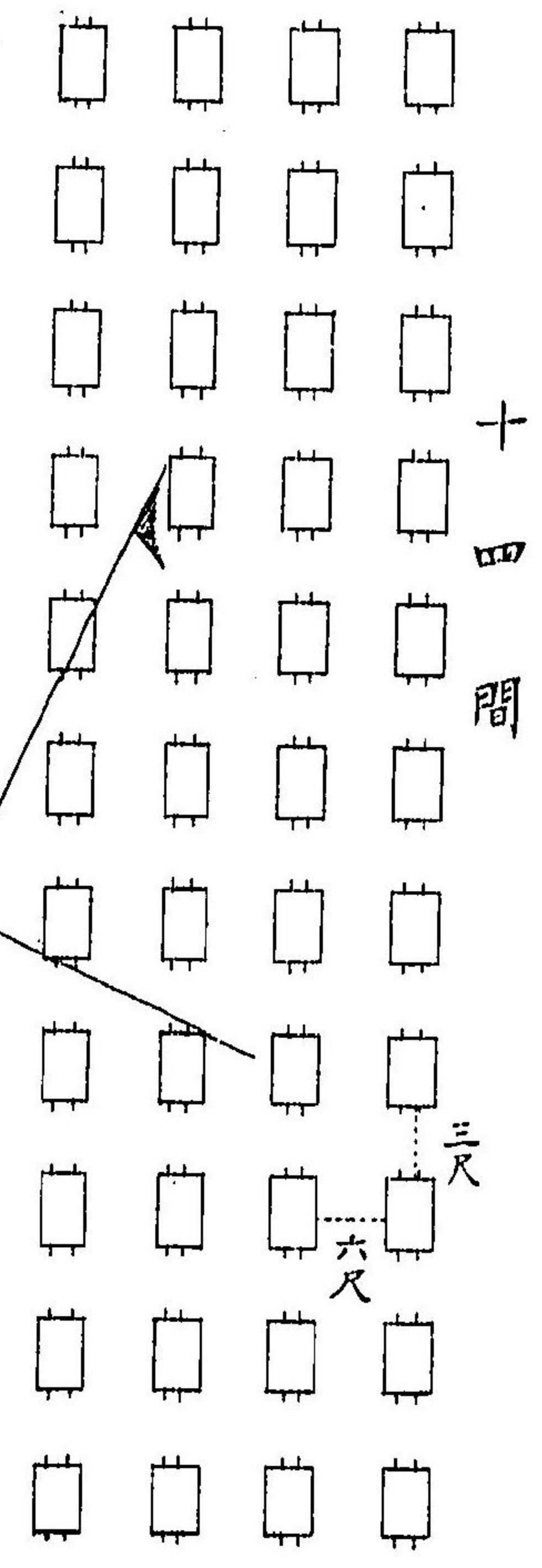
伊曾島養殖場築立圖

十七間

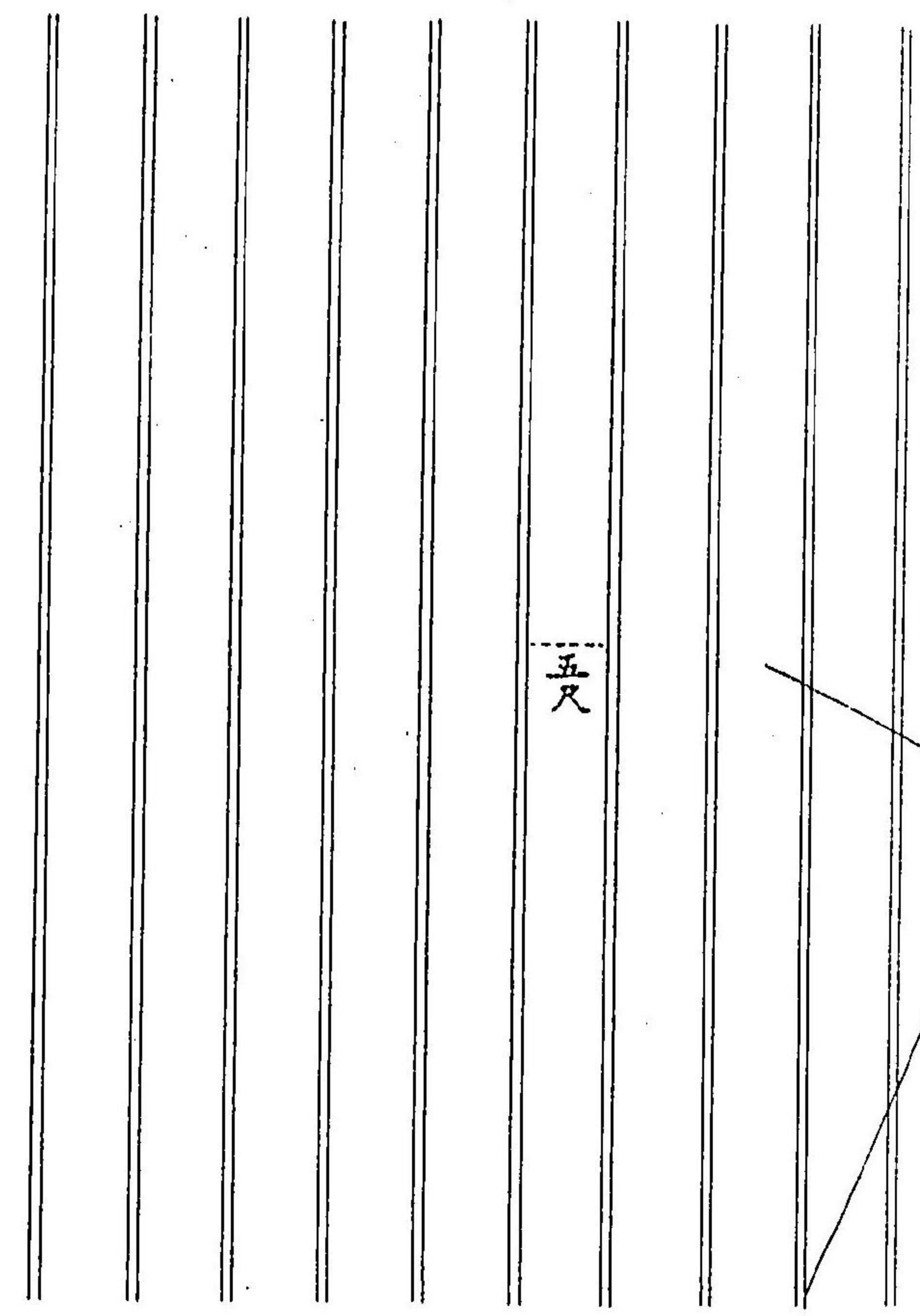
立 築 一 十 間



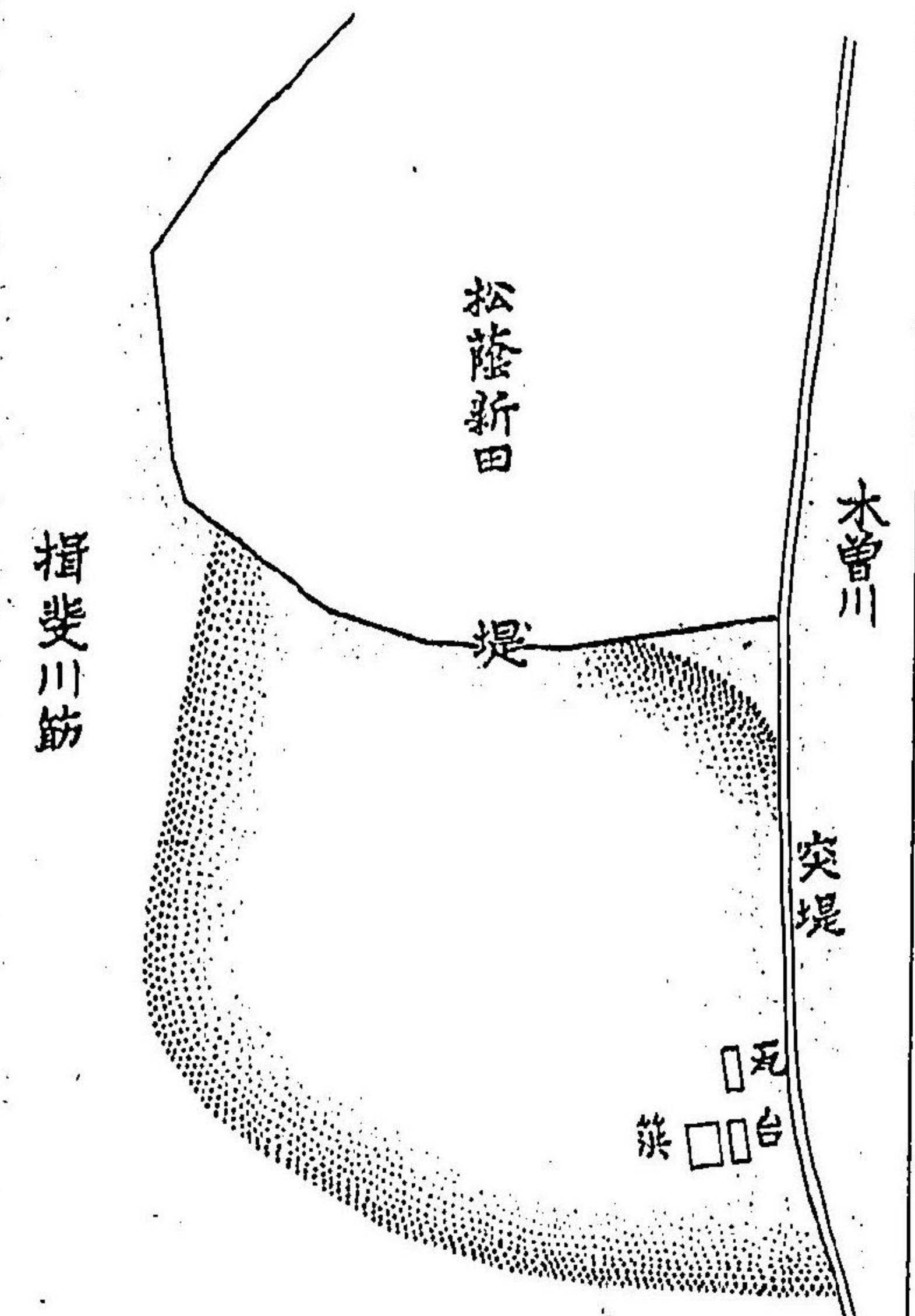
付 瓦 間 四



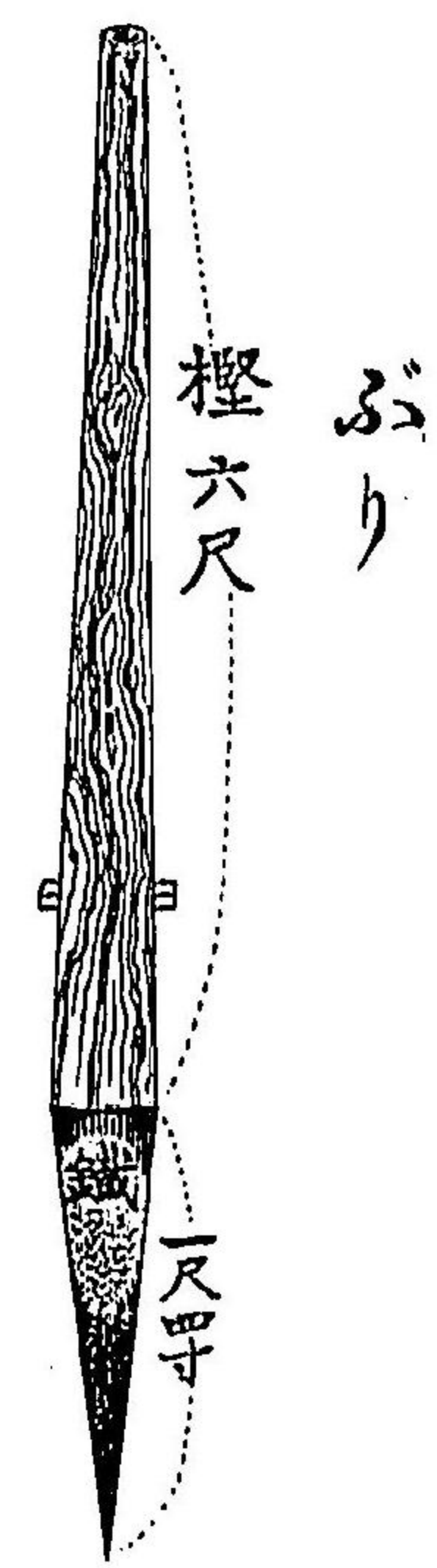
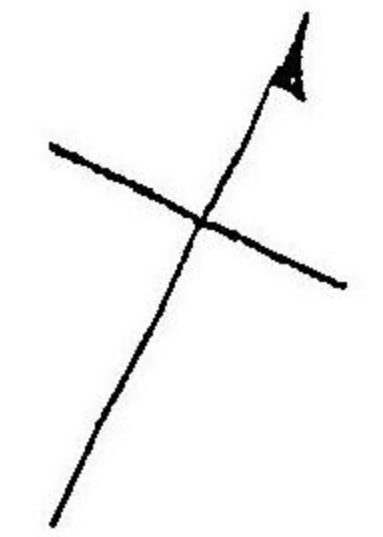
付 莖 間 九



地 蠟 養

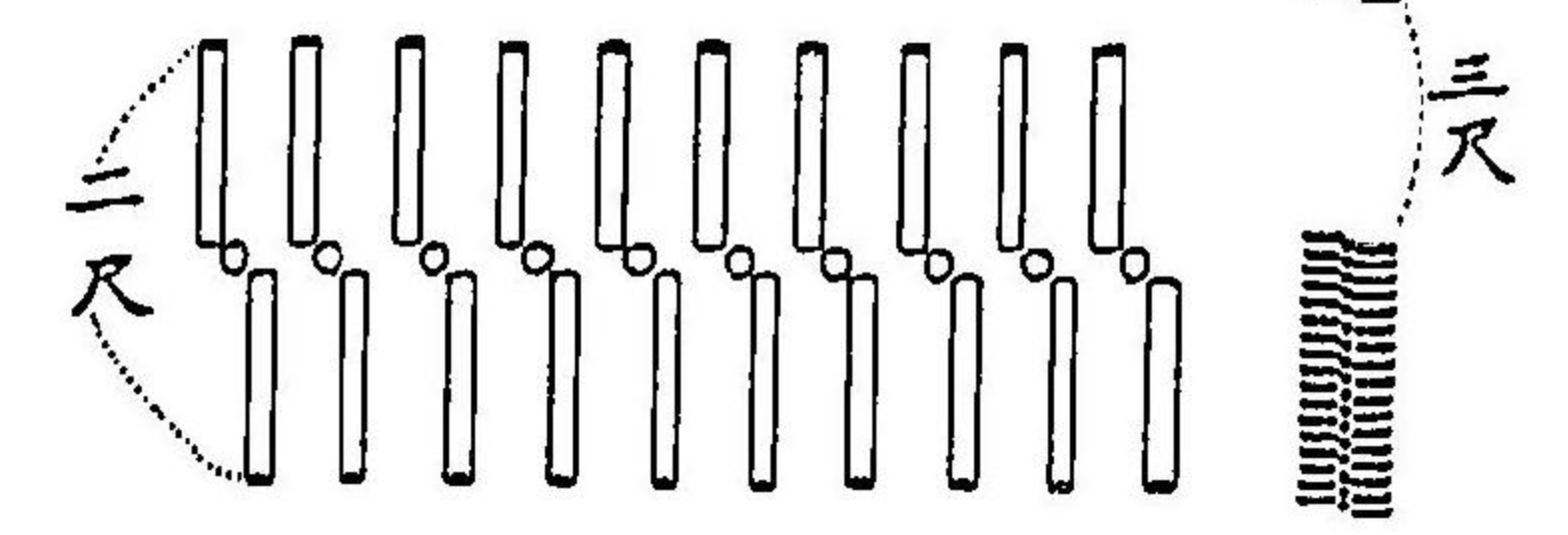


播斐川筋

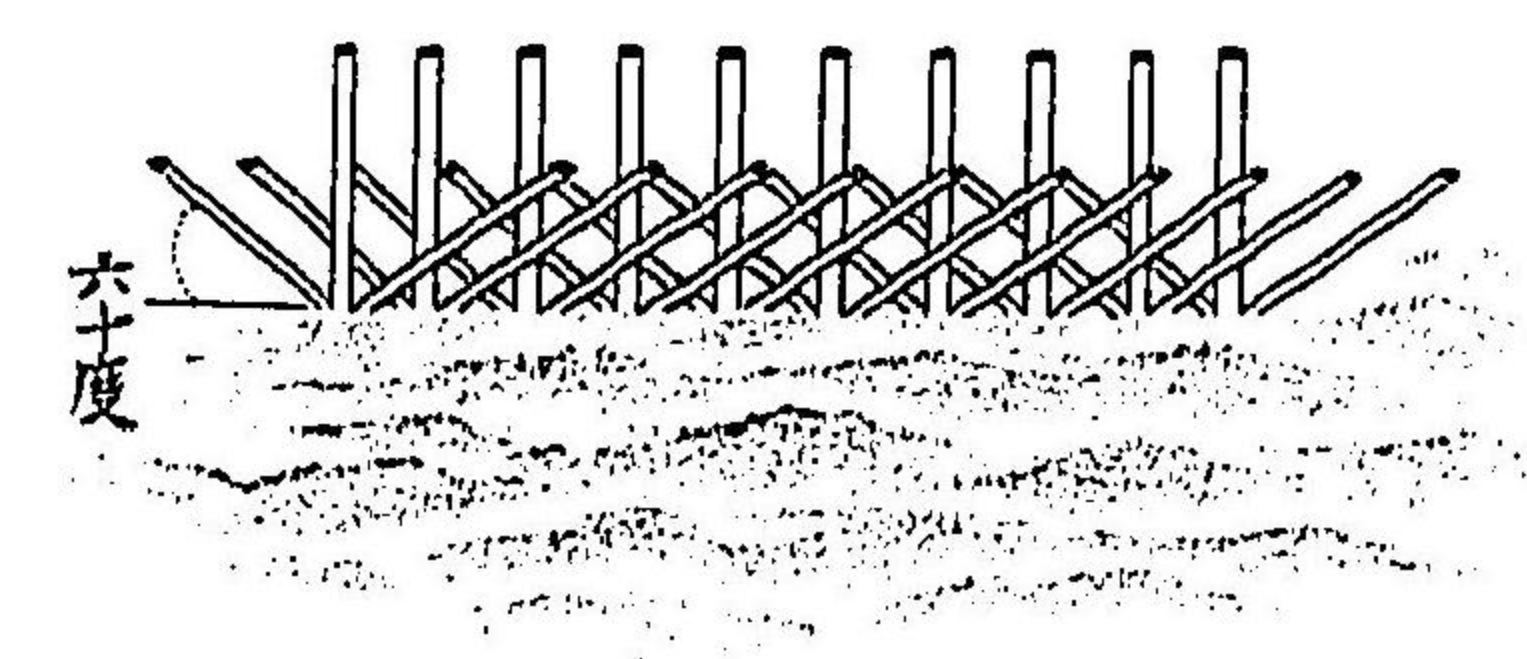


立 組 莖 竹

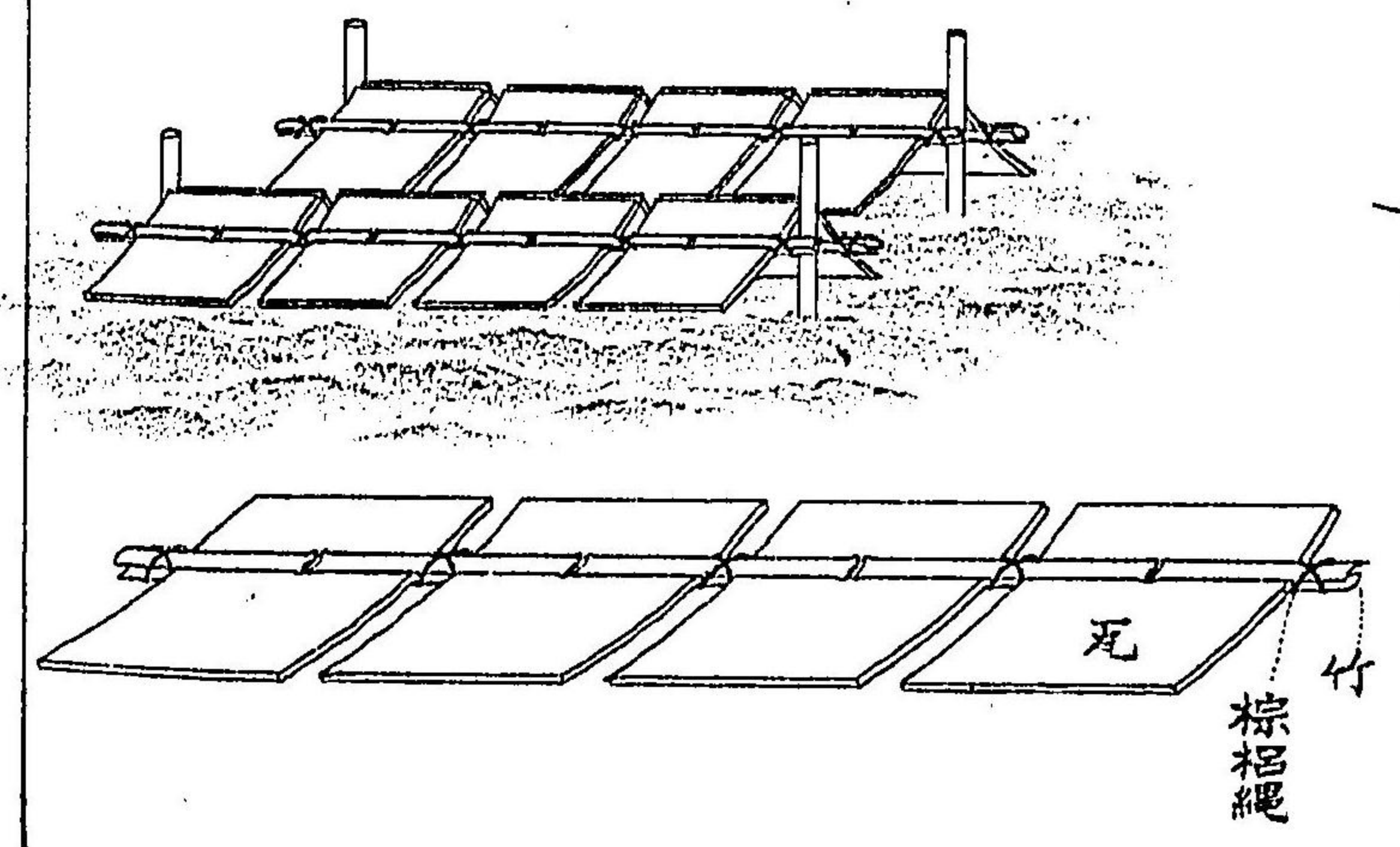
面 平



面 側



付 据 瓦



築立

築立后ノ經過牡蠣ノ着生

観測月日	氣 温	水 温	比 重	潮 時
六月二十七日	二六、〇	二八、〇	昇潮時
十月十日	二五、六	二二、〇	一、〇〇〇	干潮時
十一月十一日	二〇、五	一八、五	一、〇〇〇	"
十二月二十二日	一〇、五	一〇、八	一、〇一八	"
二月五日	三、五	七、三	一、〇一八	"
六月六日	九、〇	九、九	一、〇二〇	"
三月二十二日	一四、〇	一五、五	一、〇二〇	"

築立后六月八日其狀況ヲ觀察セシニ各試験區其附着器一面ニヨゴレテ着生シ藤壺(せい)ノ着生夥シク殊ニ南面外圍ニ多シ大サ徑一分乃至二分ニ達スルモ牡蠣稚介ハ尙之ヲ認メス然レモ牡蠣生殖腺ハ全ク成熟シテ已ニ放産セルモノヲモ認メタリ其後七月中旬ニ至リ第三號瓦付地ニ於テ牡蠣稚介ノ着生セルモノヲ始メテ發見シ八月十一日ニ於テ養殖場ヲ觀察セシニ風波ノ爲メ附着材料ノ傷害セシモノナク牡蠣稚介ハ其着生夥シク^{細粒}糲粟粒大ノモノヨリ大ハ已ニ一寸二分ノ長サヲ有スルモノアリ就中長五六分ノモノ最モ多シ牡蠣ノ着生ハ第三號瓦付地ニ最モ多ク一枚ノ瓦ニ平均八十個以上ヲ付着シテ第一號築立地及第二號瓦付地トシテ凡テ水底ヨリ一尺以下ノ部分ニ多ク枝及幹ノ分枝点ニ多ク着生スルヲ見ル又稚介ノ着生ハ第一號及第二號地共ニ塲ノ内部ヨリ南東面ノ外側ニ位スル筵竹ニ多シ以上ノ如ク牡蠣ノ着生ハ夥多ナリト雖モ未ダ以テ充分ノ着生ト云フベカラス從來木石ニ着生セルモノニ比シ少シク劣ル處ナシトセザレモ本年度ニ發生セルモノ、他ノ木石ニ着生スルモノ亦前年ノ者ニ比シ甚ダ劣レルヲ見ル該地ニ於ケル本年牡蠣ノ産卵ハ五六月中最モ成熟セルモノ

ノヲ見六月下旬ヨリ漸次放産セルモノヲ認メタルヲ以テ本年度築立期節ニハ敢テ遅速ナカリシト雖モ七月中即牡蠣胚子ノ盛ニ生殖スベキ當時ノ天候ハ多ク陰鬱ニシテ快晴ノ天氣少ナク北又ハ南ノ風常ニ卓越シ一ヶ月間二百七十耗ノ雨量ヲ見ル如斯天候不順ニ打續キ殊ニ該養殖場ノ地勢タル氣象變化ノ感應ヲ受クルヲ著シキ個所ナルヲ以テ或ハ胚子ノ發生ヲ傷害セシメ又少ナカラザルベシト信ズ要スルニ本年度牡蠣胚子ノ着生少ナカリシハ諸種ノ原因アルベシト雖モ氣象上ノ影響ハ最モ大ナル原因タリシナルベキカ

牡蠣附着後ノ經過及成育

牡蠣着生后三月ニ至ル迄ノ經過ヲ見ルニ着生成育共ニ良好ナルハ瓦付地ニシテ築立地臺付地之ニ亞グト雖モ瓦付地ハ風波ノ爲メ一面沙泥ニ掩蔽埋没セラレ窒死スルモノ甚多ク僅ニ底上ニ露出スル部分ニ存スル牡蠣ハ成育最モ良好ナリ築立地臺付地ハ風波ノ傷害ヲ受クルコトナク完全ニ牡蠣ヲシテ成育セシメ動物及湖水ノ害ヲ被ムルコト亦殆ンドナシ只築立地ニ着セルモノハ其形完キモ瓦付ノモノハ扁平ニシテ實質少ナク臺付ノモノハ一部部ニ着生セルモノ多キヲ以テ形不正形ナルヲ免レズ

牡蠣ノ成長ハ概シテ良好ナリト雖モ着生ノ多寡附着材料ノ配置及位置ニヨリ多少差違アリ築場ノ内面ヨリ外側ニ成長良シク底面ニ近ク着セルモノハ遠クザレルモノヨリ成育良好ニ甚シク密着着生セル部分ハ粗ニ群生セル部分ヨリモ成育不良ナリ是等ハ凡テ食餌ノ供給如何ト着生ノ粗密ヨリ及ボセル結果ナリト左ニ長度ヲ示ス

一月二十二日	最大ナルモノ	長	中	平	均
	瓦付地	三、〇二	一、五〇	一、八五	一、四〇
二月二十二日	最大ナルモノ	長	中	平	均
	瓦付地	三、〇二	一、五〇	一、八五	一、四〇

三月二十二日	築付地	三、〇〇	一、八〇	二、〇〇	一、三〇	二、四〇	一、七〇
	臺付地	二、八〇	一、五〇	一、六〇	一、二〇	二、一〇	一、五〇
瓦付地	三、二〇	二、〇〇	二、二〇	一、六〇	三、〇〇	一、九〇	

本年度成績

牡蠣ノ養殖ハ兩三年ニ渡リ其終リヲ見ルモノナレハ初年ニ於テ其成績ノ如何ヲ知ルコト能ハスト雖モ胚子ニ着生及成育等已ニ得タル結果ハ茲ニ之ヲ示スヲ得ベシ左ニ少シク述ブル處アラントス

本年ニ於ケル牡蠣ノ發生ハ前年ニ比シ遙ニ不良ナリシモノ、如ク從テ稚介ノ付着セシモノ比較的少ナカリシハ前已ニ述ヘタル如シト雖モ着生後ノ被害(氣温ノ寒熱ニ依リ受クル稚介ノ被害)ハ甚少ナクシテ其成育良好三十四年三月ニ於テ最大ナルハ已ニ三寸以上ニ達シ最小ナルモノ一寸六分ノ大サアリ而シテ胚子ノ付着及成育傷害等ノ点ヨリ築付及臺付瓦付ノ得失如何ヲ見ルニ實ニ左ノ結果ヲ表ハシタリ然シテ經濟上ノ得失ニ至リテハ最終ニ於テ之ヲ比較セントス

胚子附着量	少量	少量	多量
稚介成長量	良	不良	最良
稚介ノ被害	微	微	多量
築場ノ損傷	無	無	甚シ
	築立法	臺付法	瓦付法

以上ノ經過ハ數字ヲ以テ明確ニ表示スルコト能ハス只本年度ニ於テ試ミタル三法ノ得失ヲ見易カラシメンガ爲メ三者ヲ通觀對照シタル比較的ノ量ニ過キス即胚子ノ付着ニ至リテハ瓦付法最モ多ク且其成育力ハ底面ニ接セルヲ以テ食餌ノ供給從テ多ク甚良好ナリト雖モ其被害甚シク着生セル牡蠣ハ沙泥ノ爲メニ埋没セラレ或ハ窒死シ其生ヲ完クスルモノ甚ダ少

ナキノミナラズ風波ノ爲メ杭ハ折ラレ瓦ハ散乱シ其堅牢ナルモノモ半バ沙底ニ掩ハル、ニ至ル築立法臺付法ニ至リテハ
 胚子ノ着生瓦付法ニ比シ劣ル處アリト雖モ着生セル牡蠣ノ多クハ其生ヲ完フシ附着材料ニ傷害ヲ受クルコト極メテ少ナシ
 トス成長力ハ瓦付ノモノニ比シ稍劣リ殊ニ臺付法ハ局部ニ着生スルモノ多キヲ以テ互ニ逼迫シテ其成長最モ下位ニアリ
 是ニ依テ見レバ經過良好ナルハ瓦付法ナルモ風波ノ損傷甚シク修理ニ多クノ勞力ヲ要シ之ヲ避ケンガタメ最初ニ於テ堅
 固ナル建設ヲナスニハ尠ナカラザル勞費ヲ要シ結局經濟上ノ收支ニ至リテ相償ハザルコトナシトセズ是等ハ如何ニ牡蠣ヲ
 着生成育セシムルモノノ事業ニ至リテハ經濟上取ラザル處ナルヲ以テ先ツ築立法ヲ第一トシ臺付法瓦付法之レニ亞グモ
 ノト云フヲ得ベキカ尙今後如何ナル經過ニ終ルベキカ計ラレサルヲ以テ事業ノ終結ト共ニ其得失如何ヲ報告スル處アル
 ベシ

鵜方海中養殖場

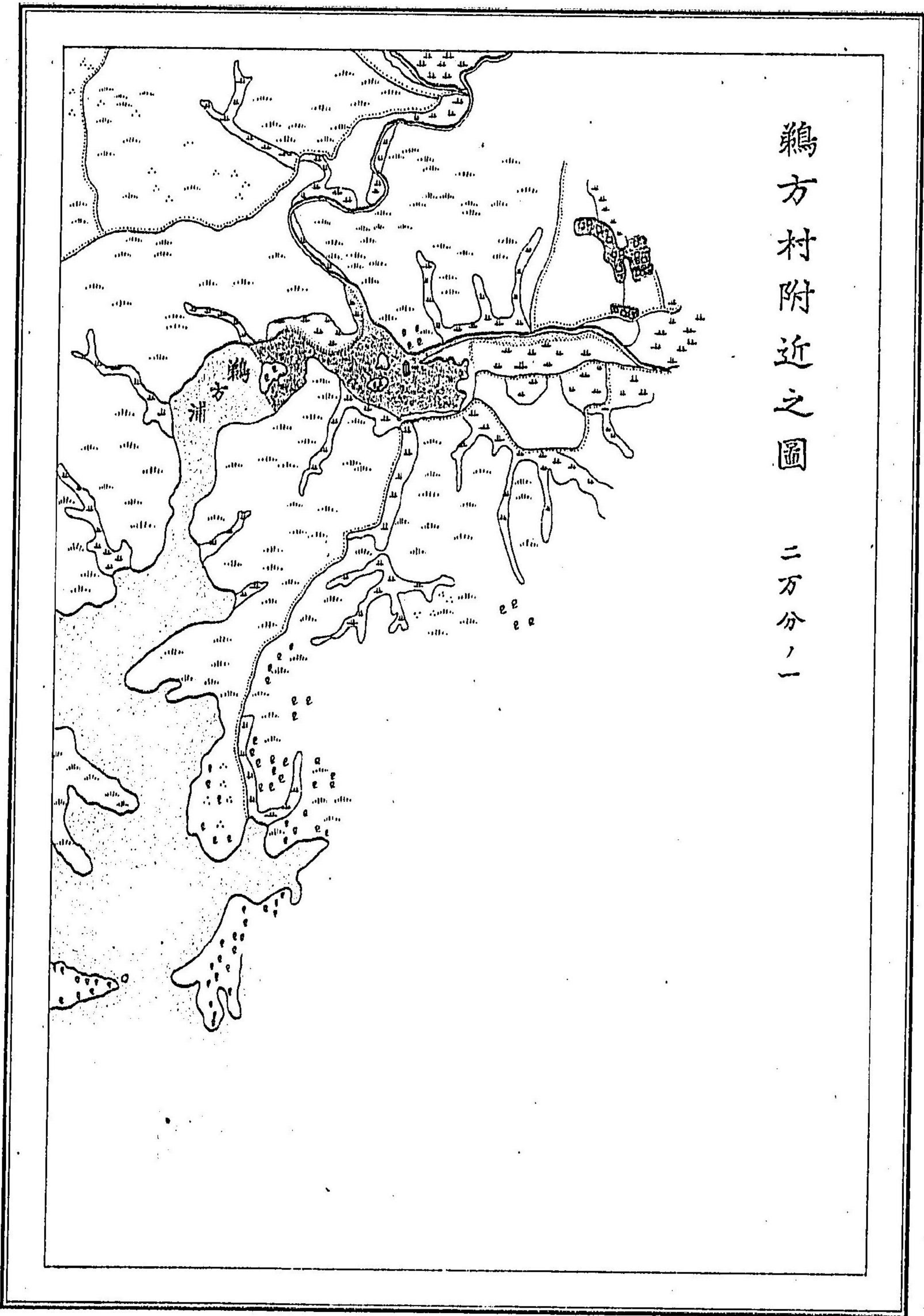
地勢及養殖場狀況

鵜方養殖場ハ志摩郡英虞灣ノ北方ニ位セル鵜方灣ニアリ葛西川前川ノ二流常ニ流入レ淡鹹能ク其度ニ適ヒ水甚深カラス
 潮水干満ノ差平均六尺ニシテ干潮ニ至レハ一條ノ灣ヲナシ其兩岸一面干瀉ヲ呈ス繼而積ニ萬四千五百二十坪アリ水底礫
 石介殼ヲ混セル泥土ニシテこあじもヲ生セル個所アリ泥深趾ヲ沒ス牡蠣其他魁蛤（あかひ）ノ小ナルモノすゞき、いな、
 くろたひ等ヲ産ス灣内波浪靜ニシテ激浪ノ憂更ニナク暴雨ニ際シテハ時ニ洪水（みづ）ヲ起スコトアリト雖モ永ク停滯スルコトナ
 シ

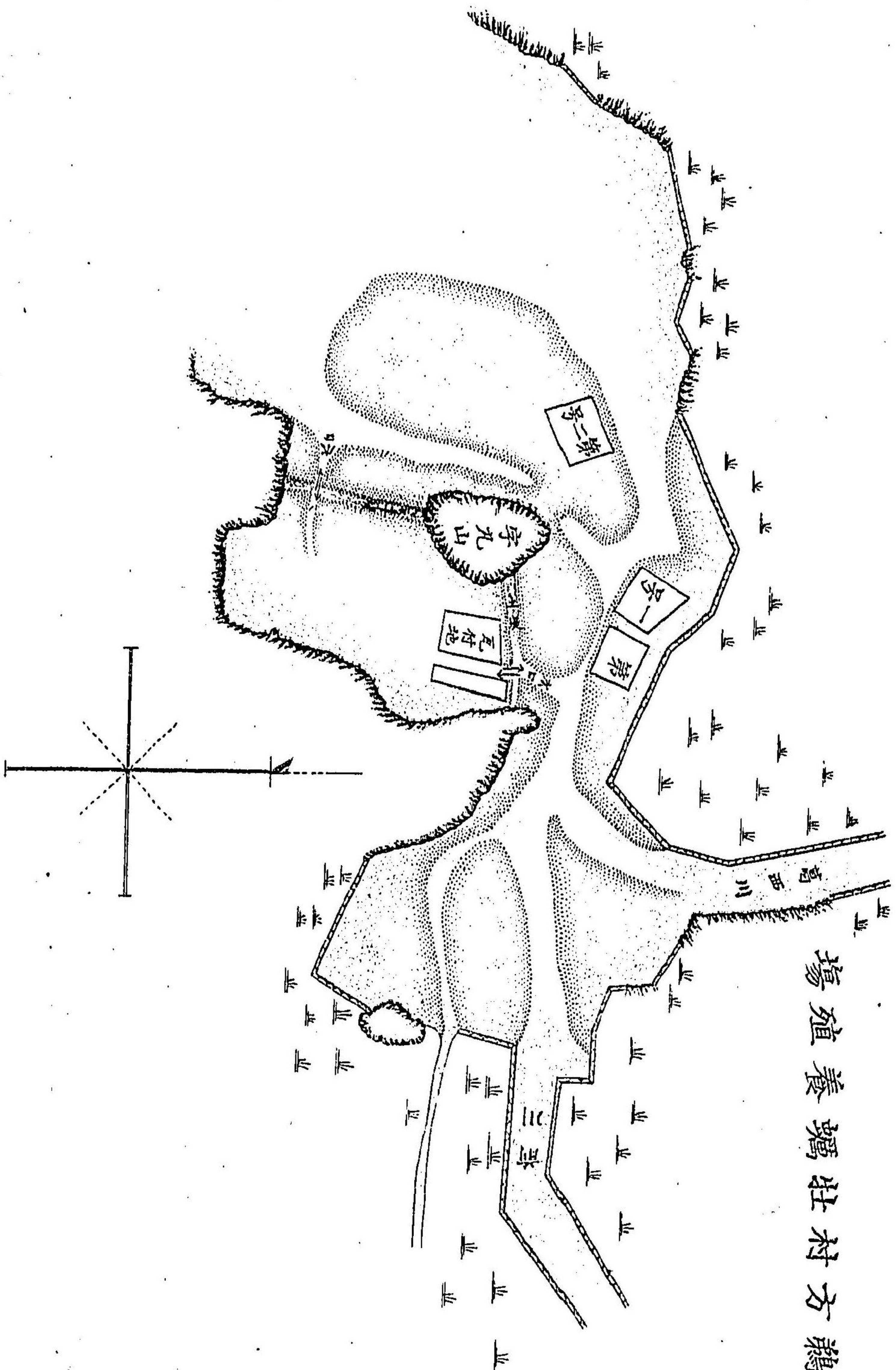
此地從來牡蠣ノ産出多キモ只自然ニ放任シ一年生ノモノヲ捕採スルヲ以テ成育大ナルモノヲ見ス形甚小ツク價值更ニ揚
 ラズ故ニ後記ノ三個所ヲ撰ミ築立瓦付ノ二法ヲ行ヒ先ツ養殖場中

一、築場トシテ位置ノ適否即牡蠣着生ノ多寡

鷓方村附近之圖 二万分一

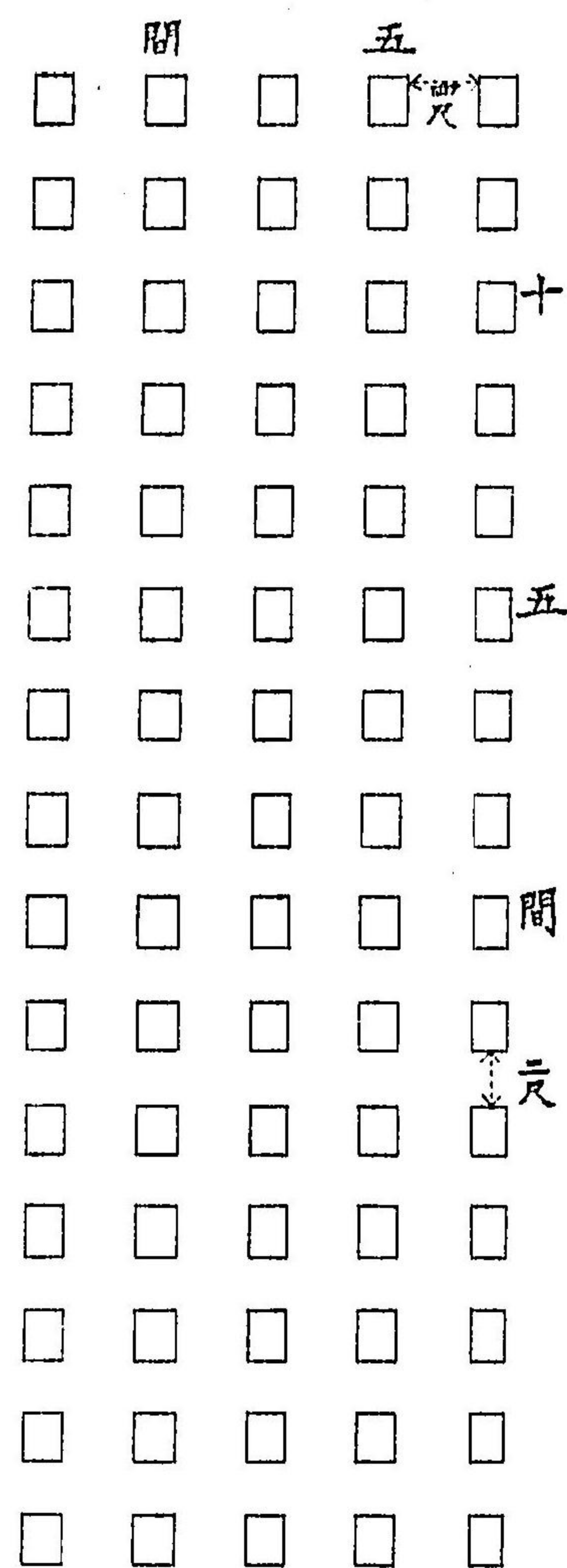


鷓方村壯蠶養殖場

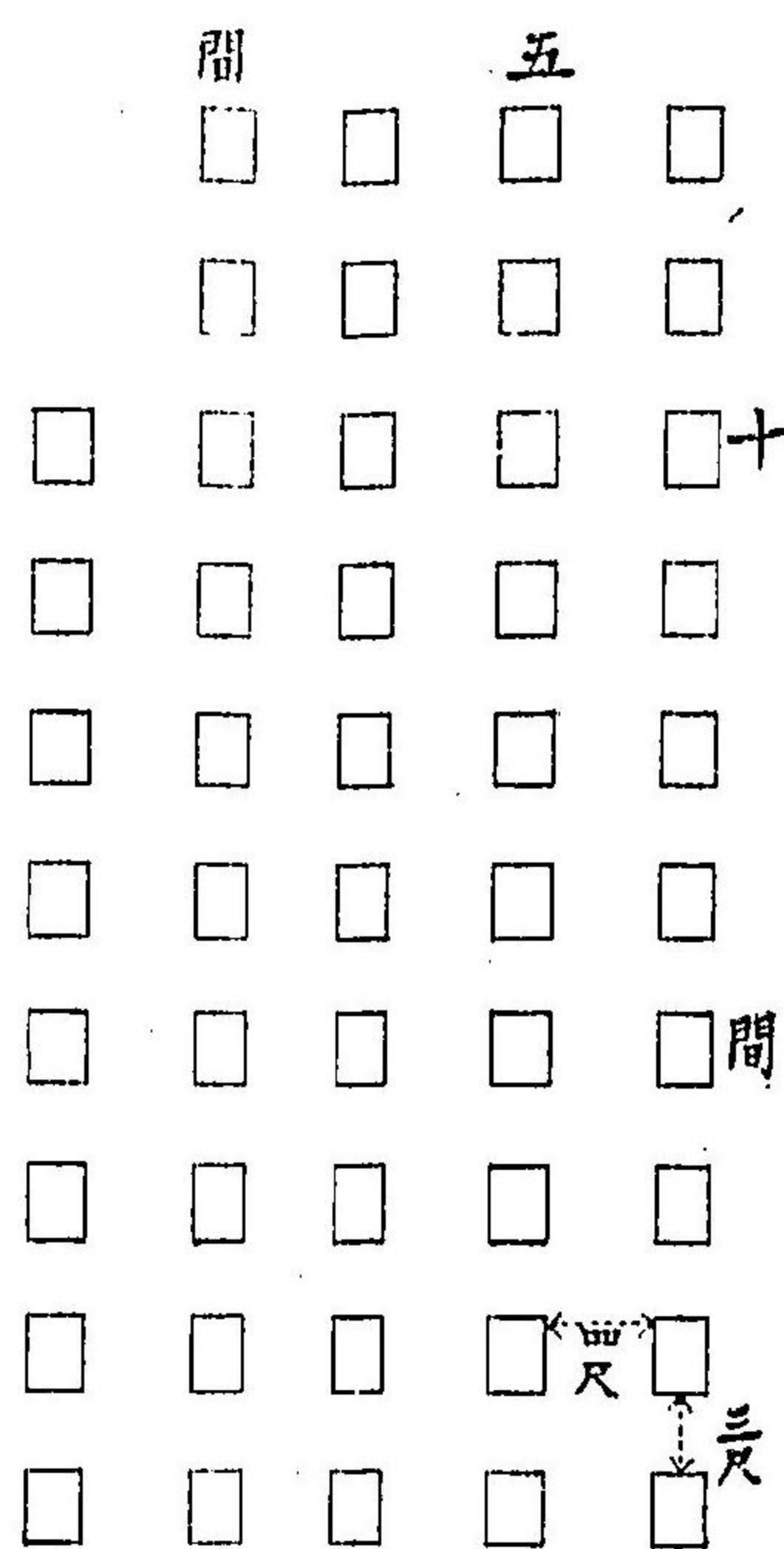


鵜方養殖場築立圖
↑ 潮流

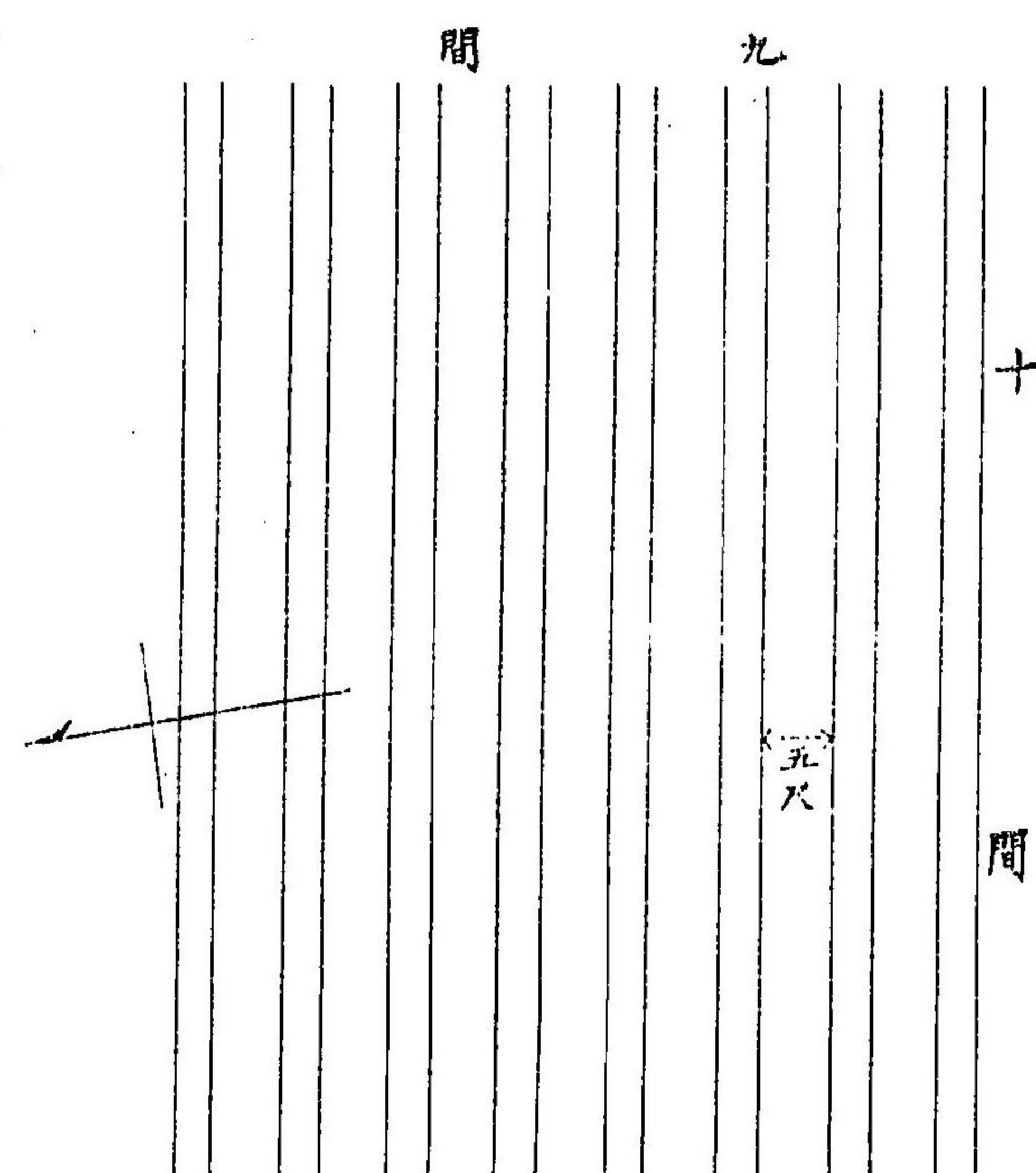
置配瓦平



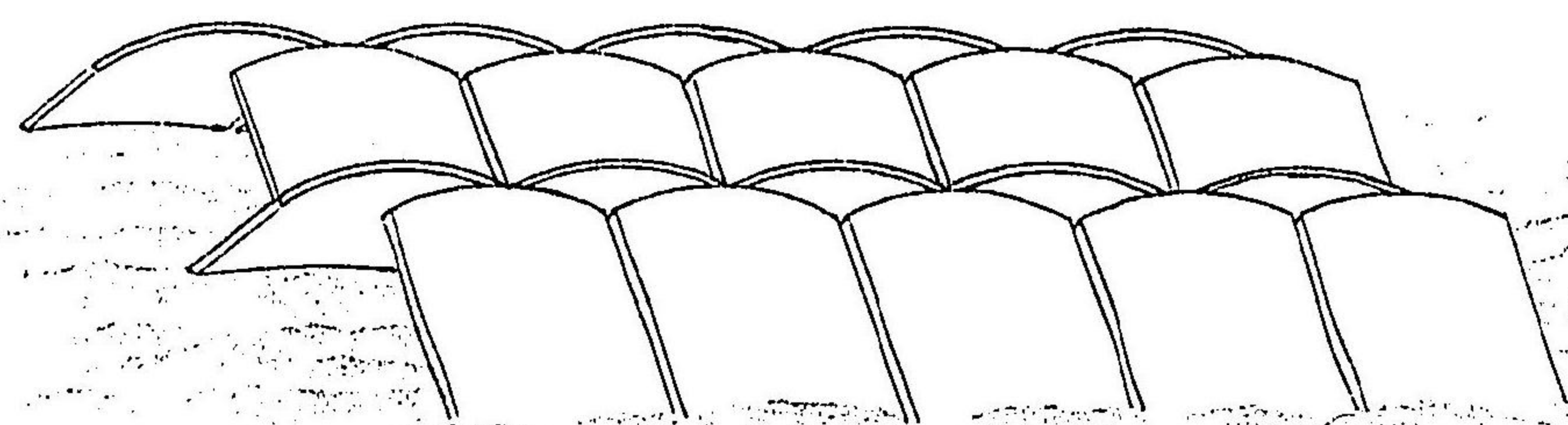
置配瓦丸



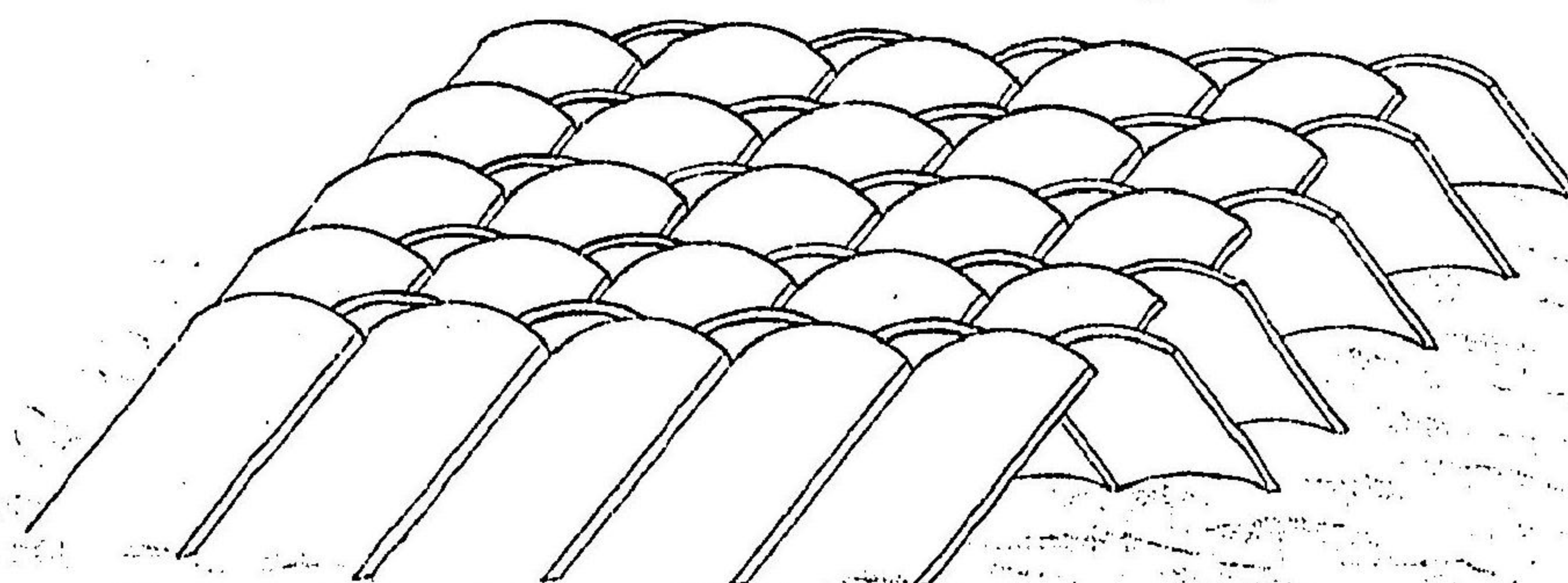
立 築



立 組 瓦 平



立 組 瓦 丸



三
尺
間

一、築塙ニ於ケル牡蠣ノ成長度

一、築立法ト瓦付法トノ適否

一、經濟上ノ得失

ヲ試ミ^本築塙事業ノ端緒ヲ開カンガ爲メ此試驗ヲ施行セリ

築立地及築立

築ノ材料ハ根回り二寸五分乃至三寸ノ淡竹及平瓦、丸瓦ニ石灰乳ヲ塗抹セルモノ、二種トシ淡竹ハ築立登ケ月以前ニ伐採セルモノナリ築ハ六月上旬ノ潮時ニ於テ樹立セリ左ニ其方法ヲ記ス(別圖參照)

第一號 試驗 地

築塙位置

鵜方灣内葛西川口ノ北部ニアリ浮筋ニ接シ水底泥土深ク壹尺ニ達シ介殼ヲ混シあじもヲ生ズ水流ハ其南ヲ過ギ潮汐ノ流域ハ北岸ニ接シテ直流ス大潮干潮時一帯干瀉トナリ滿潮時深五尺海水比重ハ通常一、〇〇三(浮筋)乃至一、〇一九(滿潮時)ニシテ平均一、〇二五以下ニアリ

築塙面積

東西十間東北九間九十坪ノモノニ區即百八十坪

築ノ材料

淡竹長三尺切ノモノ五本ヲ以テ一株トシ惣計九百六十株ヲ樹立セリ

築ノ樹立

圖ノ如ク各二尺ヲ距テ、交互ニ樹立ス一列六十株宛列間五尺ヲ徑テ、八列ヲ立テ凡テ沿岸ニ沿ヒ潮流ニ從テ建設シ地下二尺五寸ヲ挿入ス

第二號 試驗 地

築塙位置

第一號地ノ下流宇丸山ノ西部ニアリ潮水ノ流域タリ水底泥土ニシテあか^すい^ろヲ産シあじもヲ生ヌ大潮干潮時干瀉トナリ滿潮時水深六尺アリ海水比重ハ一、〇二三乃至一、〇二三(最高)ニシテ平均一、

〇一五以上ニアリ

養 殖 面 積

十間平方即百坪

養 殖 材 料

淡竹長四尺五寸ニ切リタルモノ壹株五本惣數六百五十株

養 殖 樹 立

第一號地ニ均シク一列六十五株十列ヲ建設ス列ハ潮流ニ從ヒ地下二尺ヲ挿入ス

第三號 試 驗 地

養 殖 位 置

灣内字丸山ヲ一角トシ其西、北ノ兩邊ニ舊堤ヲ存シテ分界セル舊田陷落地ノ北部ニアリ西面ニ潮水ノ流通口アリ常ニ之ニヨリ流通シ大潮昇時ニハ堤坊ヲ沒ス滿潮時水深約五尺アリ干潮時干潟トナル水底泥土ニシテあじもヲ生ス別ニ潮水ノ流通ヲ計ラシガ爲メ北面ニ巾六尺ノ通水口ヲ穿鑿シ其流域ノ兩側ニ瓦ヲ配置ス

場 所 面 積

百二十五坪ニシテ内五十坪ハ丸瓦七十五坪ハ平瓦ヲ配置ス

附 着 材 料

粗製丸瓦及平瓦ニ石灰乳(生石灰壹俵ヲ水二斗ニ溶カセルモノ)液ヲ塗抹セルモノ合計平瓦千五百枚 丸瓦千九百二十枚

構 成 配 置

丸瓦十枚ヲ左右ヨリ立テ掛ケ山形トナセルモノ四畝ヲ作リテ一個トシ一坪壹個ヲ配置ス合計四十八個平瓦八十枚ヲ左右ヨリ立テ掛ケ山形トセルモノ二畝ヲ作リテ一個トシ一坪ニ配置ス合計七十五個瓦ハ水底二寸許ヲ挿入シ安全ニ保タシム

養竹樹立法ハ伊曾島養殖場ノ條下ニ述ヘタルヲ以テ之ヲ畧ス

養 殖 後 ノ 氣 象

養殖後牡蠣着生ニ至ル即六月ヨリ八月ニ至ル三ヶ月間ノ氣象ハ左ノ如シ但シ觀測ハ本場ニ於テセルモノニシテ鶴方養殖

(時十前午) 測 觀 場 本 表 象 氣 日一月六自
日一卅月八至

日	月	天候	風位力	最高溫度	最低溫度	午前(°C)	雨量
六月一日	六月	晴	東	25.3	21.5	23.1	0.0
六月二日	六月	晴	東	25.2	21.4	23.0	0.0
六月三日	六月	晴	東	25.1	21.3	22.9	0.0
六月四日	六月	晴	東	25.0	21.2	22.8	0.0
六月五日	六月	晴	東	24.9	21.1	22.7	0.0
六月六日	六月	晴	東	24.8	21.0	22.6	0.0
六月七日	六月	晴	東	24.7	20.9	22.5	0.0
六月八日	六月	晴	東	24.6	20.8	22.4	0.0
六月九日	六月	晴	東	24.5	20.7	22.3	0.0
六月十日	六月	晴	東	24.4	20.6	22.2	0.0
六月十一日	六月	晴	東	24.3	20.5	22.1	0.0
六月十二日	六月	晴	東	24.2	20.4	22.0	0.0
六月十三日	六月	晴	東	24.1	20.3	21.9	0.0
六月十四日	六月	晴	東	24.0	20.2	21.8	0.0
六月十五日	六月	晴	東	23.9	20.1	21.7	0.0
六月十六日	六月	晴	東	23.8	20.0	21.6	0.0
六月十七日	六月	晴	東	23.7	19.9	21.5	0.0
六月十八日	六月	晴	東	23.6	19.8	21.4	0.0
六月十九日	六月	晴	東	23.5	19.7	21.3	0.0
六月二十日	六月	晴	東	23.4	19.6	21.2	0.0
六月廿一日	六月	晴	東	23.3	19.5	21.1	0.0
六月廿二日	六月	晴	東	23.2	19.4	21.0	0.0
六月廿三日	六月	晴	東	23.1	19.3	20.9	0.0
六月廿四日	六月	晴	東	23.0	19.2	20.8	0.0
六月廿五日	六月	晴	東	22.9	19.1	20.7	0.0
六月廿六日	六月	晴	東	22.8	19.0	20.6	0.0
六月廿七日	六月	晴	東	22.7	18.9	20.5	0.0
六月廿八日	六月	晴	東	22.6	18.8	20.4	0.0
六月廿九日	六月	晴	東	22.5	18.7	20.3	0.0
六月三十日	六月	晴	東	22.4	18.6	20.2	0.0
七月一日	七月	晴	東	22.3	18.5	20.1	0.0
七月二日	七月	晴	東	22.2	18.4	20.0	0.0
七月三日	七月	晴	東	22.1	18.3	19.9	0.0
七月四日	七月	晴	東	22.0	18.2	19.8	0.0
七月五日	七月	晴	東	21.9	18.1	19.7	0.0
七月六日	七月	晴	東	21.8	18.0	19.6	0.0
七月七日	七月	晴	東	21.7	17.9	19.5	0.0
七月八日	七月	晴	東	21.6	17.8	19.4	0.0
七月九日	七月	晴	東	21.5	17.7	19.3	0.0
七月十日	七月	晴	東	21.4	17.6	19.2	0.0
七月十一日	七月	晴	東	21.3	17.5	19.1	0.0
七月十二日	七月	晴	東	21.2	17.4	19.0	0.0
七月十三日	七月	晴	東	21.1	17.3	18.9	0.0
七月十四日	七月	晴	東	21.0	17.2	18.8	0.0
七月十五日	七月	晴	東	20.9	17.1	18.7	0.0
七月十六日	七月	晴	東	20.8	17.0	18.6	0.0
七月十七日	七月	晴	東	20.7	16.9	18.5	0.0
七月十八日	七月	晴	東	20.6	16.8	18.4	0.0
七月十九日	七月	晴	東	20.5	16.7	18.3	0.0
七月二十日	七月	晴	東	20.4	16.6	18.2	0.0
七月廿一日	七月	晴	東	20.3	16.5	18.1	0.0
七月廿二日	七月	晴	東	20.2	16.4	18.0	0.0
七月廿三日	七月	晴	東	20.1	16.3	17.9	0.0
七月廿四日	七月	晴	東	20.0	16.2	17.8	0.0
七月廿五日	七月	晴	東	19.9	16.1	17.7	0.0
七月廿六日	七月	晴	東	19.8	16.0	17.6	0.0
七月廿七日	七月	晴	東	19.7	15.9	17.5	0.0
七月廿八日	七月	晴	東	19.6	15.8	17.4	0.0
七月廿九日	七月	晴	東	19.5	15.7	17.3	0.0
七月三十日	七月	晴	東	19.4	15.6	17.2	0.0
七月三十一日	七月	晴	東	19.3	15.5	17.1	0.0

時	測	觀	中		月		全
			降	雨	溫	風	
風力	風位	晴天日數	降水日數	最高溫度	最低溫度	最高風速	最低風速
六	北	10	1	28.5	16.5	10.0	0.0
五	西	9	1	28.0	16.0	9.0	0.0
四	南	8	1	27.5	15.5	8.0	0.0
三	東	7	1	27.0	15.0	7.0	0.0
二	北	6	1	26.5	14.5	6.0	0.0
一	南	5	1	26.0	14.0	5.0	0.0
0	東	4	1	25.5	13.5	4.0	0.0
0	北	3	1	25.0	13.0	3.0	0.0
0	南	2	1	24.5	12.5	2.0	0.0
0	東	1	1	24.0	12.0	1.0	0.0

壹ヶ月平均

三重縣水産試驗場事業報告

場ト本場所所在地トハ地理上相接近シ其間隙阻スヘキ山岳ノ起伏ナキヲ以テ著シキ差違ナシトス
築立後ノ經過牡蠣ノ着生

築立後八月二十二日ニ於テ養殖場ヲ視察スルニ築場ハ風波ノ傷害ヲ受クルコトナク藤壺(せい)ノ着生亦夥多ナラズト雖モ
牡蠣ノ稚介ハ各試驗地ニ於テ凡テ之ヲ認メ其大ナルモノハ長一寸二分ニ達スルモノアリ即第一號試驗地ニハ稚介ノ着生
最モ多ク一面之ヲ見ルモ各個々ノ築竹ニハ着生ノ不均甚シク概シテ澇筋ニ接近セル部分ヨリハ沿岸ニ偏セル箇所ニ多
ク着生シ第二號試驗地ハ第一號試驗地ニ比シ牡蠣ノ着生量カニ劣リ一モ群生スルモノナク点々單生セルヲ見ルノミ第三
號試驗地即瓦付地ハ前二ヶ所ニ比シ牡蠣ノ着生量カニ多ク丸瓦平瓦共ニ其全面均一ニ着生シテ剩ス處ナシ牡蠣ハ瓦ノ外
面ヨリモ内側ニ多ク潮水ノ流通口ニ接スル處ハ他ニ比シ其着生著シク多シ附着牡蠣ノ最大ナルモノハ已ニ長一尺二寸ニ
成育シ最モ多キハ長五分ヲ保テルモノニシテ以下胡麻粒大ノモノヲモ認ム以上ノ狀況ニヨリ之ヲ視ルルハ該地ノ牡蠣ハ
七月上旬ニ於テ盛ニ發生着生セシモノナルベク其發生ハ前年ニ比シ劣ル處ナシトス氣象上ノ影響ハ著シキ現象ヲ呈セズ
今後ノ試驗ニヨリ此地ノ狀態ヲ明ニスベシ

牡蠣着生后ノ經過及成育

牡蠣着生后本年度ノ經過ヲ見ルニ築場ハ風波ノ傷害ヲ被ムルコトナク凡テ完全ノ形ヲ保チ只第一號第二號試驗地ノ築竹ニ
ハあじもノ枯葉浮流懸懸スルモノ多カリシノミ是等ハ常ニ看守人ヲシテ除去セシメタリ附着牡蠣ハ成育良好ニシテ風雨
及動物ノ被害更ニ無ク只着生ノ結果窒死ヲ來タシタルモノト外氣ニ曝ラサレテ斃死セルモノトノ僅少ヲ認メタルニ不
凡テ牡蠣ハ底面ヨリ三寸以上一尺以下ノ處ニ多ク着生シ主トシテ築竹ノ幹ニ着生ス第一號試驗地ハ牡蠣ノ着生成育共ニ
良好ニシテ稚介着生當時ニアリテハ沿岸附近ノ築ニ着生ノ多キヲ認メシモ地盤ノ傾斜ハ少シク急ニシテ九間ニ壹尺ノ高
低アリ從テ澇筋ニ比シ外氣ノ接觸長時間ニ涉ルヲ以テ稚介ノ被害比較的多ク年度末ニ至テハ澇筋附近ノ築ニ多クノ牡蠣

ト且成長ノ良好ナルモノト見ルニ至レリ第二號試驗地ハ最初着生セル牡蠣ノ外後ニ胚子ノ着生セルモノヲ認メズ僅少ノ牡蠣ハ無事ニ成育セリ第三號試驗地即瓦付地ハ牡蠣ノ着生夥多ナリシ結果瓦ノ裡面ニ着生セシモノハ多ク窒死シ其形狀甚不正ニシテ成育最モ劣レリ左ニ牡蠣ノ成育量ヲ示ス

三重縣水産試驗場事業報告

本年度ノ試驗

二月二日	八月二十二日			平均
	第一號地	第二號地	第三號地	
第一號地	一、〇	〇、八	〇、二以下	〇、五
第二號地	一、二	一、〇	〇、三以下	〇、六
第三號地	〇、七	〇、六	〇、一以下	〇、五
第一號地	二、〇	一、三	一、〇	一、七
第二號地	一、六	一、二	〇、八	一、六
第三號地	一、五	一、一	〇、六	一、三
			〇、五	〇、七

本年方養殖場ニ於ケル本年度養殖試驗ノ經過ハ前ニ概説セル如シ是ニ依テ見ルニ牡蠣ノ發生ハ通例ニシテ優ニ繁殖ヲ謀ルニ足ルベク其成長ハ甚良好ナラザルモ尙初年ナルニ從來自然生ノモノニ比スレバ著シク發育シテ牡蠣ノ價值ヲ増進ス而シテ養殖個所ノ適否ニ就テハ本年度ニ得タル牡蠣稚介ノ附着及成長ノ点ニ於テ左記ノ結果ヲ示セリ

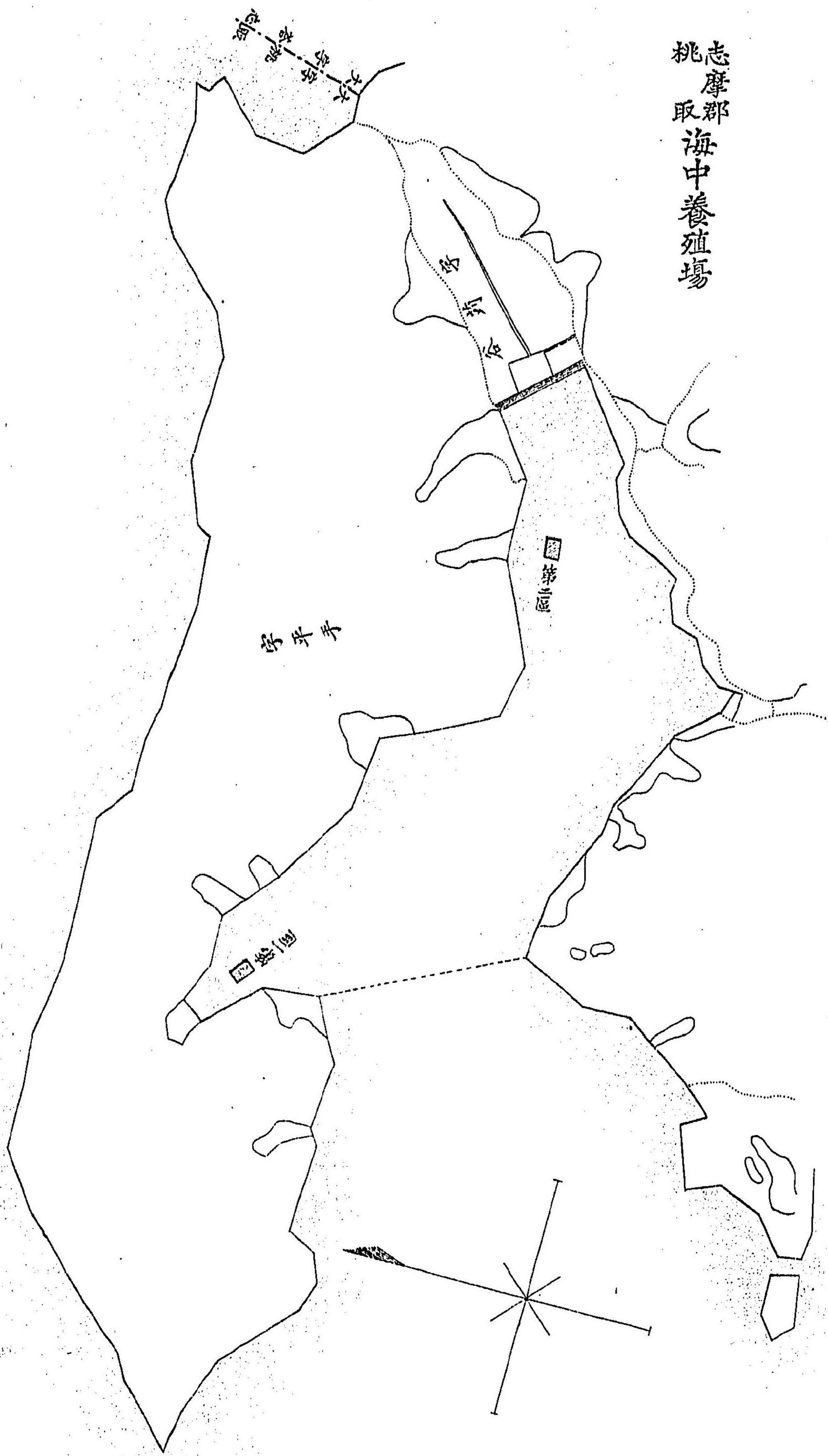
第一號地(浜立)

第二號地(浜立)

第三號地(瓦付)

胚子附着量 多量 少量 夥多
稚介成長力 良好 稍良 不良

志摩郡 海中養殖場



三重縣水産試驗場事業報告

稚介ノ被害 微

無

無 稍多

是ニ依テ見レバ牡蠣著生甚モ多量ナルハ第三號五付地ナレ其成育ハ甚悪シク殆ンド從來ノ自然生ト差違アルヲナシ蓋シ牡蠣ノ甚シク密生セルト塩分ノ濃度ナルニ起因スルモノカ第二號試驗地ハ牡蠣ノ著生甚少ナク附着材料ヲ與フルニ價セズ是レ外界ノ關係ニヨルモノナルベシト雖モ從來牡蠣ノ著生甚少ナキヨリ見ルモ牡蠣ノ發生ニ適セザルモノカ以上ノ二個所ニ比スレバ牡蠣ノ著生成育共ニ良好ナルハ第一號試驗地ニアリテ本年度中經過ノ最モ好果ナリシ處トス尙今後ノ經過ヲ見最終ノ結果ヲ報告スルコトアルベシ

三、伏老 はいかい(又ちんみ)

伏老ハ軟体動物辨總類中全柱類ニ属スル介ニシラ灣内水淺キ泥底ニ棲息スあかはいニ似テ形甚小サク大大ルモノハ大サ一寸八分ニ達ス雌雄異体ニシテ夏季産卵ス産卵季出后始メテ眼ニ觸レ採收スルモノハ大サ胡麻粒大ナリ以後一ヶ月ニシテ小豆粒位ニ成育シ二ヶ月ヲ經テ大豆大トナリ一ヶ年ノ后ニハ銀杏實大トナル岡山縣兒島灣ニテハ是等ノ稚介ヲ採收シテ苗介トナシ養育ス瀬戸内海及九州東海沿岸ノ内灣ニ産シ岡山縣兒島灣ハ其特産ナリ從來盛ニ其養殖ヲ營ミ内地ノ需用ニ充テ又清國軍地方ニ輸出ス

伊勢内海ニハ從來之ヲ生産スルモ一局部(愛知縣熱田附近ちんめかいト稱ス)ニ止マリ我三重縣沿海ニハ多ク之ヲ見ズ然モ其蕃殖ニ適スルノ地乏シカラズトス之ヲ以テ本場地ヲ志摩郡桃取村地先ニ選ビ種介ヲ岡山縣兒島灣ニ取り本年度ニ於テ之ヲ放養シ其蕃殖ヲ謀リ成育ノ如何ヲ試験セントス

桃取海中養殖場

地勢及養殖場狀況

志摩郡桃取村字荻谷灣ニアリ三面山ヲ以テ圍繞シ灣口ハ西方ニアリ伊勢灣ニ面ス廣袤四萬七千五百九十七坪灣内水清ク静カニシテ海水ノ比重一、〇二〇内外アリ伊勢灣海水ノ變化ニヨリテ其影響ヲ受クルノ外甚シキ變化ナシ潮沙ノ差約六尺アリ水深ハ滿潮時四尋以内アリ三尋以内ノ個所最モ多シ水底一面ニ灰白色ノ泥土ニシテ泥深一尺乃至五尺アリ沿岸ノ沙礫ヲ距レバ一様ニあじもヲ發生ス但其中央海筋ハ之ヲ生セス此地ニ接息セルモノハなまこ、ひとで、ニシテくらたひすゞき、たなご、いわし、ぼら等ノ如キハ期節ニ至リテ來游ス鴨ハ毎年十二月ヨリ二月迄ノ間ニ群來ス放養地ハ灣内中ノ一部ヲ撰定セリ其區域狀況左ノ如シ

- 第一區 灣ノ北部ニアリ滿潮時水深二尋半泥底ニシテ泥深五尺あじもヲ生ジ海鼠、ひとでヲ産ス區域ハ東西十間南北三十間即三百坪トシ此區域間及其附近あじもヲ除去ス
- 第二區 灣ノ東部ニアリ滿潮時水深一尋泥底ニシテ泥深二尺十間平方即百坪ヲ區域トシ一面ノあじもヲ除去セシメタリ

種介及放養

種介ハ岡山縣兒島灣產ノモノニシテ兒島養介合資會社ヨリ購入セリ三十四年二月二十日漁船ヲ以テ回送シ三月一日鳥羽港着三月二日之ヲ放養セリ荷造リハ水揚ノ儘一俵六斗余入ノ俵裝トシ俵ハ進ヲ以テ二重ニ包ミ縱横ニヨリ堅ク緊結セリ着荷后ノ伏老ハ頗ル健全ニシテ些ノ傷害アルナク斃死セルモノナシ左ニ種介ノ体力ヲ舉グ

種介ノ量	拾八石六斗三升
全大約粒位概數	二十六萬八百六十粒
壹升粒位	百四十粒
壹升ノ量	四百四十五匁

體長	最大 一、三三五	最小 〇、九七	平均 一、一六
體幅	〃 一、〇〇	〃 〇、七〇	〃 〇、八五
體厚	〃 〇、九五	〃 〇、六〇	〃 〇、七六
體量	〃 五匁六	〃 一匁八	〃 三匁二

而シテ伏老中ニハ約壹割二分ノ空殼ヲ混セリ放養量ハ左ノ如シ

第一區	放養率一坪四升	放養量 十二石四斗二升
第二區	全 一坪六升	全 六石二斗一升

放養當時海水ヲ檢測セシニ

伏老俵裝中ノ溫度	六、四(c)	水溫	七、五
氣溫	七、四	比重	一、〇二五

以上放養後ノ被害種介ノ蕃殖、成育ノ如何ハ之ヲ次年度ニ求メテ報告スベシ

四、紫菜 あまのり

第二回試驗

前年度ニ續キ第二回試驗ヲ施行セリ築場ハ前年度ノ試驗結果ニヨリ改メテ第一區第二區ノ二個所ニ於テシ粗朶ハ檜櫟栗女竹及雜種古粗朶ヲ用ヒタルモ前年ノモノニ比シ小材ニシテ根回リ三寸長五尺ノモノヲ用ヒタリ

築立

築ハ三十三年十月九日ヨリ十三日間ニ建設シ第二區ノ建設ヲ終ラサリシ殘部ハ一朝時ヲ晚レテ樹立シ終レリ築立法ハ前年ニ於テ故障ナカリシヲ以テ其例ニ倣ヒタレハ茲ニ畧ス其區域數左ノ如シ

第一區	區別	種類	面積	積數
第一號	櫛舊粗朶	四十五坪	二百四十株	
第二號	櫛舊粗朶	全	全	
第三號	栗舊粗朶	全	全	
第四號	櫛新粗朶	全	全	
第五號	櫛新粗朶	全	全	
第六號	栗新粗朶	全	全	
第七號	女竹	全	六百二十四株	

ハ物坪數百四十三坪ニシテ雜種粗朶七百貳拾株ヲ樹立ス

第二區

籾立后紫朶胞子ノ發生幼朶ノ着生ニ至ル迄即十月一日ヨリ十二月ニ至ル氣象ハ別表ノ如シ海水ノ比重ヲ左ニ示ス

月日	第一區			第二區		
	氣溫	水溫	比重	氣溫	水溫	比重
十月一日	二五、六	二二、〇	一、〇〇〇
十月十一日	二〇、五	一八、五	一、〇〇〇
一月廿二日	一〇、五	一〇、〇	一、〇一八	一〇、五	一〇、八	一、〇一八
二月五日	四、六	八、七	一、〇二〇	三、五	七、三	一、〇一八

籾立后ノ經過紫朶ノ着生

籾立后紫朶着生ニ至ル迄ノ天候ハ氣象表ニ示ス如ク靜穩ナリシヲ以テ籾場ニ障害ヲ受クルコトナク漸次「ヨコレ」ヲ附着シ
 亞テ青苔幼朶ノ着生ヲ見一面青色ヲ呈スルニ至リ第二區ニ於テ其着生甚シキヲ見ル「ヨコレ」ノ附着多キハ櫛ニシテ櫛朶
 之ニ次ギ竹ハ最モ少ナシトス紫朶ノ幼朶ハ十一月二十日第一區ニ於テ始メテ之ヲ認メタルモ第二區ニアリテハ未ダ眼ニ
 觸ル、モノアルヲ認メズ第一區ニ認メタル紫朶ハ長二分ノモノヲ大トシ櫛新粗朶ニ最モ早ク之ヲ見亞テ櫛朶ヨリ古粗朶
 ノ櫛朶順次目ニ觸ル、ニ至リ竹ハ最モ晩レタリ以上ノ事實ニ依テ見レバ十一月中旬ニ於テ已ニ紫朶胞子ノ着生ヲナ
 シタルモノナルベク而シテ着生ノ量ハ前年ニ劣ル處ナシ

紫朶着生后ノ經過及成育

紫朶着生以后ノ天候モ亦多ク靜穩ナリシヲ以テ籾場ニ被害ナカリシモ十二月九日ノ北風ハ竹籾ニ少シク障害ヲ與ヘ其他
 ノ籾ハ僅ニ一二株ノ脱流アリシノミニシテ直ニ修理セシメタル外發殖期間中特殊ノ被害ナク只竹籾ハ風波ノ爲メ漸次脱
 流シ或ハ折ラレ其終期ニハ僅ニ十分ノ一ノ竹籾ヲ見シノミ紫朶幼朶ノ發生シテ以后始メノ中ハ其成育良好ニシテ十二月
 十二日ニハ已ニ登寸餘ニ成長シ一月二十二日ニ至リ始メテ其抄製ニ着手スルニ至リ以後毎潮時採收シ前後四回之ヲ製造
 ヲ行ヘリ然レ本年成育ニ於ケル紫朶ノ成育ハ甚ダ不良ニシテ殊ニ第二區ハ第一區ニ比シ着生遅カリシ爲メ採收ニ一潮時
 ヲ遅レタリ成育ノ良効ナリシハ二月上旬迄ニシテ以後幼朶ノ着生多キモ成育遅タトシテ進マズ爲メ二月下旬其採收ヲ
 止メ三月ニ入リテ採收セリ三月下旬ニハ紫朶ノ繁殖成育共ニ劣リ多クハ二寸内外ノ成育ニ止マリ大ナルモ三寸内外ニ過
 ギズ之ヲ以テ四月上旬ノ採收ヲ限リ全ク粗朶ヲ採取リタル其採收量ハ下ノ如シ